○複写

始

尾久要覧

534-61

目次

緒言……一
尾久の過去及將來……三
尾久地理……四
沿革……五
町治……六
交通……九
財政……一〇
町役場……一一
産業……一二
町農會……一三
商工業……一三
教育……一四
兵事……一六
消防……一七
通信……一八
警察……一九
衛生……二〇

諸團体……二二
尾久青年會……二三
尾久信用組合……二五
自治會……二七
營業組合……三二
神社佛閣舊蹟……三五
町の權威者……四一
特別後援者……四七
後援者……五三
主ナル會社工場……五五
著名ナル商工業者……五九
主ナル會社工場製作所(其の二)……八二
附言……九八
興業の今昔……九九
娯樂機關……一六七

大正 14. 4. 8 内交

祝發刊

北豊島郡長 服部良太郎	瀧野川町長 榎本初五郎	東京府會議員 弁護士 林　連	日暮里町長 岡田鎌市
東京府會議員 有馬淺雄	南千住町長 岡崎直大	東京府會議員 小泉金之助	三河嶋町長 山口久太郎
西巣鴨町長 佐々木貞七	佐和秀桂 上尾久小台	東京府會議員 榎本銈太郎	本橋元治 上尾久熊の前

緒言

◆尾久町が過去十年間に於て世運の進轉と、人文の發達は殆んど隔世の感があると且つ最近に於ける尾久の生産界其他に異常なる活躍の跡を辿りて、之を汎く紹介するの切要なるを認め、町勢の各般に亘る最近の事業施設經營と並に町理事者、名譽職自治會及ひ、主なる會社工場各種の商店の信用狀態を網羅する册子の編纂を企圖し、茲に「尾久要覽」を出版したる所以なり

一、本書は出版の期間短急なること、記述簡明直載を旨としたるため文意蕪雜、字句の洗鍊に缺くる所あるも、そは編者不肖の致す所、殊に內容の不備に就ては各位の斧正を仰ぎ、他日商工信用錄の新刊完成を見んとするの前提たるものなり

一、本書は主として大正十三年末現在の調査に據りて編述したるものにて、統計數字の如き能ふ限り同年調査に因れりと雖時には前年度の調査によれる

ものあれば何年調査の文字を挿入して年度を明示するこゝゝなしたり

大正十四年三月

藤城素舟識

尾久町の過去及將來

◎當尾久町が最近急速の發展を爲したる事は何人と雖驚異に價することであろう？これは東京市の大膨脹がその基因を爲したることは勿論なれど、王子電氣軌道の開通に始まり、ラジウム鑛泉の發見と相俟て東京郊外の樂園地として溫泉旅館の設置整ひたると、當町大部分が荒川沿岸なる關係上水運の便を占め商工業の發達を促し、又荒川放水路の完成により當町一帶が昔日の如く洪水の厄を蒙るの憂を免かれたるものは主なる原因であらう。

向後の尾久町は交通機關の完備は第一であるが、荒川天然の地形を利用して之れに人工を加へ、一大運河を引入れこれを大貨物驛たる田端停車場まで開鑿し以て船揖の便を圖ることが交通運輸の急務であらう、尙進んで環狀線たる三河島より山谷を經て王子に至る新路面の放射線路として、下尾久より熊の前の渡船場、田端より小台渡しに到る、幅員六間以上の整頓せる道路を新設し當町主基の街路としてこれを功成せしめ新交通機關たる自動車の操縱に遺憾なき程度に設備し、以てより以上の商工業の發展と土地の向上を計らねばならぬ、其他衞生上については上下水の完備を速ならしめ、人口稠密に伴ふ所の衞生上の危憂なからしむることは保健上よりの急務である、幸ひ町理事者町會議員諸君其他各有力者諸氏が如上の設置と土地の發展に就いては極めて熱心に講究せられつゝあるを以て漸次實現の域に推移されて居るが。これが完成を期待しつゝある次第である。

尾久地理

◇本町は北豊島郡の東部に位し、東は同郡三河嶋町に接し、瀧野川王子町西南に隣し、北は荒川を經て南足立郡西新井村に相對し、東京市上野公園は日暮里町を距て僅か一里にして、町内東西一里余南北二十余町其形狀略ほ三角形を示せり、町内概ね平坦にして總面積は荒川の河原敷を除いて三百二十六町余歩あり、荒川の沿岸なるため水上の交通早くより開け、西南近くには東北本線大貨物驛たる田端驛を控へ東京市の大膨脹と共に發展の機運に向進しつゝあり。

古來本町は純然たる農村にして米麥外大根茄子葉菜類生姜等を產し、日露戰爭當時は村内戸數三百余戸其大部分は朝夕自已の生產に係る蔬菜を東京市内に鬻き居りしも、大正二年四月王子電氣軌道の開通と共に狀態一變し、加之大正六年以降經濟界の好景氣時代には村内到る處大小工場簇生し、從つて人口增加と共に商家の軒を竝ぶるに至れり、これを十年前に比すれば殆んど隔世の感あり。

明治二十二年町村制の施行される以前までは、上尾久村、下尾久村、船方村に分れて居たものであるが町村制施行と同時に三村合併して新たに尾久村となつたのである。

今大字として殘存せる小字を掲くれば

大字上尾久――神田　鬼島　船方前　後田　西馬場　四反田　宮の前　山谷　沼付　溝向　熊の前

東田島　石神　下田　十三房　江頭　秣場　同飛地

大字下尾久――蛭田　小沼　赤土　八ッ城　大門　豆田　江川尻　新田

大字船　方――向端　小橋

沿革

◇尾久建設の時代は今詳ならずと雖、應永六年の文書に武藏の國豊島郡小具郷内江戸金曾木三郎の事蹟と云ふのが載つて居るが、金曾木とは下谷金杉であらうから小具郷が當地であることは判斷が出來る、故に此頃は既に尾久の建設せられてゐる事は明かである、尾久が上下に分離された時代も又詳かでない。

明治元年武藏知縣事の支配に屬し同二年小菅縣に編入され同四年に至つて東京府の管轄となつたものである

上尾久

◇小田原役帳に太田新六郎知行の内八貫文江戸尾久伏舟方とあるは當町のことであろう、正保二年本村の過半は東叡山領となり、餘は幕臣阿部新左衛門、羽田鐵之助、大谷小右衛門、等が分知した、明暦三年伊奈半左衛門耕地の改正を爲し、寛延三年神尾若狹守、曲淵豊後守が檢地した、明治元年大政奉還となり知縣事桑山桂輔氏支配し、更に二年四月小菅縣に移され同四年東京府の管轄となつたのである。

上尾久は元來農村にして耕地は田畑相半はし米麥大根漬菜芋等を栽培された。

現在上尾久は東西三十町五十間、南北十一町二十間、周圍二里十町二十七間あり、總面積五十三萬四千五百三十七坪である。

下尾久

◇下尾久は古から北豊島郡屬して居たが鄉名は詳かでない、明治維新前八百七十余年長保年間には尾久の慧心ケ原と言はれた地であると言ひ傳へられて居る、德川以前に何人が領主として居たか殆んど知る由がないが、寛永四年以來は東叡山領地となり、以後は全く上尾久と同一經路を辿て來たものである。

下尾久は中等の地質であるが、水利良からざるのみか、荒川洪水の際は水を冠り常に水害を受けて居た。

現在下尾久は東西三町二十間、南北二十町五十間
總面積十六萬九千八百九十二坪である。

船方

◇船方は元舟方と書いたもので、小田原役帳には舟方とある、小田原役帳に江戸尾久伏舟方八貫文太田新六郎と記してあることは前述の通りて、元尾久村から分れたものである、御打入後御領地に屬し其後東叡山領となつたのである。

面積は一萬八千七百五十九坪である。

當町は明治初年の當時村役人は石井清八と言つて元名主で大小區制度時代には名主を勤めた人である。
明治十一年區制度を廢し郡區編成となり、戸長役場を置かるに到つた、それ以來の戸長は左の通りである。

自明治十一年 至同十三年二月 石井清次郎
自明治十三年十二月 至同十七年四月 三橋定吉
自明治十七年五月 至町村制施行 小泉金太郎

町治

◇當町が大正十二年四月一日町制施行に至るまで、茲數年のうちに急速の發展を見たるものは、會社工場商工業の勃興せると王子電氣軌道の施設等によることは勿論なれども、一面には町理事者其他の有志諸氏が常に町の發展のために、住宅の改善に、道路の改修に專心努力せられたる賜と言ふべきである。

（戸口）當町の戸口を今古に逆つて見るに

明治二十五年度には

上尾久村	一五一戸	八九一人
下尾久村	八九戸	五一七人
計	二四〇戸	一四八〇人

大正元年	五五七戸	二五八三人
同 九年	一、二〇三	五二三一
同 十一年	三、一二三	一〇七八六
同 十三年	九、一七三	三〇〇一二

◆建物增加の趨勢

年度	建物棟數	建物坪數
大正五年	九一七	一七、二五五
同 七年	九八六	一九、九三三
同 九年	一、三五〇	三三、〇六六
同 十年	一、四五〇	三六、一二〇
同 十一年	二、五二九	六二、五大二
同 十二年	三、七七三	六六、三七二

歷代の村町長助收入役

◇明治二十二年町村制施行と共に上尾久下尾久船方の一部（一部は王子へ合併）を加へて茲に尾久村が成立し舊戸長なる小泉金太郎氏が推されて一回の村長と成つたのである。

◆村 町 長

自明治二十二年六月 至同三十四年六月（三期間）	小泉金太郎
自同三十四年六月 至同三十九年五月	三橋周之助
自同三十九年五月 至現在	鈴木重三郎
自同四十年五月 至同四十二年三月	石井清八
自同四十二年四月 至大正十年四月（三期間）	三橋周之助
自同十年四月 至同十一年八月	鈴木重三郎
自同十一年八月 至現在	中西銈也

◆助 役

自明治二十二年六月 至同三十四年六月（三期間）	石塚新之助
自同三十四年六月 至同三十七年九月	手島次郎吉
自同三十七年九月 至同四十年五月	石井清八
自同四十年五月 至同四十五年五月	淺岡亞橘（有給）
自同四十五年五月 至大正十年六月	鏑木氏香（有給）
自同十年六月 至同十二年六月	三橋周之助（名譽）
自同十二年六月 至現在	關口常右衛門（名譽）

右の如く明治四十年五月有給條例を設定し第一の有給助役として淺岡氏就任し大正十年五月定員を二名に增し一名を名譽職とすることに定め現在二名を置く筈である。

◆收 入 役

自明治二十二年六月 至同二十六年六月	小泉金右衛門
自同二十六年六月 至同三十年六月	石井清八

自明治三十年七月　三橋周之助
至同三十四年六月（村長に就任）
自同三十四年六月　鈴木重三郎
至同三十九年五月（村長に就任）
自同三十九年五月　三橋仙太郎
至同四十一年四月
自同四十一年四月　野島庄三郎
至同四十一年十二月（死亡）
自同四十一年十二月　鈴木重三郎
至同大正十年四月
自大正十年四月　正木米吉
至現在

◆町會議員（拾八名）

大正十年五月三十一日選出の現町會議員は左の諸氏である。

小泉金之助　小泉卯三郎　關口常右衛門
正木捨九郎　田中與左衛門　齊藤伊助
三橋元吉　鈴木德三郎　富岡儀兵衛
（以上二級）
田中榮次郎　石井彌吉　野島平太郎
三橋賢一郎　山本要藏　石井善次郎
小泉喜左衛門　伊奈葉安五郎　瀨田嘉吉
（以上一級）

◆委員

現在學務、土木其他委員は左の諸氏である

◆學務委員　十名

小泉喜左衛門　野島平太郎　齋藏伊助
正木捨九郎　石塚彌兵衛　關口已之吉
彦根馬吉　小原半藏　正木勝五郎

◆土木委員　十五名

鈴木岩五郎　鈴木金太郎　江川市太郎
鈴木福次郎　富岡龜次郎　伊藤彌三郎
田中孫太郎　小林彌三郎　田中又吉
小原半藏　小原吉太郎　正木勝五郎
小泉忠吉　高尾市郎兵衛　小泉權三郎

◆衛生委員　十名

鈴木文吉　三技清五郎　德岡吉次郎
鈴木松之助　田中三藏　田中常吉
石神寅吉　小泉卯三郎　深井金太郎
彦根六三郎

◆九番分水組合議員　八名

田中榮次郎　野島伊三郎　野島平太郎
田中孫太郎　齊藤伊助　鈴木文吉
瀨田嘉吉　田中與左衛門

◆拾番分水組合議員　四名

小泉卯三郎　小原吉太郎　正木勝五郎
小原半藏

◆郡長管理下用水組合議員　參名

野島平太郎　田中榮次郎　小泉卯三郎

◆江戸川上水町村組合議員　二名

三橋周之助　鈴木重三郎

◆東京隔離町村組合議員　四名

中西銈也　山本要藏　關口常右衛門
伊奈葉安五郎

◆郡會議員

自明治三十二年　三橋周之助
至同三十六年
自同三十六年　石井清八
至同四十年
自同四十年　三橋周之助
至同四十四年
自同四十四年　鈴木重三郎
至大正十二年三月

交通

▨本町は王子電氣軌道が町内を貫通し、東は三河嶋町を經て東京市電三の輪に到り、西は王子巢鴨を經て東京市大塚に連絡す、鐵道は町内を通過せざるも東北本線は殆と瀧野川との境界線を併行し、日暮里田端、王子各停車場何れも十數町に過きす、北方一帶は荒川に沿ひ三個所の渡船場があるのみで對岸方面との交通稍不便であるが水運は非常に便利である

町内の道路は未た完全でないが、町理事者町内有志の努力に依つて其の幅員や路面も漸次改良されつゝある

◆道路

▨本町内を東西に通する府道延長一里十三町余と幹線として、他に町道九十三線が縱横に走つて居る。其主なるものとしては

◆草加間道　王子船方から町内小台の渡船場に至り對岸江北村に到る延長二百九十間

◆尾久道　前者から分岐し町内に貫通して三河嶋町に通ずる延長一千間

◆田端道　尾久道から字山谷を經て瀧野川町田端に通する延長四百二十六間

◆日暮里道　日暮里から下尾久を經て荒川新渡しに至り千住に通ずる延長一千二百七十間

◆環條線　三河島町子ノ神より下尾久、山谷を經て王子に通する新設環條本線路（工事中のもの）以上環條線を除くの外道路の幅員は二間以上である

◆王子電氣軌道

◆王子電氣軌道株式會社の經營する電車線路は三

の輪から發して、本町内を貫通し王子飛鳥山下に至るもので大正二年四月一日開通し、本町内に五ヶ所の停留所（船方前、遊園地前、小台、熊の前、下尾久）を設け當町唯一の交通機關である。

◆水　利

◈荒川は源を武藏國秩父の山谷に發し熊谷を經て豊島、足立兩郡の間を流れ本町の北部を隅田に下流し、船輯航行の便利を與へて居る。

財　政

◇明治初年頃に於ける本村の經費等は何等記錄に殘されたものもないので知る由もないが町村制施行以來のものを一二摘記してその趨勢を知る便としやう

□歳　入　（明治二十五年度）　八八二圓

□歳　出　經常　七七一　臨時　一一〇　（明治三十年度）　一、〇七七圓　一、〇三七　四〇

◈最近に於ける歳出入の内譯を示せば左の通である

□歳　入　（單位圓以下切捨）

科目	大正十二年度	大正十三年度
一手數料及使用料	八、八九五圓	一四、九三〇圓
二國庫下渡金	二、〇〇〇	四、九九六
三交附金	二、二三五	二、八三五
四補助金	二三〇	七六五
五繰越金	五、四六五	二、〇〇〇
六雜収入	一、九四六	三、〇四八
七村（町）税	八八、五七七	一一七、一六二
八寄附金	—	八〇〇
合計	一〇九、三六八	一五六、四八〇

□歳　出　（經常部）

科目	大正十二年度	大正十三年度
一役場費	二四、七五六圓	三三、九五六圓
二會議費	四六六	四六六
三土木費	二四、八〇〇	三六、〇〇〇
四尋高小學校費	三三、〇二四	二八、九〇〇
五西尋常小學校費	一四、六三四	二〇、三三六
六赤土尋常小學校	—	一五、一四二
七實業補習學校費	一六七	一六七
八傳染病豫防費	一、一五〇	一、四一〇
九衞生費	一五〇	一五〇
十警備費	二、四六六	三、七六一
十一積立金	二五〇	—
十二財産費	一、一七〇	一、七三〇
十三諸税及負担	五、〇三三	六、六三五
十四神社費	六〇	六〇
十五雜支出	六四四	九四四
十六豫備費	二、七八〇	四、一三四
十七土地改正費	一三〇	—
計	一〇四、六五九	一五一、九七一

□歳　出　（臨時部）

一繰入金戻金	四、九五七	九五九
二補助費	一八〇	二七〇
三公債費	—	二、七八〇
四表彰費	—	五〇〇
計	四、六七九	四、五〇九
歳出合計	一〇九、三六八	一五六、四八〇

右は總て豫算書によつたものである、尚ほ各科目の合計が表面に表れたる合計に足らぬのは圓未滿切捨たるによる。

◆町（村）税額

右表中の町（村）税の項目の内譯を示せば左の通り

科目	大正十二年度	大正十三年度
一地租附加税	二、四五二圓	二、五七八圓
二國税營業税附加税	一三、三九五	五、三二七
三所得税附加税	七、〇〇〇	二、五八八
四家屋税附加税	五九、二〇〇	七二、四七六
五府税營業税附加税	二、五〇〇	三、七四四
六府縣雜種税附加税	四、〇〇〇	二、八〇一

右の課税率は第一項宅地租本税一圓につき二十八錢、其他は一圓につき六十六錢、第二項は營業本税一圓につき四十七錢、第三項は本税一圓につき十四錢、第四項は本税一圓につき一圓、第五項は一圓につき一圓、第六項も一圓に對し一圓を附加するものでである

但し大正十三年度は前後期分にして隨時收入に屬するものは一切計上せず

◈國府税の納付額を示せば

	（大正九年）	（大正十年）
國税	一三、四一三	一八、八七六
府税	四九、四一一	八〇、八七七

町役場

◈町役場は町の中央に位し上尾久熊の前電車停留場

前にあり、木造瓦葺二階建の西洋館である、大正二年八月新築されたもので大正十二年更に增築擴張を行つたのである（同十四年改築增設中）

現在の吏員は

幹部	町長	中西銈也	
同	助役（名譽）	關口常右衞門	
同	收入役	正木米吉	
庶務	書記	杉田義衞	
同（勸業統計 社神）	同	森孝則	
同（衞生 警備）	同	越川丑之助	
同 學事	書記補	上山嘉平	
同	臨時雇	加藤保藏	
同兼稅務	書記	清水元隆	
兵事	同	清水嘉一	
戶籍（本籍）	同	若林多七	
同	書記補	沼野井榮	
同 寄留	同	鈴木岩次郎	
同	臨時雇	北向隆文	
稅務	書記	小林甚一郎	
同	同	瀨沼伊兵衞	
同	同	鳴門綠夫	
同	書記補	境藤三	
同	同	松井久藏	
同	同	柏原要太郎	
同	雇	手島貞次	
同	臨時雇	簗義明	
同	同	有門寬治	
會計	書記	香川昇	
同	雇	小泉紋左衞門	
同	臨時雇	坂本英一	
土木	技手	若松吾一	
同	技手	小川一	

産業

本町は前述の如く古來純然たる農村であつて、土地の八九割までは田畑であつたものであるが、王子電車の開通と共に狀態一變し到る處に大小工場簇生するに及んで工業地としての發展は素晴しいものである。

◆農業

本町の土地は最上と云ふ程ではないが良好の方で田は米畑亦た麥及び蔬菜の栽培に適し殊に蔬菜は大消地たる東京市を控へ販賣有利の地にありしため從來より多大の產額ありしも、十數年前より東京市の人口增加に伴ひ其需用益々增加したると水田は屢荒川氾濫の災厄を蒙るに反し、蔬菜の栽培は期間短く資本の回收速く、且假令多少の災害あるも恢復容易にして、經濟上有利なるとにより一齊蔬菜の栽培を盛大ならしめたり、從つて斯業に對する技術漸く進み年中間斷なく之を產し生活上多少の余裕を生ずるに至れり、併しながら現在に於ては田畑は漸次工場住宅の敷地と化し、益々面積を狹められ、從つて之等の產出を見るを得ざるに至つゝあり

◆町農會

明治三十年四月初めて村農會を組織し、同三十三年勅令農會倒に基いて組織を改め、同三十九年更に規則を改正して今日に至つたものである。

本會は尾久町農會と稱し役場內に事務所を置き農事改良發達のため講話會品評會病虫害驅除等種々の事業を行ひ來つたが、前述の如く町の發展と共に農耕衰微して今日では余り其の用をなさぬ形となつたのである。

現役員としては

會長　中西　鐵也

委員　田中榮次郎　石塚彌兵衞　小原　源藏

關口已之吉　野島平太郎　小泉卯三郎

の七氏である。

◆商工業

封建時代に於ける累世の藩治は農を以て政治の要諦となし商人ありと雖、一村の天地に甘居して、弘く天下の大勢を知る事なく商權の範圍亦自ら縮少され一村民相手の小賣業者に過ぎざし觀ありたり、然るに明治大正の新時代に入りて道路の改修、鐵道の敷設等交通機關の整備は產業の發達を促し、加ふるに大正二年四月王子電車の開通と共に急速の發展を見るに至り商工業の勢力範圍は漸次に擴張せられ、銀行會社續出して商運を援くる等舊態頓にに革まり、農家は漸く減少して商工業家益々激增を來しつゝあり。

商業上の施設として銀行、會社あり、各營業組合あり、或は商工會ありて互に金融講賣販賣の能率增進に努めつゝあり

教育

◆尾久尋常高等小學校

古へは各所に寺小屋と云ふ學舍があつて、讀書、球算位を敎授するに止まつてゐたものである。

明治維新と共に當局者は敎育の最も大切な事に留意し、明治五年太政官布告を以て學制が布かれ、同時に學事奬勵を仰出され之を公布して、學校敎育の必要なる事を世に御示しになつたのであつた。

當町内にもその以前から敎育機關として華藏院外一ケ所に寺小屋の類があつて、村の幼い人達はそこへ通つて手習等をしたものであつたが、明治九年五月閉校され同十一年に至つて田邊島と云ふ人が新たに華藏院を借受けて、同年一月十九日私立田邊小學校を開設した。

明治二十年至りこの華藏院を更に九坪程の增築を行ひ公立の尾久小學校として十一月十三日開校式を擧げ、前の校主田邊島が校長となり、王子小學校から吉田重次郎と云ふ人が轉任して、二人の先生で兒童を受持つたのである、その當時の管理者は戸長の小泉金太郎氏であつた。

當時の校舍は敎室僅か二室、二十四坪に過ぎなかつた、之が今日の尾久尋常高等小學校の第一歩である

明治三十七年九月是迄の校舍では狹隘を感するやうになつて上尾久字東二六七五番地に二百六十坪を借受け木造瓦葺四敎室の校舍、三坪半の敎室、二坪半の小使室、十坪の体操場等を新築し十一月一日移轉開校の式を擧げた、當時の職員は前記二名と童兒七十九名であつた。

明治三十四年七月高等科二ケ年の併置を認可され、校舍を增築し新に校長として鈴木長造氏赴任し、前の田邊、吉田の二氏はその下に敎鞭を採ることになり、九月一日から高等科の敎授を開始した、生徒數は男八七、女六八、計百五十五人に增加した。

明治三十九年高等補習科を置き、四十年十二月同補習科を廢し高等科三四年を置き、更に校舍を增築し四十一年四月義務敎育年限延長と共に高等科の年限も變更された、當時の兒童數男一六〇、女一一七、計二百七拾七名であつた。

大正五年には職員校長以下九名生徒總數四百三十三人、內尋常科男二〇七、女一九九、高等科男十八、女九人である。

大正六年四月校舍狹隘のため尋常一學年に二部敎授を行ふの止むなきに至り、同八年九月新に地を上尾久二五〇〇番地に卜し總費用三萬三千四百八十圓を以て校舍を新築し、九月十九日移轉落成式を擧行した、新校敷地は一千五百九十八坪、校舍二階建總建坪延三百七十八坪五合、敎室十一、敎員室一、其他宿直室小使室等で、兒童總數六百八名であつた。

大正十一年一月更に二階建九敎室を增築したが兒童數の激增に尙敎室の不足を感じ、三學年以下の學級には二部敎授を行はねばならない狀態となつたので更に上尾久の西方に二千六百坪の地を卜し、四万七千余圓を投じて尾久西小學校を新築し十二年四月一日より同校を見るに至り、茲に二部敎授の厄を免る、に至つたのである、十二年度末には學級數二十七兒童男六八一人、女六七一人の多數である。

大正十三年二月更に下尾久赤土に二千坪の地を卜し工費二万五千圓を投じて赤土尋常小學校を新築したのである、大正十三年度末に於ける兒童數は男五〇七人女四九二人である。

尙更に大正十三年四月に至つて下尾久大門に數地二千坪を卜し、壹萬五千圓の費用を投じて大門尋常小學校を新築した　同校は尾久尋常高等小學職の分校である。

◆尾久尋高小學校（大門分を望む）職員は左の通りである

校長	西山富次郎	訓導	家富　勇
訓導	櫻庭省三	同	松本義男
同	吉野一郎	同	盛　秀二
同	大沼喜久治	同	中丸義三郎
同	神　正二	同	岩崎清子
同	白川貢	同	吉田なかよ
同	佐藤峰松	同	木戸田すて
同	細島洋三	同	谷口まつよ
同	岡田儀一	同	中込きくじ
同	上野正直	同	小林美代壽
同	內藤榮次郎	同	倉橋かつ
同	東　岩美		

◆赤土尋常小學校職員左の通り

校長	安島久米男	訓導	深谷實
訓導	橋本富次	同	淵上正
同	本多一郎	同	川原かね
同	瀧田源九郎	同	飯塚清

訓導　唯野ミサオ　訓導　秋山てる
同　高橋タカ　同　廣瀬省三九
同　白崎賢造　同　平泉サキ

◆西尋常小學校の職員左の通り

校長　豊田春陽　訓導　島憲治
訓導　平野實　同　豊田利正
同　青木房治　同　仁科きい
同　今方重一　同　長田はるの
同　金田義一　同　筒崎セツ
同　縫島茂滿　同　山下ナミ
同　久澤實因　同　宮原文子
同　小泉三二郎　同　井上貞子
同　渡邊惠久　同　寒河江ふく
同　松井只治　同　稻垣禮子

◆實業補習學校

☒明治二十年頃より學校か職員の宅で村内の青年集つて、十一月から翌年三月迄を期間とする青年夜學會とでも云ふべきものが、毎年開かれ讀書、算術等を修めて來たが、明治三十七年正式の夜學會なるものを組織し、各職員や役場の書記等が交代に出て教授をなした、それも三十八年には中絶し、四十二年再興を見るに至つたが其後本町の發展に伴ひ、商工地ならんとするに鑑み商業に從事するものに實際の智識と人格とを養はしめんために「商業補習學校」を設置するに至つたのである。

◆有終會

尾久尋常高等小學校職員相互の親睦と研磨とのため組織された會である

兵事

☒當町に於ける大正十三年末現在の在營者は左の通りである。

歩兵　五名　騎兵　二名　野砲兵　一
重砲兵　二名　工兵　一名　輕重兵　一名
輕重輸卒　一名　衛生部　一名　水兵　七名
合計　二十名

◆在鄉軍人會尾久分會

☒本會は明治三十六年創立したものであつて本郡としては卒先の產聲を擧げ、分會としては亦最も古い歷史を持つてゐる、その當時の組織が名も在鄉軍人團と稱し、團長には現町會議員小泉喜左衛門氏であつた。戶數の如きも僅か三百の一寒村に過ぎなかつたにも不拘當時八十余名の團員を有し彼の日露戰役後財界の不況時に當つて熱心なる奮鬪を續け、あらゆる困苦と戰ひ基本金の募集を行ひ本會の基礎を確立すべく專心最善の努力をしたのである。

一例を擧げれば役員は全部連日深更に到るまで炊出をなして戶別訪問の傍ら寺院に於て講演會を開催して一般村民の自覺を促し且つ同情に訴へたのであつた。其効遂に空しからずして今日の基本財產を得るに至つたのである、而して小泉氏の後任には石塚彌兵衛氏次て鈴木德三郎氏前會長關口常右衞門氏を經て現に小泉權三郎氏その後を襲ふたのである、關口氏は本町の名譽助役として就任された結果餘儀なく會長の職を辭したのであるが、同氏の在任中には幾多特筆すべき實蹟がある、中にも消防器具の不備を痛感され大正十一年末自動車ポンプ購入のため役員が二ヶ月余に涉る熱心なる努力に依つて之を達成し本町に寄附せし如きは分會の事業として難事であつたが、如何にその効顯著であつたかは冗言する迄もない、更に又一昨年の大震災に際しては衆に先んじて團体統一訓練宜しきを得たるは日頃の抱負を遺憾なく發揮したのであつた、尾久分會は現在第一班より第六班までに分れてゐる、そして現在の役員は左の諸氏である。

分會長　小泉權三郎　監事　田中新之助
副分會長　野島健一郎　第一班長　三枝久策
主任理事　小原半藏　第二班長　小林又吉
理事　堀內慶次郎　第三班長　田中金右衞門
常任監事　清水嘉一　第四班長　村田與三郎
監事　石塚新之助　第五班長　小林藤助
同　深井金十郎　第六班長　齊藤鶴之助

消防

☒尾久町も人家は非常に稠密になつて來たので消防の必要なることは云ふまでもない。

當町に消防組の組織されたのは明治三十九年三月で總人員は組頭一、小頭八、消防手八〇で四部に分れ

てゐた。

大正十一年十月在鄕軍人分會の力で二十五馬力の自動車喞筒を購入し大いに威力を加ふるに至つた。

是れ迄の組頭となつた人々は

第一次　小泉喜左衞門　第二次　田中瀧藏
第三次　三橋岩吉　第四次　鈴木榮太郎
第五次　小泉喜平次、の諸氏である。

大正十三年九月警視廳の指令によつて更に公設消防組が編成され、全部を三部に分ち組頭は全体を統率し、第一部は東と山谷、第二部は下尾久と原、第三部は西と云ふ具合に區分され、各部に部長一名その下に小頭を置き何れも消防手と共に作業從事することになつてゐる。

役員並に配屬の**ポンプ**等左の如し

組頭	小泉喜平次	第一部附屬機械
第一部長	鈴木音次郎	自動車**ポンプ**一台
自動車附小頭	野島廣吉	
同 小頭	石塚新之助	**ハンドポンプ**二台
ハンドポンプ附小頭	齊藤榮次郎	
同 小頭	加藤德右衞門	
第二部長	鈴木長次郎	小頭 小原市五郎
小頭	小泉金次郎	
第二部所屬機械	**ハンドポンプ**	二臺
第三部長	石井房次郎	小頭 田中吉五郎
第三部所屬機械	**ハンドポンプ**	一臺

通信

◇當町は王子瀧野川と共に王子郵便局の管内にして家屋の粗密と郵便物の數とにより、王子瀧野川を市内とし一日四回配達、尾久町は市外として一日三回の配達である。

當局の開局されたのは明治十八年十一月で、四十三年七月特定三等局に指定され大正十二年三月一日から二等局に昇格された、局長林廉人氏二月二十八日辭職して、三月一日小竹幹三郎氏が就任した。

同局管内尾久の郵便物數の一、二を見るに左の如くである。

大正二年には　引受一、〇九〇、五四通　配達一、五二三、二四通
同十一年には　引受七、四四二、九八三通　配達六、五〇五、八〇五通

◇尾久局

當町の人口增殖に伴ふ郵便物數の增加は郵便局開設の必要を促し、大正十年五月一日小泉喜左衞門氏局長として三等局が設置されるに至つた。

然るに人口益々激增に激增し郵便事務の繁激を加へために町の有志等相謀つて二等局增設の運動を起す等着々進渉しつゝあり。

今大正十年四月一日より十一年三月三十一日までの一ヶ年間尾久局の扱成績を表示すれば左の如し

	受入口數	受入金額 圓	拂出口數	拂出金額 圓
爲替	四、一〇〇	六四、二八六、二一	二、一〇六	三三、〇三三、一八
貯金	一〇、〇一六	一七八、九四七、九四	三、一〇〇	一二五、九七三、八〇
振替貯金	九〇八	四三、九二八、八〇	五二	二、〇八八、一二
國庫金	三	六一、二〇	八	一、七九七、九一
保險料	八〇一	六四八、五〇	—	—
年金恩給	—	—	二九	一、三七四、七五
債券利子	—	—	三八〇	三三五、七五
計	一六、三八七	二九七、五一六、五四	五、八六八	二九八、八六六、三三

警察

◇明治四年十一月東京府下には取締役なるものが設置され、府下を六大區分ち各所に邏卒屯所を設け取締に從事せしめたもので、當時北豊島郡は第四大區に屬し、少警視渥美友成が長であつた、次で七年東京警視廳が設けらるゝに至つて、一月二十九日板橋町乘蓮寺内に邏卒屯所を置き、第四大區の渥美少警視が監督の任に當り警部二名と邏卒六十名が配置され、上下板橋外十五ヶ村の警備に任せしめ、同年一月邏卒は巡査と改稱さるゝに至つた、明治八年五月には是迄の大小區を廢し、警視分廳が置かれ、板橋には第四分廳第七署が置かれたが、同年十二月には更に分廳を止め方面署と稱し、板橋は「警視廳第四方面第五署板橋分署」と呼ばるゝに至つた、十四年一月各方面署が廢され板橋分署と改稱され同年一月二十一日板橋町六九五に移轉され、上下板橋町外四十七ヶ村を所轄し、警察事務を取扱つたが十八年七月巡査屯所を警察署に合併し、屯所詰員全部を警察署に配置するやうになつて板橋町八九〇へ移された

◇明治二十二年同署の所轄區域は北豊島郡一圓と變更

され、同二十二年四月には北豊島郡の内當町及三河島町南千住三ヶ村は千住署の所轄に移されたのであるが、四十三年王子分署が設置され大正六年四月に至つて尾久村は王子警察署の管轄に移されたのであつた、後分署長兒玉警部の時代に分署は獨立して、王子警察署と稱するに至り、大正十一年十二月警視勝田誠一が署長として來任、廳舍狹隘なるより管內一般有志から寄附を募り王子六一三に六萬四千余圓を投じて廳舍を新築し、拾一年拾月同所に移轉した勝田署長同年十二月職を辭し後任として警視平國喜齊氏が赴任し、その當時大正十三年春尾久町一一五七番地に尾久分署を設置され第一次の署長には警部吉田菊松氏が赴任したが大正十三年九月吉田氏は警視廳に轉任し現在警部森山德十氏が署長として就任されてゐる。

現在尾久分署の定員は

署長警部　一　警部補　五　巡査部長　六
巡査　六七　である

現在尾久分署の幹部は左の如し

署長警部　森山　德十　警部補　渡來　律衛
警部補　山本　進道　同　天羽　清治
警部補　小山　寬治　巡査部長　木原　豊彥
同　渡邊清三郎　同　林　孝正
巡査部長　畑　五郎　同　宮本仙太郎
同　山本　盛進　同　草間　孝助

◆尾久分署管內に於ける巡査交番所の數は五ヶ所巡査駐在所は二ヶ所である。

衞生

☒現在當町の衞生としては、村制時代より施設を繼承して微々たる豫防設置に過ぎさるが町制施行に連れ推移に伴ふて、除々準備されつゝあるが特記すべき程のものもない、乍然町理事者並に各自治會に於ては警察署役場と協力して、傳染病豫防に關する施設に四時怠らない、時機に應した活動寫眞を映書し亦は衞生講演會を開演して、衞生思想の普及宣傳に努められてゐるが第一に考へらるべきは下水の完備と塵芥の始末等であらう。

◆傳染病豫防のためには郡立の傳染病院が設けられて此の種の患者を收容して居る。

今大正十一年中の患者及死亡者數を掲くることゝした。

	入院患者	全治患者	死亡數	自宅治療
赤痢	四	四	一	一
腸チブス	一二	一〇	二	一
ジフテリヤ	一	一〇	二	一二
疫痢	一	一	四	四

大正九年以來の死亡數を掲げ參考に供することとした。

◆死亡率

年次別	戸口	人口	死亡人員
大正元年	五五七	二、六六四	六四
同二年	六五五	二、九二八	六三
同三年	六六五	三、〇三九	六〇
同四年	六八八	二、九〇三	六九
同五年	六六三	三、一一三	八九
同六年	七二八	三、四二八	六七
同七年	八三七	三、八〇一	一一七
同八年	一、〇四八	四、八九四	一六二
同九年	一、三〇二	五、二三一	一八一
同十年	一、六四五	六、一〇〇	一七八
同十一年	三、一三三	一〇、七七二	二九九
同十二年	九、一七三	三〇、一二八	七六〇

町內に於ける開業醫並產婆數左の如し

內外科	二一名	齒科	一二名
獸醫	一名	產婆	四一名

何れも分居して治療に從事して居る。

◆日本藥劑師會東京支部　代議員　田中　好造
◆東京藥局會尾久部會　部長　小出　勝藏
◆北豊島郡藥業會　理事　田中　好造
委員　根本　佳守　同　小出勝造
◆尾久藥劑師會員　會長　田中　好造
幹事　熊倉勘一郎　同　安藤正夫
同　青木　健信　同　中村英一

會員

石川平治郎　西　作市　渡邊　愿
川田　四郎　瀧澤　彥一　津田春次郎
根本　佳守　山口卯三郎　政本　六郎
松倉市太郎　古井　雄作　小出　勝藏
坂井　義雄　佐川　正雄　森　長太郎
鈴木福三郎　鈴木　眞夫

◆歯科醫院

庄司　下總　門橋　岡部　森川　伊藤
小林　高橋　鹽谷　熊谷　井上　伊藤
各醫院等あり

◆病院及醫院

佐藤　瓜生　小澤　平澤　松江　伴
赤澤　田中　仙頭　宇都宮　田中前常
淺田　積善堂　小峰　天心堂　囘生堂　松田
方波見　山澤　各醫院等あり

諸團体

◇在鄉軍人分會については前述の通りであるが、其他町内の主なる團体に就て述べることにした。

◆同窓會

◇尾久小學校同窓會は明治四十一年一月廿八日發開せられ第一回の總會を擧行した。爾來毎年二回或は三回宛の總會を開いて今日に到つたのである、其目的は師弟の情誼を温め會員相互の親睦を厚くし智德の向上と共に母校の隆昌並に校内の良風作興に貢献するにあり、會員は母校出身者で之れに母校職員及母校關係者を以て客員とし、現在三百有余名の會員がある、其仕事としは後援會、運動會、兒童旅行會謝恩會、慰安會の開催及入退營兵の送迎貧困兒童就學援助、善行者の表彰、娯樂風紀の改善に關することである。殊に事業中特記すべきものを擧れば

◇母校に對して「ピアノ」壹臺を寄附したことである、これが爲め當時の幹事は非常に奔走し、柳生孝太郎氏、林松木氏の厚意に依り善後二回の音樂演奏會を開催して、其入場料を以てこれを購入し母校に寄附したものである、これがため十一年七月三十日東京府知事より表彰狀を下附された。

現在の役員は

會長西山富二郎　副會長鈴木重太郎　幹事以下同　櫻庭省三
田中三郎　彦根太一　溜田善一郎
石井文七　齋藤辰　戸田權四郎
三橋慶次　鈴木吉右衛門　小泉德次郎
田中三五郎　三橋應次　三橋幸三
野島兵太郎　田中傳十郎　田中金藏
關口治三郎　鈴木彌七　正木久彌
小泉彦太郎　高尾榮次郎　岩崎清子

近藤つる　江川金二　田中かね
石塚かね　鈴木やす　港ふみ
三橋さと　田中つる　田中きく
田中あさ　關口まつ　鈴木ふじ
林東子　戸田うめ　小原こと
大野繁子　大竹繁子

尾久青年會

◇尾久青年會は大正七年三月内務省訓令に基き青年心身の修養機關として創立されたものである、本會創立以前に下尾久に二葉青年會、上尾久に青年同志會なるものが町會議員一部の人々に因つて設立されたが由來農事多忙の爲め有名無實に數年を過き大正六年冬今の小學校が日本電機製作所の位置にあつた當時同窓會の常任幹事であつた清水嘉一、小泉茂八の兩君に依り時勢の要求として青年會の創立が計畫され屢ば同校を訪れ、若林多七、吉野一郎兩先生に自己の抱負を物語り茲に共鳴を得て兩氏の熱心なる指導後援の基に會則の作成を爲し清水、小泉の兩氏は農事多忙なる村内青年を訪つれて熱心勸誘力說し、初めて其人々に發企としての賛助を求め直ちに會員募集を行ひ翌大正七年三月三日同校に於て初めて創立發會の式を擧けたのである。

◇當時の發企人は左の諸氏である

清水　嘉一　小泉　茂八　鈴木岩次郎　三橋　佐吉
江川平次郎　小泉惣兵衛　鈴木安五郎　小原　安藏
林　嘉兵衛　田中權太郎　富岡松之助　伊藤　川安
田中新之助　彦根清一郎　中村八五郎　石井良次郎
小泉　米吉　爲井安太郎　田中卯之吉　鈴木長之助
齋藤鶴之助

◇當時會長に高橋校長を上け爾來順次に發展し三度會長の更迭あり、會の發展上會長の異動は面白からずとなし校長以外の者より會長を選擧することゝなり現會長三橋賢一郎氏を上けたのであるが當時は說二つに分れ暗鬪激しかりしも、清水氏等の調停に因り現會長三橋賢一郎氏が當選就任したのである、同氏會長に就任以來の發展は非常なもので大正十二年九月一日の震災の如きは會員全部が寐食を忘れて二ケ月に亘り救助警戒、配給の爲めに大活動を爲し府知事より感謝狀を送られ、亦一般町民の信望を集めたのである、其外公益事業に關するものとしての効

蹟尤も大なるものがある、先發會當時町内の重要個所七ヶ所に案内圖盤を建設して行旅の便を計り　又は重要なる村道に石炭殻を布き路面の改修を行ひ或は村内三百個所の地点に番地札を掲げ、亦は救護部を設け部員六十名を募りこれに水槽、提灯、非常線通過許可證を携帯せしめて幾多の火災に出動し、殊に大洪水に際しては會員の非常召集を行ひ、交通渡船に從事し又炊き出しを爲し食料品飲料水の配給及救助の爲め自身一家の安危を忘れて活動したのである。

◇青年會發會以來行つた事業は一々枚擧するに遑なき程であるが、其最も主なるものを二三擧けて見よう

◆智德修養に關するもの

名士の講演會開設、補習夜學校入學奬勵其他編輯部、辨論部設置し編輯部は會報の編輯發行を爲し辨論部は毎月七、十七、廿七日の三回演說練習會を開設して智德の修養に努めつゝあり

◆體育に關するもの

毎年一回夏期に於て見學登山旅行決行し、現に高尾山、筑波山、妙義山を踏破して居る、又秋季に於ては學校に參加して運動競技會行ひ特に体育部を設け野球科、庭球科、柔道科、弓術科、劍道科、乘馬科、競技科の七科目を置き主として体育方面に奮闘して居る

◆因に本會設置に對する功勞者として忘るゝことの出來ないのは清水、小泉の兩君である。

小泉君は或る事情の爲め中途退會の止むなきに到つたが清水君は曩に副會長野島氏辭任の際適任候補者として再三交涉を受けたが吏員の關係上堅く辭し今尙一役員として努力して居る

◇現在本會役員左の通り

会長　三橋賢一郎　副會長　富岡松之助　同　鈴木岩次郎
会計兼救護部副部長　鈴木安五郎　幹事兼第一支部長　小泉惣兵衞
幹事　吉野一郎　幹事兼弁論部長　清水嘉一　幹事　小泉門右衞門
第二支部長　鈴木清三郎　第三支部長兼体育部長　吉野嘉一
第四支部長　彦根清一郎　第五支部長　鈴木長之助　第一副支部長　手島貞治
第二副支部長　中塚貞治　第三副支部長　伊藤川安　第四副支部長　田中與一
第五副支部長　藤沼利之助　弁論部副部長　鈴木重太郎　体育部副部長　山本今喜知
会計（以下評議員）　鈴木吾三郎　三技久策　三橋佐吉　齊藤鶴之助　小原安藏
小原磯一　田中六三郎　村田酉藏　高橋喜作　田中國雄　杉山彦作
鈴木万右衞門　齊藤唯次郎　瀨田善一郎

◇本會は尾久尋高小學校内に事務所を置き諸般の執務を取扱つて居る。

◆体育部辨論部の練習は同小學校内で行つて居る

◆本會員は正會員と會友の二つに分れて年齡十四才以上二十歳以下の者を正會員とし二十歳を過きたる者を會友として取扱つて居る。

處女會

◇前校長本橋元治氏が當町小學校長に就任するや頻りに處女會設立の必要を說き、其當時の同窓會幹部山本今喜知、小泉磯一氏及同校女教員森下あき、古田なかよの二氏之れに贊同し有志婦人の意見求め一方村内有力者の贊助を得て、會員同志を募り忽ち二百余名を得て大正十二年一月尾久小學校に創立總會を擧けたのである。

◆會員は尋常科卒業以上の者を以て組織し處女の智腦を進め婦德涵養を目的とす。

現在の役員としては

会長　西山富次郎　副會長　江川金二　同　古田ながよ
会計　近藤　つる　幹事　岩崎清子　同　田中かね
同　石塚　かね　同　鈴木　やす　同　港　ふみ
同　三橋　さと　同　田中　つる　同　田中　きく
同　田中　まさ　同　關口　まつ　同　鈴木　ふじ
同　林　東子　同　戸田　うめ　同　小原　こと
同　大野　繁子　同　大竹　繁子

◇本會の事業としては修養に關する各種の講習講話會學術技藝の補習等を主なるものとして居るが今後の事蹟は期して待つべきものがあろう。

尾久信用組合

◆組合設立の動機

◇本町は前述の通り元野菜の栽培盛んにして年中間斷なくこれ産し、生活上多少の余裕を生するに到れり、而して此の間斷なき收入あることと余裕を見るにいたれるは農家に取つて一面好都合なると同時に他の一面に於て濫費の惡習を釀成することを尠しとせ

ざる弊害あり、本村も亦東京市に近く所謂江戸時代の職人氣質に做ふもの漸く增加し、折角の利益も徒らに之れを散し、心あるものをして肩を顰めしむるに到れり、然るに時恰も明治三十七年日露の國交斷絶するや一般に氣分緊張し、且郡役所より戰役紀念事業の奬勵ありしを以て當時の村長たりし現組合長三橋周之助氏等主謀となり此好期逸すべからずとなし、村内一致の信用組合設立し以て貯金を蒐集し、貯蓄思想の普及を計りこの惡風を一掃せんとの議一決し、百六十余名の賛成者を得て明治三十八年八月設立許可を受くるに到れり。

◇本組合は當町一圓を區域とし組合員に對し、產業又は經濟に必要なる資金を貸附け又組合及組合員と同一の家にある者並に公共團體營利を目的とせぬ法人團體に貯金の便を與へよふとするもので町役場内に事務所を設くる有限責任組合である。

◆本會の現役員左の通りである

組合長兼理事　三橋周之助　理事　鈴木重三郎
同　小泉喜左衛門　同　關口常右衛門　同　正木米吉
幹事　野嶋平太郎　同　田中榮次郎　同伊奈葉安五郎
信用評定委員山本要藏　同石井彌吉　同田中孫太郎
同　小原源藏　同　小原倉吉

◇本組合の出資は一口金貳拾圓とし、第一回に金貳圓を拂込、其後は削除金より拂込に振充て行くもので、外に組合員は一口に就て毎年一月末と六月末との二回金參圓宛を掛込む規定になつて居る、大正十二年三月調べの現在組合員は百八十名、口數が二百八十五口、出資總額五千七百圓これに預金を加ふる時は拾萬九千圓の資金を有すると言ふ勢である。

◆如上の財源に土地發達に伴ふ金融上から口數も漸次增加と共に預金者の金額も從來に見ざる多額の預入れあるため茲一ヶ年間に年來の比なき多額の率を示して居ると。

◆住宅改良貯金組合

◇本組合は屋根の改良に志して組織されたものである。其の方法は町内上下尾久を通じて六十人を一組とし、甲乙の二組を組織し、甲組は毎月二十圓宛を一口とし、乙組は毎月十圓宛を納入して、これを抽籤によりて受取人を定め、甲組は千貳百圓、乙組は六百圓を得て之れを屋根の葺換へに充てゝ五ヶ年後には町内全部瓦葺のものに更へしめよふと云ふ計畫の組合である。

◆組合設立の爲め盡力したのは左の諸氏である。

小泉喜左衛門　野島平太郎　小泉金太郎
山本要藏　三橋元吉　關口常右衛門
石井彌吉　瀨田嘉吉　田中榮次郎
富岡儀兵衛　田中與左衛門　齊藤伊助
小泉卯三郎　伊奈葉安五郎　正木捨九郎
鈴木德三郎　鈴木重三郎　三橋周之助
正木米吉　三橋賢一郎
以上二十名の諸氏である。

自治會

◇大正十二年九月一日突如として起つた、かの大震火災に帝都は五十何億の財產を失ひ、十有余万の同胞が遭難殃死せられ、誠に痛恨の至りであつた。

當町は幸ひ火災は勃なかつたが倒潰せる家屋は非常に多く、不幸にも壓死せられた人もあつたのである然るに餘震は續いて起り人心胸々たる處へ加ふるに不逞鮮人襲來等の流言盛んに起り、吾人は實に生命の不安を感ぜざるを得なかつたのであつた、この時に於て町内の有志各所各部に相倚り相集り、自警團なるなるものを組織して、其部所の警備に當つたのであるが、之等は事實突嗟の場合に組織されたもので、連絡統一の欠くる点があつた、各部各所はこの自警團を動機として、近隣相倚り相謀り、互に連絡統一を保ち、土地の發展と相互の親睦を圖る目的にて殆ど震災後に組織されたものが多いのである、之を自治會若くは何々町會と稱してゐる。

◆今各自治會の役員を揭げれば左の通りである。

◆下尾久協和會の役員左の通り

會長	正木米吉	同	小泉卯三郎
副會長	太田陽太郎	同	第一部支部長 手島助次郎
同	高尾半四郎	同	曾我部領右衛門
理事兼庶務	星野宥弘	同	同副支部長 小澤孝之助
同	高田隆光	同	第二部支部長 正木勝五郎
理事兼會計	小原吉太郎	同	同副支部長 鈴木基助
同	大態佐吉	評議員	第三部支部長 正木捨九郎
顧問	伊奈葉安五郎	同	同副支部長 櫻井廣直
			星重作
			源井辰五郎
			小原半歳
			小泉權三郎

◆上尾久時習會役員左の通り

會長	前田 三吉	會計	廣末金太郎
副會長兼警務係	永井 平盛	同	山田 清作
副會長兼社交係	加藏 芳藏	幹事兼交通係	東谷金太郎
幹事長兼庶務係	萩原秀三郎	同	津田廿九年三月宣傳係
幹事長兼衛生係	田中伊兵衛	幹事	倉持福太郎
		同	山崎 彌榮

同	常盤市太郎	同	大谷安三郎
同	加藤 多吉	同	中塚 貞次
同	齋藤 敏治		

◆下尾久南睦會役員左の通り

會長	有田萬次郎	第三部長	能美金之助
副會長	堀江 成典	第四部長	末 定
同	小柴 芳松	第一部幹事	小林 六郎
會計理事	仲條 乙吉	同	青木安太郎
同	津幡 廣作	同	丸山門三郎
第一部長	阿久津清作	同	嶋根正之亟
第二部長	稻葉榮次郎	同	岡本洋次郎

同	上原 七郎	同	矢島 瀧藏
第二部幹事	和村文次郎	同	奥田 泰爾
同	佐久間竹代	同	佐藤 多藏
同	中村 英一	同	津田 忠志
同	水藻 三作	同	森下福三郎
同	小林 半藏	同	佐藤 文吉

第三部幹事	土屋 喜森	同	井口 平藏
同	小原傳之助	第四部幹事	芹澤 光廣
同	新井 管三	同	高橋平三郎
同	谷內 作一	同	皆川 政雄
同	早川 長次	同	平井 曠

◆上尾久朝日町々會役員左の如し

會長	堀川正太郎	同	北浦 與一
副會長	廣野 莊司	同	藤城 定吉
同	茂野 菊次	幹事	大越彌平次
相談役	平井忠七郎	同	後關 常吉
同	小林 善直	同	犬井吉三郎
同	安原 透	同	松倉市太郎
幹事兼會計	入江鐵次郎	同	須山 濱吉
同	村田 酉藏	同	山形 榮造
幹事兼庶務	石浦喜八郎	同	深井金十郎
同	高野 納康		

同	加藤大太郎	同	手島浪之助
同	高田 源藏	同	吉原 春吉
同	多賀甲午郎	同	中野 兼吉
同	福島德次郎	同	鈴木 高藏
同	杉山仁太郎		

◆下尾久本町々會役員左の通り

會長	根本 佳守	同	田中久次郎
副會長	矢崎 秀一	同	早川 七郎
同	板橋德三郎	同	清野 源治
幹事	加藤 建藏	同	村田 留藏
同	金子敬次郎	同	林 次郎吉
同	林 晋	同	小岩井光幸
同	神澤彌太郎	同	佐々木 宏

同	佐藤甚右衛門	同	石井勇次郎
理事	田中万三郎	同	高森仙三郎
同	石垣 耕助	會計	篠塚辰之助
同	我妻 好治		

◆上尾久自治會役員左の通り

總務	三上彌三郎	代議員會計	小倉龜太郎
同	大野德太郎	代議員	小川 幸治
同	金子 三吉	同	雨瀨淺次郎
法律顧問	木村 虎治	同	小林仲太郎
衛生顧問	北濱 喜平	同	相野谷政次郎
代議員長	小川錄三郎	同	小川 外男
代議員評議員長	長島 精一	同	早坂 弘路

同	松本勘三郎	同	櫻井梅太郎
同	大熊 源三	同	及川 潤一
同	中村 長七	同	眞田 甚吉
同	高橋喜三郎	同	高野 常

◆上尾久沼付町會役員左の通り

會長	天野子之吉	幹事長	高桑 正吉
副會長	蒔田 岡平	幹事部長	植平 惠一
會計主任	石川清七郎	同	島村 敬藏
會計	小高 榮吉	同	小野田雄鬪
顧問	篠原寅太郎	同	先崎 豊壽
同	北川順之助	同	前田半之助
相談役	鶴見芳太郎	幹事	土屋 傳吉
同	澁井新太郎	同	野島辰五郎
同	小瀧 平治	同	黑須 林藏
同	伊藤 秀	同	黑岩 源七
同	多田粂次郎	同	井口 德松

同	水島 勉	同	山本 章治
同	斑目袈裟重	同	齊藤德太郎
同	三井 一郎	同	田島 林藏
同	鹽見 順弘	同	內田 正
同	鹽野 新吉	同	古井 雄作
同	青木 庄吾		

◆上尾久熊の前通り東會役員左の通り

會長	鈴木 武司	同	朝倉 榮吉
副會長	三技 定司	同	松本七五郎
幹事兼會計	齊藤太郎次	同	米田 濱吉
幹事	間明田昌儀	相談役	小泉喜三郎

同	石塚新之助	同	永田奥太郎

◆上尾久自親會役員左の通り

會長	久我　忠作	同	松崎　惣吉	同	丸山　良造
副會長	川口　金六	同	木村　清	同	松下　國家
會計					
幹事	鈴木慶次郎				

◆上尾久八幡町々會役員左の通り

會長	野々垣伊三郎	同	中山外次郎	同	松田富三郎
副會長	有馬邦太郎	同	岩井　潔	同	瀬谷　紋次
同	眞柄　敏	同	石村福太郎	同	伊達銀次郎
會計兼理事	井上源次郎	同	山田　惣一	同	山本　吉二
同	松井　勝作	同	小堀幸次郎	同	坂本　光司
理事	齊藤　登	同	小倉　吉松	同	野村乙次郎
同	加藤與太郎	同	鈴木　久吉	相談役	八木德之助
同	伊東　一郎	同	三門　精一	同	中森　尚賢
		同	早坂　正巳		

◆上尾久宮本町々會役員左の通り

會長	加藤傳次郎	理事長	大石藤之助	會計	高木寛次郎
副會長	佐藤　太郎	同	石田初治郎	同	昆野　幸一
同	古屋　源作	幹事長	橋本常次郎		

◆上尾久山谷町々會役員左の通り

會長	鈴木重三郎	幹事	齋藤鶴之助	同	齋藤榮次郎
副會長	高倉　宏	同	飯島清太郎	同	鈴木福三郎
相談役	中澤　榮作	同	藤森　重次	同	星野　愛司
同	鈴木　定吉	同	金子　三吉	同	荒井覺次郎
會計	前田　松藏	同	萩原勘二郎	同	鈴木　定七

◆上尾久共榮會役員左の通り

會長	田中　好造	同	田中要次郎
副會長	淺沼　佐市	會計	小出　勝藏

外に會員五名につき委員一名を置く

◆上尾久富士見町々會役員左の通り

會長	秋田儀之助	副幹事長	長島道之助	同	畑野　米藏
副會長	林　漸	同	字佐見正平	同	麹谷延太郎
幹事長	管谷節三郎	相談役	龜田芳太郎	同	齋藤　淺吉

◆下尾久原町睦會役員左の通り

會長	德岡吉次郎	同	岸澤　忠次	同	三橋賢一郎
幹事	西川仙次郎	同	小泉金次郎		

◆西町々會役員左の通り

會長	田野　治平	同	川田　盛男	庶務	嘗野三十郎
副會長	内野　達雄	理事	北澤　寛三		
同	木村　晧一	同	酒井　又一	會計	大工　武壽

◆上尾久田島町々會役員左の通り

會長	富永彌右衞門	副會長	西山富次郎
同	奥田平兵衞		

幹事長	石田德次郎	同	根本　貫治	同	笹森　茂
會計	清水留次郎	同	字佐見正平	區	麹谷延太郎
同	森　忠次郎	同	松浦　孝治	同	見込吉五郎
幹事	和田　和助	同	福井　柳藏	同	平尾　嘉平
同	若月　六郎	同	小林　正吉	同	鈴水亥三郎
同	高野　萬作	同	江川平次郎	同	鈴木　鶴吉
同	田中　瀧藏	同	齋藤　弘任	同	鈴木　信

◆尾久新地町會役員左の通り

會長川久保安太郎　副會長小柳津德太郎　幹事長横川正美

◆鬼怒電通商工會役員左の通り

組長	仲條　乙吉	同	澁谷　利嗣	同	矢作　惣造
副組長	奥田　泰爾	同	根本　嘉重	同	岩井松次郎
庶務	中村　英一	同	河野　正	同	野原爲次郎
會計	稻葉榮次郎	同	森下福三郎	同	和村文治郎
理事	佐藤　文治	同	金子幸四郎	同	岩井松次郎
同	佐藤　多藏	同	高田憲一郎	同	羽田　惠造
幹事					

◆下尾久興友會役員左の如し

會長	植田 峰次	幹事	櫻井金太郎
副會長	高橋仁二郎	同	中島 貞次
同	中野 春次	同	渡邊 八郎

◆下尾久赤土地藏通本親會の役員は

會長	岡山 嘉平	同	岩崎 寛治
副會長	鈴木 平吉	同	伊藤庄三郎
同	新井 菅二	幹事	高田龜五郎
會計書記	岡部 嘉一	同	萩原 春吉
會計	高橋 仲吉	顧問	中村 福松
理事	大木 清吉	同	矢部 長平
同	岩野 又郎	同	美野延太郎
同	長倉幾太郎	同	神田 甚作
書記	蓮見 幸藏	同	笠原 澤司
同	石坂 操	同	大谷 義衛
同	小澤 義一	同	三浦 倉司
同	石川幾太郎	同	中村 廣吉
同	岡部 嘉一		

營業組合

◇本町に於ける營業組合の主なるものを掲げれば

◆尾久土木建築請負業組合員左の如し

組合長	中澤 榮作	同	有馬邦太郎
副組合長	戸田權之助	組員	石井 彌吉
顧問	勝村幾之介	同	飯嶋清太郎
同	手島助次郎	同	石田喜三郎
幹事	石田 重吉	同	星 重作
同	田村 精七	同	高橋 邦治
同	上原 健治	同	久我 忠作
同	松本七五郎	同	前田 松藏
同	江川新太郎	同	鈴木 定吉
同	荒井覺二郎	同	福田 勝吉

◉王子電氣工事請負業組合

尾久部員左の如し

幹事	字佐見商會	同	渡邊 商會
組合員	山口 商會	同	神澤 商會
同	小林 商會	同	尾村 商會
同	中富 商會	同	岡崎 商會
同	平山 商會	同	金子 商會

◆城北菓子商組合の役員左の通り

組合長 小台 立花屋
副組合長 上尾久 鈴木播磨
會計主任 上尾久 青柳
幹事部長 下尾久 岡野榮泉
幹事 下尾久 昇月
同 上尾久朝日町 秀月堂
會計書記 小台 梅昇堂
同 西小學校脇 永樂堂

◆尾久酒類商同業睦會役員左の如し

會長	山田喜太郎	幹事	千葉祐次郎
副會長	三枝清五郎	同	塚田 七郎
同	杉山 盛司	同	加藤幸次郎
會計長	田中金右衞門	第三部長幹事	萩原勘次郎
會計	中山外次郎	幹事	藤森 重治
同	西尾 俊治	同	山崎 久作
第一部長幹事	水谷清太郎	同	飯塚清次郎
幹事	永井梅太郎	第四部長幹事	伊崎伊三郎
同	鈴木 安郎	同	松永彌之助
同	田中 三造	同	早坂 弘路
第二部長幹事	淺沼 佐市	兼庶務	石浦喜八郎
第五部長幹事	阿久津藤一郎	同	堀内慶次郎
幹事	田中喜代三	第二部評議員	黒川 菊治
同	篠塚辰之助	同	時谷 敏雄
同	田中時太郎	同	加藤 茂平
同	米良 藤吉	同	大河原康雄
第六部長幹事	池谷 榮作	第三部評議員	船橋竹二郎
幹事	市川 三藏	同	酒井 醇
同	吉田 幸作	同	鈴木 正雄
同	保坂吉之助	第四部評議員	渡邊恒三郎
第一部評議員	早津 武司	同	大橋益次郎
同	原田角太郎	同	藤本 敬義
同	佐藤 久一	同	苅部高之助
同	本間 格藏	第五部評議員	我妻 好治
同	小井土六七吉	同	清野 源吉
同	村田 政治	同	山本 義佐
同	田淵 重一		
同	三橋賢一郎		

◆尾久金物同業組合役員左の如し

組合長	相澤勘兵衞	庶務	大辻 義廣
副組合長	杉山 直稔	同	永田貞二郎
會計	佐藤 多藏	幹事	高橋喜三郎
同	小林義三郎		

◆東京城北履物商工同業組合役員左の通り

組合長	磯貝次郎吉	會計	富岡 義雄
副組合長	加藤 末吉	相談役	上澤市太夫
同	小林富次郎	同	渡邊助次郎
幹事長	森田清一郎	幹事	青木 保平
同	井口 俊三		

同　金杉　晴吉　同　矢内金太郎　會計　漆原　常吉
同　平井作太郎　同　鈴木　馬藏

◆尾久警察署管内セルロイド安全會

役員左の如し

會長　山口　哲　同　石崎又四郎　同　小川五郎吉
副會長　稻毛田與七郎　同　永峰セルロイド工業所　同　大岩　峰吉
同　櫻井　廣直　同　金子初太郎　同　町田　文吉
會計　藤村　清技　同　吉永　正忠　同　坂田文治郎
副會計　横田　藤吉　同　塚本　正策　同　酒井　松吉
幹事　伊藤　高造　同　津田政右衛門　同　篠崎　右平
同　寶伏高次郎

◆尾久輪友會の役員左の如し

會長　佐藤繁次郎　幹事　伊藤　竹治　同　伊藤文次郎
副會長　田中萬三郎　同　佐藤　太一　協議員　長島藤三郎
同　中森　恒輔　同　遠藤　喜一　同　三木　嘉一

◆尾久二業相互組合の役員左の如し

組合長　熱海　同　清水瀧　同　初音家
會計長　不老閣　同　旭館　同　三富家
理事　熊野館　同　福富　同　松菜家
同　石橋亭　同　いく松

◆尾久洋料理業組合の役員左の通り

組合長　東亭　第二部幹事　三春
副組合長　金龍亭　第三部幹事　滿州軒
相談役　小台喜樂　第四部幹事　スガ
第一部幹事　改良亭　第五部幹事　内田
第六部幹事　松吉亭
第七部幹事　清養軒
第八部幹事　大東軒

同　宮下　元喜　同　金井　伴吉　會計　高田　敬藏
同　風間　武男　同　樫本　恒夫　同　高木吾一郎
同　佐野梅太郎　同　上原袈裟吉

◆尾久二業組合の役員は左の如し

副組合長　大河亭　理事　田　毎　同　むさし家
理事　光泉閣　同　福　元　同　橘　家
同　尾久華壇　同　小川家
同　辨天閣　同　松竹河

◆尾久料理屋互親組合の役員は

組合長　小台館　幹事　うへだ　同　加登家
會計長　川端屋　同　玉川

◆尾久藝妓家互親組合の役員は

組合長　春日家　幹事　文橋家　同　榮家
會計　清の家　同　藤家
同　ひさご家　同　ときわ家

◆北豊島郡鮮魚睦會の役員左の通り

會長　加川　市松　會計　堀越　芳雄
副會長　間明田昌儀　同　丸形　金治　相談役　須藤德太郎
理事兼會計　水野　鹽平　同・櫻井　助三
幹事　伊藤　卓　同　大内金太郎

神社佛閣舊蹟

▲八幡神社　上尾久字馬場に鎭座在す、本町の總鎭守として應神天皇を祀る社格は町社(村社)である、社境内四百六十坪を王垣を以て廻し、鳥居を過ぐるれば階段あつて、拜殿神殿等莊嚴に地内樹木蒼鬱として崇高の念を深からしむ、創建の記錄が詳かでないが管領時代のものである、大正十二年大震災に社殿大震害後、營膳費淨財を土地有志に仰ぎ、瞬く内に壹萬八千圓の醵金を得て、社の修理社務所の建設されたのである、例祭八月十四、五、六の三日間で十六日には神輿の渡御が慣例である。

▲**調神社**　本町の西方に祀られたる古祠である、經津主命倉稻魂命を祀る、商農家繁榮の爲めこゝに社を建立されたものである、幕府初期時代の創設されたもので祭日は四月五日である。

▲**天祖神社**　町の南方に社あり、天照皇大神を祀る、管領時代の建立にして、敬神の念を土地の士民に波及することに因て祀られたもので例年九月十七日を祭日と定めてある。

▲**稻荷神社**　農家の五穀豐穰を守護する神として宇迦遣御魂命を祀る、二月初午を祭日とす。

▲**胡錄社**　本町東方にあり、雜社於母陀琉神を祀る、祭日は二月上の午の日である。

▲**甲子神社**　上尾久熊の前小學校隣接たる一劃廣漠たる壹萬有余坪は稻田であつたが、東京市芝區田町の富豪富岡俊次郎氏の計畫企圖により、三橋周之助氏其他の贊同することゝなり、帝都復興局の地上整理の粹を蒐むべく探査するに技士を遣して細密なる調査を遂けて地盤工事に着手し道路區劃、下水の完備等當郡內他に見ざる文化的住宅地の竣成を大正十二年七月告けた、町名を富岡町と命名して、この土地整理と富岡町を管理すべく甲子合資會社の創設することゝなつた、社長富岡氏は淡路の出生で、敬神の念熾んな人であるので富岡町の土地祀神と同町の福趾を守護擁護し祈念を成就し給ふ、大黑天を祀るべく、同鄉の金剛峯寺高野山の役僧たる執事主任に諮りたるに、同師の懇篤なる斡旋に因つて同寺奧の院なる大黑天尊像の御分体を遷座することになつて、特に淡路より同地名うての宮大工を聘して出雲大社に出張せしめて、同社の崇古莊嚴なる社殿に倣ひ大正十三年十二月一日茲に甲子神社の竣工を告けて十二月十一日當町名譽職同社重役關係者等によつて、本山より役僧を迎へて崇高極りなき遷座式が擧けられた、例祭は毎月十一日を緣日とし、甲子の日を祭日とする、同社は古式に倣つた建立で總檜造りである、建設費は八千余圓を要されたものである。

▲**阿遮羅山蓮華寺阿遮院**　阿遮院は新義眞言宗田端與樂寺の末派である、尾久於ける最古の寺院で下尾久に大門の字名あるは往時同院建立された時代大門のあつた個所から此名稱が起つたものである、同寺境內四百余坪建設の記錄は詳かでないが、天和年間僧嚴永師が中興したことが傳へられて居る、本尊は阿遮羅明王（不動尊）であるが、緣起書によると良辨僧都の作にしてこれが眞作なれば國寶に等しきものである。

▲**石神社**　下尾久石神に祀られたる石尊である神体は地上二尺以上隆起せる、二基の石塊である阿遮院の寺持であつたのである。

阿遮院及石尊の由來　阿遮院と石神の記錄が詳かでなかつたが、同院は大正十二年九月一日大震災に本堂、伽羅、庫裡等の大震害を受け、これが修理として其一部の庫裡假本堂等を改修したりしが、偶々舊本堂より元祿年間に同寺に傳へる寶物たる、出世石尊大權現の由來の版木を發現したり

☒由來書　曆應年間の頃ふしぎなるかな、この地折々震動して龍燈夜々立ちのぼりければ、里人のあやしくおもひ、茅野を別て尋ねければ異形なる石、地より二尺ばかり生へ立ちしを見付つけ、是れを祀りて石神と唱へ置きたり、其後太田道灌の臣高木隼人は六十一歲の時釋子の門に入り僧名を高木灌敎と名乘り、常に佛神を敬拜し信心堅固の人なりしが、偶々靈夢を受けて、我は大慈薩埵の變化にして地より湧出したる石神なり、もろ〳〵の衆生災難病苦をすくひ、出世の衆生を守護し善男善女のために地より出現せりと御告げを蒙り即ち灌敎入道その地を尋ね見れば地より二尺計り出でし、異形なる石二つあり灌敎入道これを拜し是れ即ち大慈大悲の唾跡なるべしと信じ、石の後ろへ一樹を植へ注連を引き出世石尊大權現と勸請し奉り、二間四面の玉垣を作りしがかんのふ利益多かりければ灌敎入道愈崇敬し、里人鎭守と迎拜し奉り其社より南に當り蓮華寺と申す一宇あり、本尊は阿遮羅明王なり、此尊像は良弁僧都の作にして、あらたかなる尊像なり、此寺卽ち出世石尊別當にして、それより阿遮羅山蓮華寺阿遮院と號し遺所無双の靈神靈佛なり、誰人も敬せざらんや

元祿二巳二月　武州豐島郡下尾久村　別當阿遮院

此寶物が顯はれて記錄が甦された。

▲**寶珠院**　金剛山地藏尊と稱し地藏菩薩を本尊とす、湯島靈雲寺の末派で古義眞言宗である。

境内百三十四坪、上尾久馬場にある。

▲**常藏院**　大慈山と號し新義眞言宗下尾久の阿遮院の末派である、上尾久字東にある境内六百八十八坪余開基の記錄が詳かでないが、正觀世音菩薩が本尊である。

▲**寶藏院**　金光山と稱へ眞義眞言宗田端與樂寺の末派である、境内百九十六坪虛空藏菩薩を安置して本尊とす、他に閻魔堂がある本尊は慶應年間に烏有に歸し現時假堂である。

▲**大林院**　曹洞宗の尼寺で、駒込の大林院の末派である、觀世音菩薩を本尊とす、境内三百余坪、もと此寺院は滿了山願勝寺と稱したものであるが、明治八年八月同寺は地藏堂へ合併し、其後を承繼して堂宇其他を其儘で今の大林院創設されたのである

▲**滿光寺**　下尾久字大門にあり、境内三百十八坪其の本山は芝の增上寺にして淨土宗である、慶長年間の以前、僧智天の開基に係り、僧廓傳の中興したものと傳へられて居る、本尊は阿彌陀如來である大正十二年の大震災の震害に本堂大破したが、現住高田隆光師の營膳に盡されたものである。

△**子育地藏尊**　往時尾久は農村であつたので田畑四時耕さねば生經が立たないのである、不時荒川の氾濫は年中行事のことであつたので他の農村より多くの勞働をせねばならぬから、農家の幼兒を顧るの保育上、ゆるがせで有つたので土地の有力者の勸請によつて阿遮院別當の開基にかゝつたものである、昔は土地近鄕の講社も多かつたので、芦間に線香の燻ゆるものであつた、大正十二年震災後有志によつて、再建を企て新建された、因に花崗石を以て大震災紀念の石柱は阿遮院現住星野宥弘師の筆である、同地藏尊は古くより阿遮院の寺持ちてあつた。

△**不動尊**　上尾久熊の前橫に成田山出流山、觀成講社がある、本講は智山派眞言宗成田山不動明王を勸請し奉り、先達奥野智興師の開基に係り大正十年當町に遷座の式を擧げ、廣く同派の布敎に勤め現に講員二百有余名を有し益々隨喜渴仰の善男善女の參詣しきも切らず、尾久不動堂の名も高まり遂に同地を不動新通と稱ふる基因となれり。

△**赤土三社**　下尾久赤土五五二番地に由緒深き

辨財天を勸請しあるものあり、同地の產土神とて遠く二百有餘年八大龍王の神体たる江の島辨財天を此地に祀りたるものなり、土地の豊穰、灌漑等の祈念成就得さしむるに、老若男女參詣するもの夥しく靈顯尊かりき、此の社の境内に正一位稻荷神社の祠あり、建立は辨財天を祀りたる昔時より農家繁榮の神として靈神の聞へ高く社の後ろに一樹の老松蒼鬱として聳へ茂れり、これは社の祭神紀念として昔時此地に植へたるもの神木として保存なしつゝあり、兩社の靈顯を永世に傳へること、赤土產土神の新たに勸請することによつて、大本山中山鬼子母尊神をこゝに迎へて、叙上の由來深き兩社に合祀して、赤土三社と號し奉ることになり、莊嚴なる神殿、社務所を建立されることになつた、例祭は毎月十九日とし神樂を奏し神靈に供へる。

赤土三社建立發企者　中村福松　高橋仲吉　水谷富士松　大木清吉等の諸氏で建設費一萬餘圓である。

▲**舊蹟**　宮殿下の御隱れ家　戊辰の役に上野黑門口の戰ひ敗れて彰義隊の首領株の多くは討死なした伽邏の多くは火に包まれたるとき、宮の御前に注進ありしにより、

輪王の寺宮（故北白川宮能久親王殿下）には早々に御立退きあるべき樣味方の衆議一決して數名の僧と醫者護衛の士などに守らせられて、竊かに寛永寺の本坊を立ち出で給ひ、或る寺院に立ちよられ旅の御身仕度を整へられた即ち白羽二重の袷に單衣を重ね上に黑染の法衣を纏はされ、脚袢がけに草鞋を履き網代笠を召され、左手に珠數をかけられ、御供の僧に手を引かせられて、中根岸麻生將監の宅に一先づ御立ち退き給ひ、更に三河島なる御出入の植木屋紋左衞門の家にお出になつたが、この家狹く御身を御潛められべくもあらず、改めて當尾久の名主江川佐十郎の宅に御移りになつた、所が此家は名主にて官軍が出入するやも測られず、尚又宮の御供を願ふ者續々集まつて來るや、宮は今夜こゝへ御一泊と號して多數の者を退散させ御休息の後午後十一時頃、宮は豫てよりの隨行者と共に裏口より拔け出で給ひて、夜中窃かに下尾久小原長兵衞の家に入せられた畏れ多くも其納屋に御身を御隱しに成らせられ、終夜多くの蚊の爲めに御なやみつゝ御一泊になつて、夜明けを御待ちになり、遂に一度御入京の後品川より汽

船に召され奥州路へ御立ち退きにならせ給ふ、因に日時は明治戊辰閏年五月十五日御一泊。

▲十三坊塚　新編武藏風土記稿　下尾久村の條に「十三坊塚」村の北にあり高さ五尺廻り七八尺、八ヶ所程あり、此内に砂利塚と唱へるあり、永祿年間太刀、具足様のものを堀出せしことありと言ふ、又此塚は石神の附近にあり。

▲貝塚　本町の田端耕地に接して貝塚がある、俗に蠣殻山と云ふ、約一丁歩程の間は蠣殻や蛤や螺榮などの貝殻が土中に堆積してゐるが事蹟は詳かでないが野生食貝食時代の遺蹟である。

▲杉野中尉殉難の碑　本町熊の前小學校に樹木に廻れる一基の碑あり、これ杉野中尉殉難の遺蹟である、維時大正六年本尾久町は寂寞たる一寒村で人家も諸々散在する農家のみであつた、時にあたつて陸軍工兵中尉杉野治義氏は同年三月二十五日練習將校として下志津の野に第二號飛行機を操縦し、恙なく往航を終へて、所澤本隊へ向け歸途午前十一時三十分の頃ほひ爆音勇ましく尾久村上空にかゝるや時しも怪雲暗憺として日光を覆ひ一陣の旋風は雹を交へて殺到せり、觀望の群衆俯で片唾を呑む、一刹那機翼轟然として折れ急霰の如くに散亂し、應急の妙技施すに時なく、見る〳〵内に旋條を呈して現時熊の前小學校前に墜落し、一大音響と共に紛砕せられた、同中尉は英姿生けるが如く完爾として右手に把手を握りて瞑せり、英魂は天に還りたるなり、武夫は常に死を鴻毛の輕きに比するも憾むべきは中尉を千軍萬馬の間に其妙技を揮はしむるを得ざりし事なり、然れ共其貴き犧牲は我航空界の進歩に貢献せること少なからずや必せり。

天恩優渥報を聞召されて軫悼し給ひ勅使を遣されて優掟を賜へりと、中尉は永遠にこの地に遺蹟を止めて悼むべしと雖魂魄永く天に翔りて後進を守護し風伯の禍を叱せん、此遺跡を卜して杉野中尉殉難の碑を其秋航空隊長同期生在郷軍人名譽職等が莊嚴な除幕式を行つて永く遺跡をとゞむることゝなつた。

町の權威者

町長　中西鉦也君

中西町長

抑も自治制をして發達統一せしむるに於ては卓絶なる智腦と有爲なる識見を倶備し、加ふるに世潮に一歩を秡くものある民の責負に足るものがなければ能く自治機關を遺漏なく統御することが不可能であるが、君は尾久町長の任に當つて克く町民の期待と囑望を擔ひ、これを萬全に處理し得さしむるによつて、其信望の存することゝなつたのである、君は明治四年二月三重縣に産れ明治三十二年佐賀縣屬に任ぜられ同三十四年群馬縣屬に轉じ長野縣屬を經て同三十八年九月警視廳屬となり翌三十九年一月兼警部に補せられ再び群馬縣屬に轉任同縣利根郡碓氷郡群馬郡に郡長として就任する事六ヶ年大正五年十一月依願免官同時に伊勢の津市に助役を經て市長となり十一年四月退任同年十月本町長として來任今日に至つたものである、現住所は瀧野川町西ヶ原八三六番地である、君は誠實英才に富み常に民福增進に努め德望最も篤し。

助役　關口常右衛門君

君は明治二十年六月上尾久一、三五七番地に産れ嚴父の監督指針の基に着實なる素養をおさめて人となり、明治四十一年習志野騎兵隊に入營し同四十三年除隊同四十四年在郷軍人會尾久分會評議員に擧けられ、大正七年同會副會長となり同十一年九月同會分會長に推されて就任、同年村會議員に當選し同十二年尾久町名譽助役に就任したのである。

氏は資性温厚篤實にして、輕佻浮華の風なく常に地方青年の儀範として町内の推重を受けつゝあり。

收入役　正木米吉君

君は村治の功勞者として知られたる正木勘次郎氏

の長男である、明治四十三年五月より大正十一年迄村會議員として毎期當選し大正十年四月收入役として用組合理事、八幡神社氏子總代、阿遮院信徒總代等の公職にあつて夙に着實、簡重寡默にして而も其意志確乎抜くべからざるものあり。

正木米吉君

就任、今日に至つたのである。氏は水利組合議員、學務委員、信

町會議員　三橋周之助君

君は三期に亘り十二年間村長の榮職に就き、終始一貫克く經倫を發揮し諸般の施設されて常に愛町の思想に燃ゆる町村民の福利增進に力めらる、氏は文久三年尾久村に産れ明治二十二年五月第一回の村會議員に擧けられ學務

三橋周之助君

土木の兩委員を兼ね同二十五年再選されしも辭任して收入役に就任し、同三十四年村長となり同三十九年五月辭任し、尚又同三十八年には尾久信用組合の創立に盡され擧けられて理事長となり尚其職にあり四十年九月郡會議員に當選し郡參事會員となり、四十二年更に村長に就任以來大正十年まで三期間村長として盡されたのである。

性格は温厚篤實而も公共心に富み自己の利害を顧みず各般に亘りて一村のために寄與貢献し以て町内の倚信益々高し。

町會議員　鈴木重三郎君

君は村長、郡會議員、村會議員、尾久信用組合理事等の公職のために軼掌する多年、信望日々益々加はりて今や當町内に於ける重要なる一部の代表的人物として贍仰を受け居れり明治三十四年六月收入役となり同三十九年

鈴木重三郎君

五月村長に就任し、四十年五月村會議員となり同四十一年十二月收入役に任じ、大正十年再び村長に就任し農會會長となり大正元年十月尾久村信用組合理事となり大正四年九月北豊島郡會議員同十一月郡參事會員に選ばれ、大正八年九月郡會議員として再選された、資性温順、謙讓の德を具へ夙夜公共のために盡力せらる。

町會議員　小泉喜左衛門君

それ自治の發達隆昌は歴代當局者の施設宜しきによる事勿論なれど雖も而も氏の如く常に地方發達に意を瀝き、其改善刷新に努力貢献するにあらずんば焉んぞ斯の如きを得んや

君は町村制施行第一次の村長として信望厚かりし小泉金太郎氏の長男である、曩には國家の干城として日露の戰役に從ひ、滿州の野に轉戰して殊功を樹て赫々たる名譽を荷ふて凱旋歸郷するや在郷軍人團を組織し擧られて團長となり、又は學務委員、村會議員の公職に就くこと數次、大正十年尾久郵便局の開設するや、局長に任せられ事務を行ふに其親切を極め模範局長の稱あり。

町會議員　野島平太郎君

君は資性温厚圓滑にして苟も人と爭ふことを爲さず、寧ろ德を以て怨に報ゆる底の君子人なり、里人皆その人格の高潔に服して贍仰せざるものなし、慶應三年現住たる上尾久二六九三番地に平次郎氏の長男として生れ、公共のためには私財を投じて惜まず、又地方開發のためとあれば寢食を忘れて、盡力せられ、その施趾枚擧に遑あらず以て德望いや高し、明治三十九年八月村會議員に擧けられて以來改選の都度高點を以て當選し今日に至つたのである。

野島平太郎君

府會議員　町會議員　小泉金之助君

君の祖先は太田道灌の股肱の重臣であつたと云ふその血統を享け繼いた君は性格また極めて剛毅であ

る、氏が常に土地の開發に就て鋭意熱心殆んど寢食を忘れて努力し、其功績偉大なるものあり、明治十七年四月尾久村に生れ、大正十年擧げられて村會議員となり、大正十三年府會議員に當選し、爾來公共のために盡力せられつゝあり。

現在料亭小泉園の店主として信望篤し

町會議員　田中榮次郎君

君は性溫量謙讓にして愛鄉の念厚く、故に公共事業に留意して多年當町の爲め盡された、好果の歷然たるものが多々ある、慈愛心に富むより衆望の集るところとなり、故に信用益々深く眞に町內有數の德望家なり、慶應元年四月王子舟方石神市藏氏の二男に生れ、明治二十年上尾久一、二七七番地田中丑五郎氏の養子となり、大正六年五月村會議員に選ばれ同十年再選されて今日に至つたのである。

町會議員　山本要藏君

君は「一の落葉を見て歲將に暮れんとするを知る」と云ふやふな觀察力の强い人である。

明治三年二月千葉縣市原郡に生れ、明治二十七年偶日清の國交斷絕するや國家の干城として戰役に從ひ、諸方に轉戰して殊功を樹て勳七等に敘せられ、靑色桐葉章を授けらる。凱旋後尾久の將來に着目して下尾久に移任を先見して煉瓦工場を起し、家運益々隆昌を加ふるに至れり、現任町會議員として町治に盡力せられつゝあり。

山本要藏君

氏は覇氣に富み識見抱負共に豊かな人格者である。

町會議員　三橋元吉君

君は明治十六年上尾久三〇〇七番地に生れ、廿一歲にして北豊嶋郡農事改良會實行委員を囑托され、農事講習會等にも屢々出席し、品評會等には出品怠らず褒賞、木盃等を受くること十數回に及んでゐる

明治四十一年靑年會の幹事長に擧けられ、大正十年村會議員に當選し公共のために努力せられつゝある

氏は思想健實なる奮鬪家であるが、宿阿の襲ふところとなり數次活躍の思ふに任せぬは町のため惜いことである。

町會議員　富岡儀兵衛君

君は明治八年六月上尾久一三六一番地富岡寅次郎氏の次男に生れ、家は代々農業を營んで來たが明治三十九年商業に志し、上尾久一二七〇番地に白米雜穀商を開業して爾來奮鬪努力の結果家運益々隆域に進み、大正十一年村會議員に擧げられて今日に至る

氏は資性廉潔、意志强固にして信望最も厚し。

町會議員　石井彌吉君

君は明治十八年五月上尾久一四二五番地に生る、祖先より代々土木建築請負業を營み、世々土地の有識者としての繼承を受けて公私共に發展を援けられて來たつたが、現彌吉君は夙に土地發開上に腐心せられ、或は土木の改修に又は輿産上に意を盡して交々實現貢獻されたことが多々ある。

氏は沈毅英才を以て好く事の緩急を知り實味上の處理斷決宜くし故に德望高く、現に王子煉瓦株式會社取締役、日本クリーニング株式會社監査役である擧げられて村會議員たること既に二期に及んで居る又公共のため盡力せらるゝこと尠なからず。

町會議員　田中輿左衛門君

君は明治九年尾久村大字船方三三二番地素封家として知られたる輿三郎氏長男に生る、父君輿三郎氏は明治二十八年以來村會議員として村治の爲めに盡力せられて來た人で三十六年輿左衛門君に家督を讓り大正八年十二月遂に長逝された。大正十年五月村議改選に輿左衛門氏代つて村會議員に擧げられたのである。

田中輿左衛門君

氏は性質極めて溫順なる奮鬪家にして、水利組合

議員、土木委員等に推されて町の發展の爲めに盡力せられて居る。

町會議員　齊藤伊助君

君は明治八年上尾久山谷二五一番地に生れ、明治四十三年村會議員に擧げられ、學務委員を兼ね町治に努力せられてゐる。

三橋賢一郎君

町會議員　尾久青年會長　三橋賢一郎君

君は資性溫厚、誠實にして輕佻浮華を好まず堅實的、事を處するの英敏なる才能と手腕の持主である、推されて尾久青年會會長となるや奮鬪努力自ら率先して其範を示し、團員を指示してこれが地方青年の木擇ならしめて益益同會の基礎鞏固を加ふるに至り、青年の模範として一般の尊重を受けつゝあり、明治二十三年上尾久三五〇六番地三橋岩吉氏の四男に生れ、大正十年村會議員に擧げらる、不拔の意志と熱誠なる覇氣を以て町治に盡力せられ、町會議員中の最年少者である

町會議員　齊藤伊助君

君は明治八年上尾久山谷二五一番地に生れ、明治四十三年村會議員に擧げられ、學務委員を兼ね町治に努力せられてゐる。

町會議員　伊奈葉安五郎君

君は慶應元年三月鈴木勝五郎氏の二男に生れ、明治十八年伊奈葉家に入り、下尾久五四二番地に居住してゐる、諺に志量に富む英雄は質朴なりとは君の事であらう、村會議員なること既に數次村治のために努力せられ、信望篤し。

町會議員　小泉卯三郎君

君は明治八年十二月曾て村會議員として町治に盡されたる小泉卯兵衞氏の長男である、大正十年擧げられて村會議員となり、八幡神社の氏子總代阿遮院檀徒總代を勤め、至誠、隱忍にして信用厚し。

町會議員　鈴木德三郎君

君は明治二十年一月下尾久一〇〇一番地に生る、性極めて磊落剛健にして沈勇、豪氣の風あり。氏は曾て當町在鄉軍人分會長に歷任して公共のために努力せられた、擧けれれて町會議員となり町議中の酒豪の猛者なり。

町會議員　正木捨九郎君

君は明治二年十月下尾久一〇五七番地に生る、性沈着、剛毅にして英氣あり、現に町會議員として町治に盡されて居る。

瀨田嘉吉君

町會議員　瀨田嘉吉君

君は明治十六年三月上尾久一三四一番地に生る、年幼にして學を好み、天性の英才はその人をして著しく發達せしめ、先代の後を襲ひて町治の爲めに努力し、大正十年五月村會議員に當選し爾來公共事業に貢獻すること尠なからず、氏は八幡神社の氏子總代、寶藏院檀徒總代等を勤めて信望篤し。

町會議員　石井善次郎君

君は明治十八年十一月王子町字堀の內に生る、幼時より商業に志し、明治四十二年尾久村字船方四六七番地に店舖を開設し、果物青物食料品業を經營し爾來奮鬪努力の結果益々家運隆昌に富み、大正十年五月擧げられて村會議員となり業務の向上の傍公益に盡すこと多々あり以て篤望高し資性廉潔にして而も仁俠たり、氏は

石井善次郎君

特別後援者

尾久自治聯合會副會長

校醫　佐藤要吾君

君は明治十八年一月生れにして、幼少時代より醫業に志し、多年斯界の研讃を積み學術と經驗より得たる偉大なる好果は刀圭界に其の覇を揮はしむるに

至り、將來當町の發達を卜して、上尾久小台に病院を開設し以來廣く仁術の典型として立ち益々奮闘努力の結果家運愈々隆昌を極め當地病院としの權威者たり、大正元年校醫に囑托され、亦尾久自治聯合會副會長に擧けられ公私共に熱誠に努力されて居る。性仁俠に富み、信用最も厚し。

土木建築請負業
組合顧問

勝村幾之介君

君は明治二十年茨城縣に生る、幼にして自營の思想深く、立志を堅くして孤身漂然帝都に出で、選ぶに土木建築請負を以てし、爾來斯業の練磨と研究を重ね、經驗を積み効績を擧げ、鋭意熱心幾んど寢食を忘れて其發達に努力したる結果其意圖空しからず今や翁然として業界の重鎭なるに及んで遂に今日の盛況を見るに至る、君の嚴父は鄉里に於て久しく縣會議員を勤めた人で、君も亦政治に興味を持てゐる君は宏量以て人を待つと云ふ男らしい氣風を有し曾て當町が大正十年五月村會員の改選を行はんとするとき、君は會社工場其他の智識階級者に推されて一級當選確實と見られてゐたが、當時定員以上の候補者ありしため、町將來の平和を思ひ當選確固なりし身を退いて、候補を辭し他を推めて競爭を避なからしめた溫順なる人である。

君は尾久自治聯合會創立委員として公共の爲めに盡力せられ、又土木建築請負業組合創立に際し擧けられて同組合顧問たり。

下尾久町睦會々長

有田萬次郎君

有田萬次郎君

君は明治十四年二月東京市本鄉區駒込富士前町に生る、幼少より商業に志し家父の後を受けて同地老舗たる有田呉服店を繼承し、事業益々効績を極め家業に誠勵の傍ら、年來の苦心研究を積みたる消火噴霧機の發明なるに及び、これが製造に力を盡し、爾來卓絶なる精力と稠密なる計畫を以て製造に努めたる結果効を奏し、大正四年上野櫻木町に有田式消火噴霧機製造販賣所を開設して業務益々隆域に進みしも、着目に明敏なる氏は尾久の將來に眼を注ぎ大正十一年八月下尾久二九五番地に家屋を新築し、土地家屋の管理所、帝國海上運送火災保險株式會社代理店、共濟生命保險株式會社代理店を開設して事業益々盛旺んなり。氏は資性淡白快活にして一點の邪氣なく加ふるに事物に親切懇到にして、苟も公益のためとか、慈善のためとかなれば率先して是れが任に當り、其目的を果さざれは止まざるの氣概あり、故を以て町内の倚信漸く重く、今や下尾久協和會副會長を經て下尾久睦會々長に擧けれ至誠其職に盡し居れり。

東京酒類仲買小賣同業組合代議員
尾久酒類商睦會長

山田喜太郎君

山田喜太郎君

君は明治拾年兵庫縣に生る、鄉里に於て酒造業に從事したりしが我が運命は帝都にありと奮然志を起して鄉關を辭して上京、明治三十八年淺草區象潟町に酒類業を開始し、性來機智に富み、抱負大なる氏は益々誠實に奮闘を續け事業の擴張に勉め、商機に英敏なる手腕を揮ひ家運愈々隆盛の域に進む、天性開拓の志才は早くも尾久町の將來に着目して、大正十二年上尾久一八七八番地に移り、隣近一帶を開拓し山田小路の完成を見るに至つた營業の傍ら土地の開發に勉めた功は當町の發展を促す基因を作られたものである、一方尾久町が通信機關の不備なるを憂ひ二等郵便局を設置請願せんと自ら有志を訪ひ、大に運動を起し、豪毅不撓、紛々たる世の褒貶を省みず、獨り其信する所に從つて邁進する、その經倫大なるものあり、亦氏が同業者の福利增進と親睦とを企圖して同業三枝氏萩原氏藤森氏等と力を協せ尾久酒類同業睦會を組織し、擧げられて會長となり、尙東京酒類仲買小賣同業組合代議員に推され、曩に八幡町會々長等を勤めて、德望高し

上尾久西町々會長

田野治平君

君は明治二十年新潟に生れ、鄉里に於て農事の研

究を重ね益々新機軸の開拓上に顯著なりしが、大に顧る所ありて蹶然二十五才に及んで上京し、各種の事業を經營したりしが、浴場業の有利なるに着目して奮闘努力すること多年茲に自から恃み自から拔けて其運命を開拓し、家運益々隆昌を極め大正十年上尾久朝日町に浴場を建設し奮起勉勵の効空しからず上尾久西町一〇九六番地外二ヶ所に高層なる浴場を新設して、家運愈々隆盛たり、

擧けられて西町々會長、尾久浴場組合長に就任す性豪氣にして誠實に富み、信用最も厚し。

上尾久朝日町々會長

堀川正太郎君

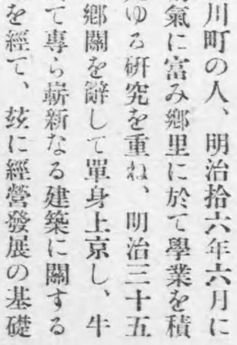
堀川正太郎君

君は明治元年兵庫縣に生る、幼少時代より商事に志し、明治廿一年上京、爾來各種の事業に奮勵力行を要素とし、時代に副ふ清涼飲料水が製造を研究すること多年、遂に完全なる器械を發明するに到り、淺草區に於て日本商業株式會社を創設し、自から社長となりて斯界に目覺しき活躍振を示し、清涼飲料界の改善の範を同業者間に促し、以て斯界の功績顯着なるものあり、大日本飲料水協會評議員、社團法人清涼飲料研究所常議員、全國清涼飲料水業聯合組合理事、東京清涼飲料水同業組合評議員等の重任にあり、大正九年上尾久朝日町三一四一番地に莊麗なる邸宅を新設し、擧けられて朝日町會々長となる、公益の爲とあれば私財を拋つて惜まずして、公共の爲め盡瘁する尠からず。

性　沈豪にして英才あり。

八幡町會副會長
土木建築請負業組合幹事

有馬邦太郎君



有馬邦太郎君

君は千葉縣香取郡笹川町の人、明治拾六年六月に生る、幼にして立志覇氣に富み鄉里に於て學業を積み、人と成て斯界の丸ゆる研究を重ね、明治三十五年成功は帝都にありと鄉關を辭して單身上京し、牛込區大久保余丁町に於て專ら嶄新なる建築に關する泰西の技術應用の經驗を經て、玆に經營發展の基礎を樹て斯界の新人として囑目さるゝに至れり、大正六年上尾久一八九五番地に移り、土木建築請負業を經營して、家運々隆昌たり、因に尾久土木建築請負業組合幹事、上尾久八幡町會副會長推薦され、公私共盡瘁せられ居れり資性　温良にして決才に富む、信用甚た篤し。

學務委員
土木委員

小原半藏君

君は性質慈愛の心深く、其人となり温厚にして衆意の宜きを採つて誇らず謙讓なりと雖も、一方處理決裁の眼識高く、爲に諸般の重任を擔ひ、併してこれが責務を全ふして、人後に立たざるの才能の持主である、曾て下尾久素封家小原家に嗣主として生れ先代の後を襲ひ、土地の發展、社會向上の公益に努力、凡ゆる幾多の施設方針の企圖にあたり、これが幹部となつて活躍の跡顯著である、その公共のため東西に奔走して殆んど寧日なく、君亦將來を囑望せらるゝ一人なり、氏は下尾久協和會第三支部長、土木委員、十番分水組合議員、學務委員、在鄉軍人分會主任理事其他の重職に擧げられ盡瘁せられつゝあり

下尾久協和會顧問

手島助次郎君

君は温健にして天賦の英才あり、寡黙沈着なれども識見抱負共に備はり後進を援けて自己を顯さざるの德實の士なり、下尾久手島家の後を襲ひ土木建築請負を經營し、經倫に富む手腕を發揮して、益々斯界に其囑望を受けて、事業も亦隆域に進み家運益々隆盛を極め居れり　擧けられて下尾久協和會顧問たり。

南陸會第三副部長

早川長次君

早川長次君

君は豪毅にして仁俠の念厚く、事蹟の經倫深く終始一貫何事も忍して功成を期するの氣風他を凌ぐのものあり、明治十六年十二月埼玉縣北足立郡に產る、鄉

里に於て學業を終へ、明治四十年八月單身帝都に出で青山中央社第一出張所に衛生事務と事業を研究し麻布區龍土町貳拾一番地第一出張所に轉任し、更に明治四十三年八月小石川區大塚上町十六番地第五出張所主任となり　大正三年十月府下大井町四百七拾六番地に第二出張所を担任して　大正四年十一月より府下大崎一圓の區域を網羅し、廣く事業の發展を示せるにより、大正五年六月大崎に新設出張所を起し　經驗と手腕とにより益々盛況を極めたり、これに伴ふところの事業として大正六年六月塵芥取扱業の請願を申請し同七月三日許可を受け、大崎全部及北品川半部の塵芥取扱を開始し　同九年九月塵芥運搬自動車を購入して廣く急速處理することゝなつたが、道路の關係と取扱ひ不便なるため　これを馬力十數台に更へ簡便に取扱ひを爲すことゝなれり　同十年六月塵芥燒却場の出願を申請し　同十一年三月許可を受けて府下平塚村に壹千參百坪の燒却場を建設して目下廣大に事業を經續しつゝあり。

大正十一年三月八日下尾久赤土に出張所を設け衛生塵芥及清潔事業糞尿汲取業に從事し所員五十二人を使備して業務益々隆盛たり。

君は南睦會第三副部長として同會創立時代より公共の爲盡されて居る。

日本荒川製氷株式會社取締役

田中春吉君

君は慶應三年當尾久に生る、幼少より工業に志し二十歳にして目的を樹つて、市内に出で土木建築請負業に從事し　爾來三十有餘年斯界のために奮闘努力の結果家運益々旺盛を極め　大々的成功の上同業を廢し各般の諸企業を爲すに及んで　出生地たる尾久の水質好良なるを鑑み自から主唱の基に目下盛況なる日本荒川製氷株式會社を創設し　以て取締役に擧けられ當業の發達と土地の發展に多大に努力貢献せられつゝあり。

氏は武藏野土地住宅株式會社常務取締役の重任にあり、性　清廉潔白にして信用篤し。

後援者

尾久消防組頭　小泉喜平次

東京鋼鐵家具製作所重役　佐和秀桂

衛生委員　三枝清五郎

協和會副會長　太田陽太郎

同　高尾半四郎

協和會理事兼庶務　星野宥弘

同　高田隆光

南睦會前會長　芹澤光廣

時習會々長　前田三吉

同　副會長　永井平盛

同　加藤芳藏

朝日町々會副會長　廣野莊司

同　大石秀松

同　茂野菊次

同　相談役　平井忠七郎

同　小林善直

朝日町親和會相談役　大越彌平次

同　後關常吉

南睦會副會長　堀江成典

同　小柴芳松

仝會理事兼會計鬼怒電通商工會々長　中條乙吉

南睦會會計理事　津幡廣作

南睦會幹事鬼怒電商工組合庶務理事　中村英一

南睦會第三部長　能美金之助
本町町會長　根本佳守
同　副會長　板橋德次郎
上尾久自治會總務　三上彌三郎
同　大野德太郎
同　金子三吉
沼付町々會長　天野子之吉
同　副會長　蒔田岡平
同　相談役　小瀧平次
熊の通東會々長　鈴木武司
田嶋町々會長　富永彌右衛門
自親會々長　久我忠作

八幡町會々長　野々垣伊三郎
同　副會長　眞柄敏
同　相談役　中林尚賢
共榮會々長　田中好造
富士見町々會副會長　林漸
西町會副會長　內野達雄
新地町會長　川久保安太郎
本親會々長　岡山嘉平
協和會第一部長　曾我部領右衛門
下尾久有志　中村福松
大竹製肥工場主　大竹軍一
高千穗製紙場主　寺田徹一

◎主ナル會社工場

旭電化工業株式會社

本社　麹町區有樂町一ノ一
工場　尾久町上尾久荒川畔
專務取締役　鈴木市之助

本社は大正六年一月資本金貳百萬圓、以て創立、苛性曹達、晒紛、硬化油、精製魚油、各種石鹼等の製造を爲す工場である。

荒川製作所

本社工場　上尾久三三六〇番地
取締役社長　高田釜吉
常務取締役　岩崎清

本社は大正七年拾二月　資本金貳百萬圓を以て創立し鐵工器械の製造を目的とする、當會社は元明治四十一年十月創立された、合資會社高田商會柳島製作所の業務を繼承したるものである。

鬼怒川水力電氣隅田川發電所

本社　麹町區有樂町一ノ一
本發電所　尾久町上尾久字下田

本社は明治四十三年七月資本第四千五百萬圓を以て創立され、社長は利光鶴松、常務取締役は利光學一氏である、本發電所は貳百万圓の費用を投じて大正九年二月設立となり、火力を以て電力を起し、これを他に供給するのである。

同社變電所

下尾久字小沼　二三一

當變電所は鬼怒川水力電氣を此處に於て變電して東京市內に配電するのである、明治四十五年の設立で管理人は小菅小之助氏である。

安全製紙株式會社

上尾久山谷一一〇四番地
社長　本田淨巖

本社は大正十年八月十日資本金壹百萬圓を以て創立し、諸紙類の製造を業とするもので、目下盛況を

極めて居る。

日本電機製作所

本社　小石川區餌差町
工場　上尾久(二六六五ノ一
　　(二六七一ノ一
社長　小山田　量

本社は大正九年二月資本金五十萬圓を以て創立された株式會社である、當社は電動機、變壓器、發電機、精米機等の製作設計及工事の請負を業と爲し事業益々旺盛である。

守隨製作所

本社　京橋區南傳馬町五ノ九
工場　上尾久航方四八〇
社長　德見常雄
取締役　平井勢次郎

本社は大正七年七月合資會社守隨商店を株式會社に組織を更め、資本金六十萬圓と爲し、度量衡器の製造販賣並に修繕を業として居る。

永峰セルロイド工業株式會社

本社　府下龜戸町押上
工場　尾久町上尾久三四八〇
社長　永峰清次郎

本社は大正五年八月王子**セルロイド**製造所の名稱を以て合資會社組織で事業を開始したるを、資本金壹百萬圓を以て大正六年十一月組織を改め千代田工業株式會社を創立し、大正十三年表題の會社と名稱を更めたものである、當社の製品は「**セルロイド**生地」及び自轉車品、玩具雜貨等である。

大竹製肥所

上尾久三四九二(荒川畔)
工場主　大竹軍一

本工場は明治四十一年十二月の設立で、業務の目的は內外各種肥料賣買、配合肥料及び雜魚肥料の製造販賣を爲して、事業愈々盛況を示して居る、優秀なる製品を產出するを以て信用最も厚し。

鎌肥料商會

上尾久三四八九(荒川畔)

工場主　島田幸太郎

本商會は大正三年六月資本金五萬圓を以て設立し人造肥料の製造販賣を目的とす、良好なる品質を供給するに依つて需用者の信望厚し。

日本クリーニング株式會社

尾久町上尾久九三八番地
專務取締役　村上武四郎

本社は大正十二年二月十六日資本金十萬圓を以て創立し、營業の目的は　一、**ドライクリーニング**二、和洋洗濯、三、染色　四、前三項の附帶事業當社は時機に應じたる新なる化學應用の器械を設置し、廣く大會社、大病院需めに應じて盛況である

日本荒川製氷株式會社

尾久町上尾久二〇六〇番地
取締役社長　鹽谷藤一郎
取締役　田中春吉
仝　平野幸三郎
仝　大島長十郎
監査役　山本金次郎
仝　谷村端四郎

本社は大正十三年三月資本金五十萬圓を以て創立す、營業の目的は製氷並に販賣を業とす、尾久、田端、日暮里、瀧野川、三河島、王子方面に需用を滿し、附近隨一の製氷會社として信用篤し。

高千穗製紙場

工場　上尾久二一四四番地
工場主　寺田徹一

本工場は專ら和洋紙製造販賣を目的とす、場主は多年斯界に經倫を有せる、實務と技術を兼ねたるとに依り、優美品と實用品とを抄滷し廣く顧客を有して業務益々隆昌たり、故に同業者間及得意側より取引上の囑望を受けて、信用最も厚し。

日本綿紗合名會社

尾久町下尾久一二九七番地
代表社員　吉安延太郎
取締役　田中春吉
經理主任　太田陽太郎

工務主任　中村藤吉

本社は大正十二年九月一日の創立にして、業務の目的は（精製品）脫脂綿　**ガーゼ**　繃帶　貴婦人用衛生綿　青梅綿　蒲團綿、（再製品）**ガーゼ**織大布同合判　同中布　同角小　繃帶　角木綿等の製造販賣を業とし、製產品優秀なるを以て信用あり。

田島應用化學工業所

下尾久三二一番地

工場主　田島武長

本工業所は大正八年創設に係り、營業の目的は三星印便利瓦、アスバルトフエルト、獨逸クレオソーミシ、クレオソートの製造販賣並にアスバルト工事請負を業となし、事業盛大である。

西川硝化綿原料晒工場

下尾久一六一二番地

本工場は大正二年三月一日の創設に係り、化工材料たるため事業隆昌たり。

鈴木製作所

上尾久小台通一六四〇番地

所主　鈴木愛唉

本工場は貳拾有餘年前の創設に係り、我國に於ける最古最大の瓦斯ランプの製造工場である、營業項目は各國型自轉車用瓦斯ランプ、鑛山用瓦斯ランプ瓦斯ランプ用火口、瓦斯ランプ用レンズの製造販賣である、當工場製品の有する特長、使用數年後に於ける故障や萬一破損の際には其製品に限り破損の部分を買求めて取り替へる事が出來る。

古河銀行尾久出張所

上尾久小台電停際

本店　日本橋區瀨戸物町

本社出張所は舊千住銀行を繼承して營業して居る

渡邊銀行尾久出張所

上尾久八幡神社前

本社日本橋區本材木町壹丁目

本出張所は大正十四年二月の開業である。

著名ナル商工業者

◇信用厚き酒類商（いろは順）

和洋酒類　味噌醬油　卸小賣商　**鶴屋號**　伊崎商店　上尾久二五一二　伊崎伊三郎

和洋酒類　鑵詰味噌　醬油商　**カツラヤ**　石浦喜八郎　上尾久朝日町

和洋酒類　味噌醬油　薪炭　**上州屋**　萩原商店　上尾久山谷一八〇六　萩原勘二郎

洋酒　鑵詰食料品　卸　上尾久西小學校東通　時谷洋酒店　時谷恒藏

酒類薪炭　**丸八商店**　千葉祐次郎　上尾久九二七

薪炭問屋　和洋酒類　卸小賣　**高橋支店**　菅野三十郎　上尾久西町一一八七

和洋酒類　卸小賣　**尾玉屋本店**　苅部高之助　上尾久二二二〇

和洋酒類　薪炭　卸小賣　**田中金右衛門**　上尾久小台渡場通二七一

和洋酒類　薪炭　卸小賣　**榮屋**　多賀甲午郎　上尾久朝日町二三五

和洋酒類　鑵詰食料品　卸小賣　清酒忠勇特約店　**倉屋本店**　山田喜太郎　上尾久山田小路三號地

和洋酒類
卸小賣
越久
山崎久作
上尾久富士見町一七二

和洋酒類
卸小賣
藤屋
藤森重治
上尾久山谷本通二五〇四

和洋酒類
卸小賣
東京味噌出張所
船橋武次郎
上尾久富士見町一七二

和洋酒類
卸小賣
龜屋
小林善直
上尾久朝日町二五〇

酒類薪炭商
喜多屋
淺沼佐市
上尾久小台山谷通一六〇〇

和洋酒、罐詰
食料品
卸小賣
三技清五郎
上尾久熊の前二六九

和洋酒卸商
水谷商店
水谷清太郎
上尾久荒川遊園前

和洋酒
卸小賣
三堯鹽見順弘
上尾久沼付二五〇

◈好評なる菓子商

御菓子司
鈴木播磨
田中孫吉
上尾久小台渡場通

御菓子司
梅昇堂
都築貞亮
上尾久小台山谷通石橋際

御菓子司
立花屋
倉持鎭太郎
上尾久小台停留場際

御菓子司
岡埜榮泉
南田房吉
下尾久萬歲館前八八〇

◈衛生的牛乳搾取販賣業

滋養全乳業
永盛舍
島田良之助
下尾久九二〇交番前

◈正直なる糸綿蒲團商

蒲團蚊張
製造販賣
福助屋
菅野仟助
上尾久山谷通八七五

ふとん
座蒲團
蚊張綿類
警察署諸官省御用
村田商店
村田季嗣
下尾久本町通七八二

糸綿類
袋物類
組紐一式
ミシン糸
矢作商店
矢作惣藏
下尾久鬼怒電通二八四

ふとん仕立
糸綿
蚊張販賣
新井蒲團店
新井偉仙
下尾久赤土地藏通五〇五

◈堅實なる道具骨董商

書畫骨董
貴金屬
和洋家具
吉田赤ずぼん道具店
新古道具一式
吉田亀次郎
上尾久山谷小台通一四六

◈誠實なる金物商

大工道具
日用金物一式
大辻商店
大辻義廣
下尾久赤土四七六

金物一式卸小賣
增屋
上野保太郎
上尾久熊の前學校通

建築材料
工具類
家庭用　**金物一式**　**相澤勘兵衛**
上尾久山谷九二七

◈主なる寫眞舘

書間撮影　夜間撮影　**玉村寫眞舘**
上尾久熊の前

自宅撮影
出張撮影
現像引伸
夜間撮影　**眞野寫眞舘**　**眞野貞一**
上尾久八幡神社前

◈信用厚き乾物食料品商

乾物類
海産物
食料品　**伊藤商店**　**伊藤勝已**
上尾久一四八七
佐藤病院前

乾物食料品
其他　**石川屋本店**　**谷内次一**
下尾久赤土四六七

乾物
雜穀
メリケン粉　**黒田屋黒田鉄雄**
上尾久朝日町三四七

◈誠實なる青物商

洋食材料
和洋果物
青物各種　**伊藤商店**　**伊藤丑之助**
上尾久小台渡場通
一三七七

青物
果實
乾物　**商八百善**　**石井善次郎**
上尾久船方前

青物
水菓子
乾物類　**商八百酉**　**村田酉藏**
上尾久朝日町

◈土木建築請負業（いろは順）

土木建築請負業　**石井彌吉**
上尾久一四二五

同　**石田重吉**
上尾久三五〇六

同　**石田喜三郎**
上尾久熊の前二三三

同　**飯島清太郎**
上尾久二三五〇

同　**星重作**
下尾久石神

同　**戸田權之助**
上尾久八六八

土木建築請負業　**大谷安三郎**
下尾久三一五八

同　**勝村幾之介**
上尾久熊の前

建築請負業　**高橋仲吉**
下尾久五五二

家屋曳方請負業　**田島芳藏**
上尾久宮本町五〇一

土木建築請負業　**高橋邦治**
上尾久二九八二

同　**中澤榮作**
上尾久山谷

建築請負業　永井平盛　上尾久三一八五

土木建築請負業　上原建治　上尾久學校前通

仝　久我忠作　上尾久二九八八

建築請負業　黒須林藏　上尾久沼付二三

土木建築請負業　前田松藏　上尾久山谷本通三五一

仝　前田三吉　上尾久三一五二

土木建築請負業　江川新太郎　上尾久熊の前二六七

仝　手島助次郎　下尾久

仝　有馬邦太郎　上尾久一八九五

仝　佐久間佐七　下尾久本町通七一

◎主なる工務所

製圖代願
建築設計　明治工務所　小川錄三郎　上尾久本町通三三三

建築設計
製圖代願
代書一般　尾久工務所　田中千代次　上尾久役場前

◎信用厚き建築材料商（いろは順）

トタン板
生子板
丸釘、針金
建築材料　西山商店　西山傳平　下尾久鬼怒電通一七

トタン板商　殿塚鐵店　殿塚丈三郎　下尾久八ッ城七一

天然**スレート**　宮城**スレート**商會尾久出張所
採取販賣　加藤大太郎　上尾久朝日町

トタン板、丸釘
生子板、針金
建築材料商　中島商店　中島義朗　下尾久九二元（滿光寺隣）

壁左官材料一式
セメント、石炭
其他建築材料　土管商　山形屋　山形榮造　上尾久朝日町

トタン板
生子板
丸釘、針金　卸商　松原商店　松原藤太　上尾久荒川遊園前

◎信用ある材木商

材木
建築諸
材料商　犬井商店　犬井吉三郎　上尾久朝日町

諸材木商　小泉材木店　小泉喜平次　上尾久熊の前三〇三

竹木一式
四ッ谷九太
ヨシズ類　竹留分店　新井己太郎　上尾久熊の前二五二

建築用
諸材木商 齊藤材木店 齊藤登
上尾久八幡神社横河岸

建築用
諸材木商 吉材木店 北島喜七
上尾久富士見町一七八〇

諸材木業 清田茂寅
丸キ材木店清田出張所
下尾久七七七

桐材商 岩與支店 清水源藏
下尾久六九二

建築用
諸材木商 須山材木店 須山濱吉
上尾久朝日町

◈設備完全なる醫病院（いろは順）

小兒科專門 伴醫院 伴今雄
下尾久小沼

内科、外科
花柳病科
婦人小兒科
田中醫院 田中喜志二
上尾久役場前

内外科、産婦人科
花柳病科
耳鼻咽喉科
特設齒科
佐藤病院 佐藤要吾
上尾久小台通

内科、外科
小兒科
花柳病科
澁谷醫院 澁谷善吉
上尾久八幡町

◈家畜醫院

馬牛
犬猫 專門 尾久町家畜醫院
獸醫士 鈴木房之助
上尾久學校前二四六八

◈最も親切なる産婆業

助産婦 上野みつ
上尾久熊の前學校通

助産婦 古井悅子
上尾久沼付二六八

助産婦 阿部きく
上尾久朝日町

◈著名なる藥局藥店

歐米塗料各種
塗料一般
工業藥品
醫療藥品
化學藥品
内外染料

各國産油類
處方調劑

東亞ペイント株式會社特約店
松下塗料株式會社代理店
高田商會塗料特約代理店

石川寶山堂 藥劑師 石川平次郎
上尾久小台山谷通石橋際

◆處方調劑有名賣藥 ◆純良藥品工業藥品
◆衛生材料化粧品類

廣盛堂藥局 藥劑師 西作一
上尾久山谷二〇四〇（交番前）

◇衛生試驗藥品鑑定並ニ牛乳飲料水、醱酵酒精清涼飲料其他一般衛生的食品檢査

◆處方調劑 ◆藥品一般 ◆醫療器械
◆衛生材料 ◆化粧品 ◆學校用品

カクワ堂 渡邊藥局
藥劑師 渡邊愿
上尾久〔あら川遊園電停際〕五七三

◆處方調劑 ◆一般藥品 ◆高級化粧品
◆免許計量器

アサヒ藥局 藥劑師 川田四郎
上尾久小台電停際

◆寫眞材料と藥の調劑 ◆酸素瓦斯
◆計量器販賣 ◆各種小間物化粧品

田中藥局 藥劑師 田中好造
上尾久小台渡場通

◆處方調劑 ◆工業藥品
◆免許体溫器 ◆衞生材料

瀧澤藥局 藥劑師勳八等 瀧澤彦一
上尾久一五二〇寺ノ湯通

◆處方調劑 ◆內外藥品一般

辨天堂藥局 松倉市太郎
上尾久朝日町三四(大正湯隣)

◆高級化粧品 ◆賣藥雜貨 ◆家庭治療店

オゾ特約店 アカトンボ 慶野市太郎
下尾久小沼鬼怒電通り

◆處方調劑 ◆醫藥 ◆工業藥品
◆化粧品 ◆衞生材料

だるま藥局 藥劑師 古井雄作
上尾久沼付二六六

◆處方調劑 ◆一般藥品 ◆吸入酸素 ◆計量器

オダイ藥局 藥劑師 小出勝藏
上尾久小台山谷通

◆處方調劑 ◆醫藥工業藥品 ◆免許体溫器

萬歲藥局 藥劑師 青木健信
下尾久七三二(萬歲館隣)

◆和歐文處方調劑 醫藥工業藥品 ◆衞生材料
◆化粧品 ◆免許計量器 ◆吸入酸素

アンドウ藥局 藥劑師 安藤正夫
上尾久熊の前

◆處方調劑 ◆一般藥品 ◆高級化粧品

津田藥局 花柳病豫防藥ララ發賣元 藥劑師 津田春次郎
上尾久藝者家町

◆塗料とエナメル ◆ペンキ ◆工業藥品
◆處方調劑 ◆化粧品 ◆一般衞生材料

順風堂藥局 藥劑師 根本佳守
下尾久本町通

◆和歐文處方調劑 ◆醫藥工業藥品一般

山陽堂 藥劑師 中村藥局 中村英一
下尾久鬼怒電東通

◇處方調劑 ◇一般藥品 ◇高級化粧品
◇資生堂チエーレストアー

尾久藥局 藥劑師 熊倉勘一郎
上尾久藝者新道

◇和歐文處方調劑 ◇醫藥工業藥品
◇內外化粧品類

山口藥局 東京藥學士 藥劑師 山口印三郎
上尾久富岡町三七〇

◇內外處方調劑 ◇藥品一般 ◇衞生雜貨

政本藥局 藥劑師 政本六郎
下尾久四六赤土通り

◇處方調劑 ◇一般藥品 ◇化粧品
◇整腸止瀉藥**チアロン**本舖
◇鎭咳法治新藥カマリン特約店

龍光堂藥局 藥劑師 坂井義藏
下尾久一九二(改正大道路側)

◇處方調劑 ◇藥品一般

十文字藥局 藥劑師 佐川正雄
上尾久二三一三

◇處方調劑 ◇一般藥品 ◇化粧品

森藥局 藥劑師 森 長太郎

上尾久熊の野前電停前

◇處方調劑 ◇一般藥品 ◇衞生材料 ◇化粧品

鈴木藥局 藥劑師 鈴木福三郎

下尾久本町通八二三

◆處方調劑 ◆醫療藥品 ◆衞生材料

◆工業藥品 ◆賣藥雜貨 ◆化粧品

◆藥局方一般製藥

キク藥局 製藥師 鈴木眞夫 藥劑師 鈴木勝美

下尾久新渡場通二五八

◈最も信用ある齒科醫院

◈齒科一般 ◈口腔外科

門橋齒科醫院 院長 門橋良之助

上尾久山谷交番前

◈信用厚き吳服商（いろは順）

ホンマニヤスイ 吳服太物

田村吳服店 田村善吉

上尾久熊の前電車通

◈吳服商

相模屋吳服店 角田忠吉

上尾久熊野前學校前

◈吳服太物業

扇屋吳服店 北浦與市

上尾久朝日町二五二

◈吳服商

岸川吳服店 岸川伊左衞門

上尾久小台渡場通り

◈吳服商

辰巳屋吳服店 姫川繁治

上尾久熊野前學校角

◈誠實なる洋服商（いろは順）

◆毛織物並洋服裁縫販賣

大島洋服店 大島宗十郎

上尾久一〇三〇小台山谷通

◆トンビ ◆モジリ ◆オーバ

◆毛織物 ◆卸小賣業

渡邊洋服店 渡邊留次郎

下尾久鬼怒電通

◆洋服裁縫販賣 ◆學生服特價提供

◆最新流行型 ◆地質堅實

吉田洋服店 吉田喜一郎

下尾久本町通七二

◆懇切叮嚀 ◆裁縫堅實 ◆最新流行型

金龍堂洋服店 藤田嘉助

上尾久一九三（大八の横）

◈技巧を極めたる製靴業

◈最新歐米流行型 ◈製靴販賣

齋藤靴店 齋藤德太郎

上尾沼付二五〇

◈主なる書籍文房具商

◇地球印クラウン高級萬年筆

◇地球印メール高級萬年筆 發賣元

◆文房具 ◆事務用品 ◆運動具 ◆和洋樂器

地球堂 大門新太郎

下尾久本町通七〇

◆文房具事務用品 ◆和洋諸帳簿

◆和洋紙類 ◆電氣諸器具一式

中屋文華堂 天羽文次郎

上尾久小台電停際

◈商品豊富な小間物商

◆高級化粧品 ◆婦人小間物 ◆雑貨類
加藤小間物店 加藤 茂
下尾久本町八〇五

◆婦人小間物 ◆化粧品 ◆雑貨
クラブ堂 佐藤修二
下尾久鬼怒電通二五

◈主なる荒物家具雑貨諸油商

◆雑貨 ◆家庭用品 ◆煙草 ◆化粧品
板橋商店 板橋徳次郎
下尾久本町通八〇八

◈荒物雑貨商

金子商店 金子三吉
上尾久山谷本通三二九

◆内外諸油類 ◆化粧品 ◆雑貨
林屋林漸
上尾久富士見町二七〇

◆荒物雑貨 ◆家庭用品
田中商店 田中與八
尾久町船方荒川遊園地前三七

◈荒物雑貨 家庭用品 玩具

茂野菊次
上尾久朝日町角

◈誠實なる玩具商

◈教育玩具 ◈新新玩具 ◈ゴム
◈セルロイド製各種
ツバメヤ 荻生田定吉
上尾久熊野前二五二

◈信用厚き履物、傘、提灯商

◆美術履物 ◆地張諸國産傘
加藤屋履物店 加藤末吉
上尾久小台山谷通一六〇〇

▲流行履物 ▲地張傘類
富岡履物店 富岡義雄
上尾久小台渡場通一七〇

◆御履物 ◆諸國産傘 ◆各種草履卸
金吉商店 金杉晴吉
下尾久赤土通六〇〇

◆諸國産雨傘 ◆提灯、岐阜提灯 卸小賣
佐野屋 佐藤勝之介
上尾久富士見町二七

◈主なる瀬戸物商（いろは順）

◆諸瀬戸物 ◆陶器磁器 販賣
金子商店 金子金次郎
下尾久本町通

▲諸**セトモノ** 陶器磁器
角屋 **深井商店** 深井金十郎
上尾久朝日町踏切際

◈堅實なる薪炭、石炭商

薪炭卸小賣 **岡部嘉一**
下尾久赤土地藏通五七

石炭**コークス**卸小賣 **河上藏之助**
上尾久小台渡場際

石炭卸專門　加藤芳藏
上尾久三一六一

石炭卸小賣　吉川高藏
上尾久田島二九三

薪炭卸小賣　高桑正吉
上尾久沼付二六四

薪炭木材業　天野子之吉
上尾久沼付二三六

◈誠實なる自動車自轉車業

◆ホーオ號發賣　ダリヤ號代理店
伊藤自轉車店　伊藤竹治
上尾久小台山谷通一〇六九

尾久自動車商會　橋野幸輝
上尾久熊の前

◆スベエシーアル號發賣元
田中自轉車店　田中萬三郎
下尾久本町通七六一

◆ビーレース號發賣元　◆自轉車フレーム製造
高木製作所　高木保丸
上尾久二二四五

◇アキラ號　◇アタリヤ號　發賣元
佐藤サイクル本店　佐藤繁次郎
上尾久小台山谷通一四八六

◇クラウン號特約販賣　◇ミヨシ號發賣元
各種自轉車販賣
三木自轉車店　三木嘉一
上尾久小台山谷通九五

◆自轉車製作　◆各種自轉車販賣
先崎自轉車店　先崎豊壽
上尾久沼付二四九

◇マイルス號　◇フレム製造　◇エナメル塗裝
杉山自轉車製作所　杉山彦作
上尾久西町二〇二

◈信用ある電氣業者（いろは順）

◆王子電氣軌道株式會社上尾久散宿所
石橋一晃
上尾久一四四六

◆電氣一般事業工事設計請負
尾村電氣工業所　尾村眞士
下尾久六七二（八ッ城）

◆電氣百般工事設計請負
金子電氣工業所　金子岩次郎
下尾久大門學校通

▲電氣一般の事務
尾久電氣商會　宇佐見忠一
上尾久熊の前電停際

◆電氣事業一般工事請負
山口電氣商會　山口作次郎
尾久船方三〇六（荒川遊園通）

◆電氣電力工事請負　◆電動機發電機製作所
小林電氣工業所　小林庸吉
上尾久六九六

◆王子電氣軌道株式會社下尾久散宿所
清水尚平
下尾久八八〇

◈誠實なる白米商

精白米商　福田屋　石川吉男
上尾久朝日町通三一四四

◈嶄新な洋品店（いろは順）

▲帽子　▲洋裝品
武井洋品店　武井仁之助
下尾久本町通七六〇

◆帽子　◆メリヤス　◆雜貨　◆ワイシヤツ
◆カラー　◆小間物　◆化粧品　◆文房具
相生號洋品店　久保　巍
上尾久熊野前役場際

◆メリヤス　◆雜貨　◆洋裝附屬品
大阪屋雜貨部
安岡洋品店　安岡源之助
◇薄利多賣主義
下尾久七五〇（萬歳舘横）

◆帽子　◆洋品雜貨　◆メリヤス類
まけぬや　佐々木宏
下尾久本町通八二〇

◈着實なる漬物商

◆萬漬物　◆煮豆類　◆諸國名産鑵詰類
◆特製麹辛子漬
越中屋　手島浪之助
上尾久朝日町二四二七

◈製産に富めるこんにやく商

◆電力應用特製こんにやく製造卸
鈴木高藏
上尾久朝日町

◈美髪舘、美容園

美髪師　大正軒　加藤金次郎
上尾久朝日町

美髪師　榮軒　杉谷榮
上尾久朝日町

婦人美髪師　尾久美容園
美容部　眞野房子
結髪部　中山つる子
上尾久八幡神社前

◈發展せる溫泉料亭

◆御料理旅舘　尾久溫泉
◆入浴御隨意
小泉園
尾久熊野前電停際

◆溫泉旅舘
◆御料理
熱海
上尾久小台電停際

◆御料理旅舘
◆尾久溫泉
大河亭
上尾久小台電停際

◆御料理旅舘
◆元祖寺の溫泉
不老閣
上尾久八幡神社前

◆尾久溫泉旅舘
◆御料理
旭舘
上尾久八幡神社前

◆御料理
◆溫泉旅舘
光泉閣
上尾久熊野前

◆溫泉御料理
◆旅舘
富倉舘
下尾久鬼怒電前

◆御料理旅舘
◆入浴御隨意
熊野舘
上尾久熊の前

◆旅舘御料理
◆入浴御隨意
石橋亭
上尾久熊の渡場道

元祖 鯉御料理 清水瀧
上尾久小台渡際

御料理 辨天閣
上尾久熊の渡際

割烹 尾久華壇
上尾久八幡社前

御料理 川端屋
上尾久小台渡際

御料理 玉川
上尾久小台山谷通り

鳥御料理 いく代
上尾久八幡社前横

御料理 松月
上尾久宮本町八幡社前横

御料理 田毎
上尾久小台電停際

御料理 加登家
上尾久荒川遊園電停際

◆御料理
◆ありま温泉 あり ま
下尾久電停際

◆壽司御料理
◆仕出し 寶來すし
上尾久熊の渡塲通

◆壽司御料理
◆吾妻壽司 山崎家
上尾久西町グラウンド東側

御料理 初音
下尾久大門通

御料理 氣樂館
上尾久八幡神社東側

◆最も勉強なる西洋料理店

西洋御料理 東亭 渡邊正吉
上尾久熊野前稻荷社角

西洋御料理 喜樂 下川周吉
上尾久小台停留塲際

西洋支那御料理 金龍亭
上尾久小台山谷通

西洋御料理 カフエー三春 橋本義佐久
上尾久小台通一四九七

西洋支那御料理
滿洲軒 村田石重
上尾久山谷二〇三一

西洋御料理
清陽軒 近藤しげ
下尾久八三四

佛蘭西式西洋御料理 玉照亭
下尾久石神駐在所横

◆主なる藝妓家

いく松 眞柄敏
尾久新地町一八三五

小川家金森さく
尾久新地町一六六

春日家金澤昇
尾久新地町一八七

◇實直なる運送信托業
◆運送運搬業 ◆金融 ◆土地家屋仲立
◆債權債務の仲立 ◆特に小荷物輕便配達
べんりや 須藤文基
上尾久一〇八一

◇實直な和洋紙問屋
◆和洋紙 ◆小間紙 ◆文房具類 卸問屋
吉川紙店 吉川喜代壽
上尾久荒川遊園電停際

◆和洋各紙 ◆小間紙 ◆文房具 卸問屋
宮山商店 宮山五十
上尾久熊の前二五七

◇盛大なる鉄管、繼手、ポンプ商
▲鐵管 ▲繼手 ▲ポンプ 卸商
加藤商店 加藤由太郎
本店 南千住町三ノ輪二一二
支店 尾久町上尾久溝向三六

◇衛生及塵芥清潔社
中央清潔社 早川長次
下尾久赤土

中央社 大木清吉
下尾久赤土五七七

石井彌事 石井彌太郎
上尾久小台山谷通

清好舍 竹內こと
上尾久氣樂館横

◇堅實なる雜穀馬糧商
◆雜穀馬糧 ◆鳥餌玉子商
能美商店 能美金之助
下尾久赤土四四一

◇信用厚き染物店
◆京染悉皆 ◆友仙其他 ◆一般染物
駒崎商店 駒崎重太郎
上尾久朝日町三九一

◇主なる浴場
第一大正湯 廣瀨莊司
上尾久朝日町

草津溫泉 津幡廣作
下尾久小沼

◇新聞業者
東京時事新報專賣所 主任 高野納康
上尾久富岡町

東京每日新聞社尾久支局
主任 川久保安太郎
上尾久新地町

東京やまと新聞支局
主任　山本幸司
上尾久沼付二百

尾久新聞　社長　藤田通信
上尾久富岡町

帝國時事新聞　社長　藤本保
上尾久小台

尾久自治新聞　社長　植松嘉一
下尾久一一四四

尾久花柳報　社長　秋田二郎
上尾久熊の前

◎主ナル會社、工場、製作所　其の二

石田製作所
建具製作販賣　**石田德次郎君**
上尾久熊の前渡場際

當業者が顧客を永遠に侍つ事能はざるは他なし、稍もすれば材料の撰擇と、粗製濫造の弊に陷るが爲めであるが、德次郎氏の如きは深く此の弊風を鑑み商工德義の上よりこれが改善することゝし、熱心誠實を以て、實用向きに力を盡し、精巧にして且つ優秀なる製作品を產出するに努力したる結果、家運益々隆盛を來すに到れり、君は明治二十七年七月一日栃木縣鹽谷郡に生れ、同四十四年工業に志して鄉關を辭して上京し、深川區西平井町に於て專ら斯業の技術を研究を重ね奮闘努力して、獨立の基礎を固め同區內に製作所を設置し、事業旺盛なりしも、將來發展の地を卜して、大正九年十一月現在の場所に工場を開設し事業隆昌たり。

資性温順にして信用厚く、上尾久田島町々會創立に際し、擧けられて幹事長となり公共の爲め盡瘁せられつゝあり。

セルロイド玩具製作所
製茶卸小賣　**稻毛田與七郎君**

君は業界に於ける幸運兒たり曩に日獨戰役終局するやセルロイド製品需用地たる英米國に於ては獨逸製同品の輸出を絕たれ、其の供給に渴し內地にこれを需むるもの續出するに至りたるのとき、氏は玆に活眼を射てセルロイド加工業を開始し、製品の改良と原型嗜好に深く研究を重ね、刻苦誠勵其技術を探練し遂に獨逸品に凌駕するものを製作するに到れり且つ一面鄉里に製茶工場を有して、廣く自製銘茶を薄利多賣主義を以て販路擴脹を講し、今や家運益々隆域に進み、信用愈々厚し、尾久セルロイド安全會副組會長に就任す氏は明治十四年十月七日茨城縣猿島郡に生れ、明治三十四年步兵第三聯隊に入營し、累進して特務曹長に任られ、日露戰役に從ひ千軍万馬の間に馳突して殊功を樹て、勳七等に叙せられ靑色桐葉章を授けられる大正二年豫備役に編入と共に安藤男爵家に家扶として就任　大正五年實業に志して同家を辭し、下谷區金杉上町に工場を設けセルロイド加工品製作に夙夜研究を積み家業益々旺んなりしが、大震災の厄に遇ひ現在の個所に移り、專ら玩具、雜貨等の製品を大々的に製產することゝなり事業益々旺盛たり。

資性　溫良にして堅實なり　業界の信望厚し。

各種改良農工鐵具製作所
五大商店　**細谷要之助君**
下尾久赤土三六一

君は堅忍不抜の氣象に富み、如何なる艱難に遭逢すると雖、是れを貫徹せざれは止まざるの概あり氏が今日の成功あるは蓋し是れがためのみ。

氏は明治拾六年一月一日麻布區飯倉三丁目に生る幼少の頃より斯業に研究を重ね、三河島町三〇一二

番地に關東農具製作を設け、共同經營をなして製作部長を擔任し至誠熱心を以て業に當り成功を極めたりしも尾久の前途に眼を注ぎ大正十二年二月現在の地を卜して工場を新設し、改良農工具の製作を開始し、渾身の力を傾倒して良品の製作に努め、販路は各地に擴張され、益々事業繁劇なるより同所に販賣部を設け、製作品並に一般金物類を販賣し誠實を旨とし顧客を迎ふるの故を以て信用厚し。

諸機械火造
酸素鎔接
土木建築金物
一式請負
汽鑵煙突製作
及修膳

保苅鉄工所

所主 保苅保太郎君

下尾久小沼一六〇

君は明治二十五年新潟縣新潟市に生れ、幼少時代より工業に志し、鄉里新潟鐵工所に就職して專ら斯業の研究を重ね、其技工益々進みたりしも、我が志を貫くは帝都にありとなし、明治四十三年奮然上京して石川嶋造船所に入り、尙精巧なる妙技を研くこと五星霜、大正六年獨立自營の目的を以て 日暮里町に鐵工所を開設し 奮勉努力の効空しからず家運隆域に進み、工場狹隘を感するに到り 大正十二年三月業務擴張のため現在の場所に工場を新設し、益々發展を示せり、氏は資性溫順にして、一見順羊の如くなるも一度局に當れば猛雄虎の如く、如何なる難事業と雖、成功せざれば止まざるの概あり、然れ共人と爭ふを好まず、從好く剛を制するの筆法を以て是れに接し、相對するものをして降服せしむと云ふ。

綿類製造販賣

堀切製綿工場

場主 堀切留藏君

上尾久溝向二二六〇

君は誠實にして、而も商才に富む、常に商業德義を重んじ一片の商取引にも信實味が顯はれて居る、其製品は原料の選良と價格の低廉旨とし、顧客本位を以て需用に應ずること爲し居るため、一般の信用最も厚く業界に於ける屈指の工場たり、氏明治十二年三月埼玉縣北葛飾郡彦成村に生る、同二十八年商業に志して上京し、淺草區西仲町に於て糸綿商を經營し家業旺盛となり、大正十二年四月現在の地に移り工場を新設して事業に奮闘して居る。

金太郎印蓄音機針 東京蓄針製作所

所主 大堀卓爾君

上尾久一二九

君は明治二十二年千葉縣香取郡新島村に生れ、幼少の頃より學業に志して上京し、夙夜奮勵勤勉、の功は空しからず、明治四拾三年早稻田大學、政治經濟科を首席を以て卒業し、同時に東京毛織株式會社に就職、大正四年七月退社と共に、千葉縣佐原興業銀行湖來支店長に就職し小見川支店長を兼ねて大正十二年二月迄在職せり、氏は資性溫柔にし英才あり年來企圖爲しありたる蓄針事業の有利なるを確認し斯業に關する幾多の研究を重ね、品質と產出とに卓絶なる器械を發明するに到り、大正九年現在の地に工場を新設し、爾來銳意熱心殆んと寢食を忘れて、經倫を積み遂に外國品を凌駕するに到り、橫濱、神戸を經て廣く海外に輸出するにいたれり、今日の成功は氏の經營方針と優秀なる製品を產出する賜のである。

光學レンズ 眼鏡レンズ 一般製作

鳩印レンズ製作所

所主 奥田平兵衛君

上尾久田島町二八七〇

奥田平兵衛君

君は資性溫順にして識見抱負共に豊な人である平兵衛氏は幼少よりレンズ製作事業の有望にして前途永遠に需用多大なるを達見し、決然意を決して斯業に身を起すべく年十三歳にして鄉關を辭し、漂然帝都に出で知己を求めて、本鄉區彌生町高林レンズ製作所に入り光學用、眼鏡用のレンズ作業に從事し不屈なる精神と、克己揮ひ立つ精勵は其技能に顯はれて、最微精密なる妙技を習得し、以て他を凌くものあり、爾來研究を重ねつゝありしが、大正三年徵せられて、砲兵第十八聯隊に入營し 同六年除隊後前工場に復歸して

研究部に入り、益々細密なる學理と技工を研き　大正七年六月同工場は東京瓦斯電氣工業株式會社と組織を變更すると同時に技工長に擧げられ、海軍工廠の重なる精密器械の製作を担任し　大正十一年六月獨立の目的を以て同工場を辭し、現在の地に工場を開設し專ら光學用、眼鏡用レンスの改良製作に努め業務盛況である。

君は田島町々會創立發企人として努力せられ創立總會と同時に副會長に擧げられ公共の爲盡瘁せらるゝことを研究し　襖組子及建具材料として、製造を企圖し東京に其製造場を設け、專ら此製造に從事し一面これが販賣の擴張を計りたるに日々刻々需用者の多きを加へ、現在秋田縣能代湊羽立町に工場を設け、當所並に京都市大宮通四ッ坂下るに販賣部を開設して家運益々隆昌たり。

君は性　温和篤實にして信用厚く　擧げられて上尾久自治會々計主任たり。

襖組子材料 建具用材 小割 一式製造販賣
小倉商所　小倉亀太郎君
上尾久二二七四

君は明治八年十二月二十日神奈川縣横濱市に生る幼少時代より商業に志して上京、本所區相生町に於て玩具製造業を營み、大正六年木材暴騰時代に廢材を利用することを意途して、秋田縣能代湊羽立に出張したるに偶々同地にて、推積せる廢材の用途なきに苦み居たる際なれば、これを有意義に應用するこ

諸機械並ニ自轉車附屬品製作販賣
大里鐵工所　代表者 栗原工八君
營業主任 石橋助司君
下尾久二二八一

栗原氏は明治廿四年十月埼玉縣大里郡深谷町に生る、工業に身を樹つるを目的として上京、爾來克苦奮勵して斯業に關する學術及技工の研讃を積み、工場を經營して益々其基礎充實するに至り大里鐵工所を經營することゝなつた。

石橋氏は明治三十年三月同縣同町に生る、兄栗原氏と共に工業に志して上京、所定の學業を卒へ淺草

區藏前工業學校に入學、不撓の勉學は遂に同校を首席卒業せるを機會として、大正十年五月現在の地に工場を開設し、誠實を以て事に當り熱心勉勵の功空しからず今や家運隆昌たり。

建具製造販賣
小澤製作所　所主 小澤元道君
下尾久赤土四七七

君は明治十六年山梨縣甲府市に生る、幼少時代より工業に立志し、鄉里に於て斯業を習得し　運命開拓の目的を以て明治四十年上京して、深川區に製作所を開設し、爾來熱誠を以て奮闘の結果事業旺盛なりしも大正十一年九月事業擴張の爲め、當地に移り現在の地に工場及販賣所を設け、其製品は精巧堅牢にして、類を出で、群を拔くものあり、故を以て顧客繁多に向ひ家運益々隆況たり。

セルロイドヒンポン球 同雜貨 玩具
小川セルロイド工場
場主 小川五郎吉君
下尾久赤土

君は温順にして宏量、克く對話者をして意得せしむ、人をして感動を與へ以て交際廣く、凡ゆる方面に其の智腦を發揮して居る、下尾久商睦會創設に際し發企人として努力し、擧げられて幹事となり、尾久セルロイド安全會の創設委員となり創會に盡力し幹事に就任、專ら業界の爲め盡瘁せられ居れり、氏は鄉里に於て學業を卒へ、單身上京して工業に關する技術を研究し、千代田工業株式會社工務課に奉職して獨得の技工を鬻ひ、同社の爲め益することと勘なからず、大正十一年獨立の基礎を立て辭職し、現在の個所に工場を新設して球類並に雜貨玩具等の優秀なるものを産出して事業益々隆盛たり。

建具製作販賣所
川口製作所　所主 川口鶴吉君
上尾久沼付二一〇五

君は明治三十三年三月新潟中頭城郡の大濱村に生る、明治四十一年斯業に志して鄉關を辭し、上京して本所區長岡町に居住し、爾來建具製造工場を經營し、事業に奮勵して、益々誠意研究を積むこと多年

其効空しからず、遂に功成つて大正十一年日暮里町に同業を開始し大正十三年十二月現在の地を卜して工場並に販賣部を新設し家運益々隆盛を極む。

性資　温和にして信用厚し。

高級羅紗鋏製造
吉原製作所　所主 吉原春吉君
上尾久朝日町三六

君は自彊不息倒れて後已むと云ふ、剛健な氣質の持主である、然して氏はこの氣概を以て多年斯業に從事實驗と研究とより得たる、技術上の手腕は非常なる熟達の域に進み、遂に優秀以て輸入品を凌駕するに足る高級なる優逸品を製産するに依つて需用者の殺倒することゝなり、爲めに家運益々隆況を極め居れり、君は明治廿六年東京市本鄉區千駄木町に生る、曩に日暮里町に工場を新設して事業旺盛なりたりしも、工場擴張の爲め大正十二年七月現在の場所に工場を移設したのである、氏は公益に盡すに寢食を忘れてこれに冒頭し日暮里町に居住當時も故を以て、同新開地消防組長に擧げられ現に上尾久朝日町々會幹事に推薦せられ公共の爲め盡瘁されて居る。

フライ糖菓子問屋
天龍堂本店　店主 多田粂三郎君
上尾久沼付二一〇四

君は明治二十三年九月愛知縣岡崎市伊賀町に生る、幼少の頃より器械の發明を好み、製菓業に關する幾多の器械を案出して、廣く同業者間を利潤し來りしが、鄉里に於てフライ糖の製造に從事したりしに偶々其製作上に於ける完全なる切斷機なきを憂ひ明治四十二年より大正七年に亘る八ヶ年間長野縣飯田町にて此切斷機の發明に不屈の力を瀝ぎ巨資を拋つて該機の創造を試み克苦心血を注ぎたるに其効果空しからず、遂に優良なるフライ糖切斷機を發明するに到り、更に其規模を擴大して益々研究を重ね今や其完成を見るに至つて精巧極りなき優等品を製作するに容易ならしめることゝなり、專賣特許を受け遠く海外まで販路を有すると云ふ、然して斯の機の完成を告くると共に同器械の注文殺倒するに至り各府縣同業間に制限販賣を爲し、一縣下に何臺と定めて販賣されて居る、他に見ざる盛況を極めて目下其製作に勉めつゝあり、斯る好果を擧げたる所以のものは實に氏の慧眼能くこれが適切に事業の將來を看破し至誠熱心に努力せられた賜といふべし、氏はこれを一層革脹と地方取引上の關係とにより大正十年八月府下日暮里町に本店を移し、愛知縣と長野縣に亘る土地に於て該機の發明成りたるに依り、天龍川の名稱に因み店舗を天龍堂と命名し、益々事業の發展を示して居る、現在支店として九州福岡、北海道函館、宮城縣仙臺、福島縣郡山、山梨縣甲府、長野縣松本等の六ヶ所に設置し、隣接縣下部所を定めて活躍してゐる、大正十二年十二月現在の個所に店舗を新築し工場を開設し、機械製造販賣及フライ糖卸賣を爲し家運益々隆盛なり、上尾久沼付町會相談役に推薦せられて公共の爲め盡力するところ尠からず。

ビーレース號發賣元
自轉車**フレーム**製造
高木製作所　所主 **高木保丸**君
上尾久二二四五

君は性温厚篤實にして、人に接すること春の如く頗る職望に富めり。

明治三十一年十二月福島縣二葉郡に生れ、幼少時代より斯業に志し、大正六年上京爲し、下谷區竹町宮澤商會工場に於て專ら輪業に係る、技工の研究を重ね、大正十二年獨立自營の目的を以て現在の地に工場を開設し、自轉車フレーム製作に肝膽を碎き夙夜奮闘の結果家運益々隆昌たり。

手拭印伴天 手拭浴衣地染工場
小台染工場　場主 堤源作君
上尾久一二六四

君は明治十五年年三月長野縣埴科郡に生れ、性温良なる熱心家にして數年一日の如く精勵して倦むことを知らず、故に其の事業の前途赫々たる光明を認められつゝあるも又所以なきにあらず、幼少の頃より斯業に志して上京し、神田區東福田町一番地泉川染工場に於て、商業の機智を習得し、爾來專心研究と經驗を重ね多年努力の結果は、其獨立の基礎確固たるに到り、大正十一年現在の地に擴

大なる工場を開設して、染色の改良と化學應用の進歩に伴ふところの新機軸を案出し其改善に盡するもの多々たり、堅忍宜く事業に從事したるため取引先の聲譽を得て家運益々隆盛を見るに至れり。

板材木、製箱商
金中商店 店主 中谷晴重君
下尾久一二七

君は着實なる實業家として知られ、簡重寡默にして而も其意志稜くべからざる確乎たるものあり。

明治十七年十一月一日和歌山縣伊部郡高野山に生れ、鄉里に於て材木商を經營し、事業益々隆昌たりしも大正十二年十月將來の發展を卜して帝都に出で

中谷晴重君

本所區石原町六十一番地に建具製造業並に製材所設置し、一面尾久町の將來に着目し百餘の住宅貸家を建築する目的を以て現在の場所に移り板材木並に製箱商建具襖及材料

卸販賣部を設け同部主任として横田嘉一郎氏担任し家運益々隆昌たり、因に氏は日本橋區橘町貳丁目七番地に市内販賣部を設け建具襖並に材料を販賣し香川賢三郎氏主任となり居れり、氏が天性の商才は是より一層圓熟せれる事である。

製材業並に建具製造販賣
內野商店製材所 內野達雄君
上尾久六〇四

氏は活達有爲の人、明治十四年埼玉縣比企郡に生る、幼にして土木建築請負業に志し、十一才にして大志を抱き鄉關を辭して上京し、市內に於て斯業の機智を習得し、爾來專心これが事業に心血を注ぎ、飛躍の機を窺ふ時偶々日露の國交斷絕となり、意を決して建築班として從軍し、諸所占領地の事業に從ひたりしが同三十九年九月獨立志願を爲し、大連に於て請負業を開始し着實なる努力は家運隆昌を極めたり、大正二年歐洲戰爭に際し海軍酒保として山東省老山灣に上陸し砂湖酒保を經營し同地陷落と共に青島に入り直輸出入商を開始し、益々發展成功せり、大正十一年四月歸朝後現在の地に住宅店舖及製材所を新築し、傍ら建具製造業を開設して隆盛を示し居れり。上尾久西町々會副會長に擧げられ信用最も厚し。

マルエブル並に鑄鐵製造業
松村鑄物工場 場主 松村末藏君
上尾久二三五六

君は慶應三年六月五日福井縣大野郡勝山町に生る明治三十二年工業に志して上京し、本所區林町に於て斯業の研究を重ね、同所にて理髮用バリカン製造工場並に販賣部を設け、自か經營の傍ら輸出向の實地研讀を究めて、製品の改善することに勉め、優良品を產出するに至り、完美なるものを海外輸出することゝなり廣く貿易業者へ製品の供給に遑なき盛運となれり、工場設備其他狹隘を感じ、事業擴張のため大正九年現在の地に移り宏大なる工場を設けて、マルエブル、鑄鐵製造に從事し家業日に月に隆域に進みつゝあり。

建具、家具一式製造販賣
牧野建具製作所 所主 牧野直一君
下尾久赤土六三七

君は資性溫順にして事業に熱誠たる人 明治三十二年北海道に生れ、幼少時代より鄉里に於て、斯業の技工を研究なし、其機智を習得するに及ひ同地に於て工場を起し、獨得の技術と、その經營の宜しきに依つて益々事績を擧けたりしが我が目的を達成するは帝都にありと斷然鄉里を辭して上京し、市內に於て工場を起し爾來奮鬪努力する事多年益々隆昌を見たりしも、大正十三年一月現在の地を卜して工場を開始し、製作品の向上に努め、其製品は專ら時機に適應したるものを、材料を選擇して、且つ品質の堅牢と價格の廉なることを以て同工場の誇とするところである、故に鑑識の明ある需用者の歷訪多く、信用益々加はり業界の有數の隆運を示し居れり。

牧野直一君

美術袋物類製造　蒔田岡平君

上尾久沼付

君は明治二十五年三月長野縣北佐久郡中津村に生る、大正元年斯業に志して上京、下谷區仲徒町に於て斯業の技工を磨くこと多年、其妙技研究成るに及んで淺草清嶋町に店舗を開設し海の嗜好に適せるものをその才能によりて案出し江湖の稱賛を得て、製造に追はれつゝある盛況を告けたりしも、大正十二の大震災に遭遇して同年現在の地に製作所及住宅を設け、熱心誠實を以て其製作に從事し然も其製作品の精巧にして、且つ實用的のものを製出することて事業益々盛んなり、擧けられて上尾久沼付町々會副會長となり、信用最も厚し。

セルロイド玩具、球類、雜貨
藤村セルロイド工場　藤村清枝君

下尾久赤土

君は温量着實にして、謙讓なる實業家なり、群馬縣の人、幼にして商事に志し、學業を積みたる後、鄉里に於て雜貨及び織物商を經營し誠心努力の結果事業隆域に進み土地の信用益々厚く成功者たりしも將來の活躍は帝都に有りとし、經營事業を他に讓渡して大正三年上京し、淺草區森田町千代工業株式會社營業部主任として奉職、爾來斯界の研究と性來の商才を發揮し、同社の爲め盡すこと尠なからず、故を以て同社功勞者の待遇を受けて大正十一年まで勤續し其功績は擧けて數ふべからず、辭職後現在の地に住宅工場を新設し、家運益々隆昌たり、擧けられて尾久セルロイド業安全會々計に就任し、事業の發達と町の向上に盡し居れり。

養鷄場
近藤友禽舍　場主　近藤虎二君

上尾久二〇二〇

曩に政府が農家の副業として、盛んに養鷄事業を奬勵せしより一時養鷄熱非常に熾んなりしも其飼育法宜しきを得ざると。是れを輕視したると其研究を等閑に附したるとにより、世の多くの當業者は失敗に歸し、政府が兎角の奬勵も遂に瓦弊水泡に屬せんとするに際し、近藤氏の如き篤志家の奮然として蹶

起するあるは斯界復興の爲めに大に多々とすべきなり、君は明治十五年新潟市に生れ、幼少の頃より商業に志して上京、製菓業に從事して盛況なりしも養兎業の有益なるに着眼し、大正四年府下田端に養兎場を開設して効果を收め、大正八年養鷄事業を起し現在の地に移りたりしも、未た此地の見渡す限り田畑のみにて人家寂莫たる中に草分けとして近藤友禽舍と稱する養鷄業を開設し、事業益々隆盛を極め居れり。氏は資性温柔にして德望高し。

義照大工道具打及物製造販賣　小山打刃物工場
小山商店　小山吉次郎君

下尾久赤土六四六

君は明治十七年新潟縣蒲原郡三條町に生る、幼少時代より鄉里に於て斯業の研究を重ね　大工道具の工作に妙技を得て尚も間斷なく、これ練磨すること多年二十四才に及んで上京、淺草區鳥越町に工場を開設し、爾來奮闘の結果其の技術益々精巧を極め、大正元年日暮里町新開地に移り、事業旺盛となり、工場狹隘を告くるに至り業務擴張の爲め、大正十三年十月現在の地に工場並に販賣部を新築して事業發展せり。

因に氏の製作に係る刃物は一として切味變はれるものなく、絶對佳品として銘義照の名聲赫々たり。

電動機　發電機　電燈電力工事請負
小林電機製作所　小林庸浩君

製作所　下尾久赤土
工業所　上尾久六九六

君は明治三十年五月四日山梨縣南都留郡船津村に生れ幼少の頃より工業に立脚せんものと志し　鄉里に於て電氣學に關する幾多の學理を獨學し、これが經驗應用を重ねべく鄉關を辭して甲府市に出で、同市水力電氣株式會社に於て專ら斯界の實驗を積み大正七年上京し日暮里町に於て尚も電氣事業の研究を重ね、大正十一年十二月現在上尾久六九六番地に移り電燈電力工業の請負業に從事し　益々事務旺盛を極めたり。

大正十四年二月下尾久赤土に電動機　發電機の製作所を新築して工場を起し　獨得の技工を發揮して

學理的のものを製作することゝなり　需用多大の增加を來たし　繁榮の域に進み所員十數人を使用して目下の其製作に沒頭せられつゝあり。

氏は資性　順和にして斯界の囑望篤く慈愛心に富み信用厚し。

神佛具製造其他塗物一般
遠藤佛具店　遠藤久四郎君

下尾久赤土六三三

君は明治十三年新潟縣三條町に生れ、幼少の頃より家父の業に從ひ神佛尊像を刻むにその天性の妙技と父祖の指導等に依り、其彫刻品は神技に近きまでに丹能の域に進み、一意專心これを練磨し宜く斯業の極を究めたり、將來の發展を畫策して帝都に出で明治三十九年神田區に開業し、盛況に伴ふて、店舗擴張の爲め淺草區に移り非常なる發展を告けたりしが、大震災の厄に遇ひ大正十二年十月現在の場所に店舗を設け家運益々盛んなり。

性　柔順にして信望厚し。

セルロイドピンポン球
玩具、雜貨
櫻井セルロイド工場　櫻井廣直君

下尾久九九一（停留場際）

實業家として成功は何れも其根據なかるべからず成功の三要素なきは失敗に歸すること必せり、仮令一時は或る動機に依り成金なることありと雖、最後には必す其然らざるものなし、所謂三要素とは何ぞ誠實、勤勉、敏活等是れなり、然も陷々たる今日の實業界を見るに勤勉、敏活は兎も角其誠實を欠くもの尠からず是れ遂に失敗を招く、基因なり。

櫻井廣直君

や一些事として是れを等閑に附するは戒めむるべからざるや勿論なり。

廣直氏の如きは實にこの三要素を完全に俱備せる人と云ふべきなり、氏は明治二十一年長野縣小縣郡に生る、鄉里に於て蠶業に從事經營宜しきを得て家運隆昌たりしも、我運命を開拓するは帝都にありと、三十二才にして上京し千代田工業株式會社に技師長として就職し、爾來同社尾久工場を擔任し同社隆昌の基礎を確立ならしめ、功績顯著なるものあり、大正十三年獨立自營を志して職を辭し、現在の個所に工場を開設して事業益々隆昌を極め、信望最も篤く、下尾久協和會第二支部長、自治聯合會幹事、セルロイド安全會副會長等に擧けられ公共に盡瘁せられ居れり。

寫眞機製造　齋高金庫發賣元
日本人造ストン商會　會長　齋藤任弘君

上尾久田島町二八〇七

世の中に金庫が製造されて出たのは今より百餘年前のことであつた、多くの製造工業中に金庫は古い歷史を持つて居る、然しながら鐵製金庫の耐火の點は依然として進歩しないものが多い、最近に於て吾人の最も印象の深いものは大正十二年九月一日の大震災に於ける金庫中の財寶は灰と化したるのが尠くないのを見ても　熱の絕緣裝置の不完全なることが明らかである、氏はこれを遺憾に思ひ、其原因に就て高橋氏と力を協せ諸方面より研究資料を蒐集し、調査の歩を進めしにこれ等の多くは「扉」によることを發見し、如何してかこれが完全なる金庫を製作せんと研究を續け、偶々槌屋氏の金庫構造に關する記事を見て一層發奮し日夜寢食を忘れて凡ゆる犧牲を拂ひ實驗と研究に沒頭したる、結晶は玆に完全なる、特許鐵筋コンクリート製齊高金庫の完成を遂げたのである、氏は堅忍不拔の氣象に富み、一旦目的を立てたる事業は如何なる困難に遭遇すると雖、是れを貫徹せされば止まざるの氣概あり、蓋し氏の今日の成功あるは是れが爲めである。

君は明治十二年八月新潟市に生れ、幼少の頃より工業に志し、鄉里に於て木工の研究を成し、明治三拾六年上京して、海外直輸出金屬品の加工所を設け事業盛況を極め、尙寫眞機の製作に苦心研讃を重ね効を奏して輸入品を凌駕するものを産出するに至れり、又人造ストンの製造に從事し其質優秀なるを以て江湖の信用最も厚し、君は田島町々會創立に際し擧けられて同會幹事となり、公共のために盡されてゐる。

ゴム風船專門
水谷ゴム店　水谷富士松君

下尾久赤土五五一

氏は常に廉直にして商業道德を重んずる人である語に曰く正直は最善の商略なりと、氏が今日の地位を占得したるは實に此最善を全ふして實踐躬行しつゝあるの結果に他ならずと謂はざるべからず。

君は明治二年六月三重縣に生れ、明治十七年商業に志して上京、將來ゴム風船製造業の有望にして利潤あることを達觀し、これが製造に苦心研究を重ね遂に効果を得て、本邦に於けるゴム風船の製作することを得たる卒先者たり、爾來誠意努力を以て製造に從事し、販路を擴張して多大の製產高を見るに至り同業の元祖たり、府下澁谷町、巢鴨、龜戸、尾久等に直營工場を設け、事業隆昌に伴ふて店舖狹隘を告げ、大正十三年現在の地に高莊なる店舖住宅を新設し、商運斯界に冠たり、氏はゴムチーブ入滋養メリブ糖を發明し需用旺盛を極む、赤土共盛會々長、協和會幹事等に就任せらる。

カルニユー光學株式會社
光學機械製作　神藤新吉君

上尾久熊野前

氏は壯年有爲の實業家にして、且つ非凡なる精勵に富む活動家なり。

明治三十一年茨城縣眞壁郡に生れ、幼少より光學に志し十八歲にして大志を抱きて鄉關を辭し、帝都に出で、專ら工業上の學理と應用との智識研讀に渾身の心力を捧げ、顯微鏡の製成を研究し爾來奮闘努力の結果遂に此の最微たる妙技を凡ゆる部分に頭角を顯すに至り、其の技工上に於ける作品は輸入品を凌駕する優秀なるものを製造し得る域に進み、現在の場所に工場を設けて盛況なりしも、事業擴張の爲め大正十一年カルニユー光學株式會社と組織を更め本社を牛込區西五軒町十一番地に置き、國產顯微鏡隨一の製作所として各官廳、病院等の需用を滿し益々隆盛である。

ラケット、バット製造
森下製作所、場主　森下伊之助君

下尾久五三四（鬼怒電通）

君は資性　溫順にして寡默なる奮闘家なり。明治二十六年十月愛知縣知多郡野間村に生る、大正三年工業に志して上京、爾來實兄龜吉氏と力を協せラケット、バットの製造に苦心研究を積み　大正十年三月現在の地に工場を開設し事業益々盛況にあり　因に氏の工場作品は嗜好に適せる精巧堅牢なるを以て運動界の稱譽を博して居る。

すき毛原料、附鬚、其他一式問屋
當世美人すき毛本舖
大平商會　鈴木利次郎君

工場　上尾久三一五五

君は性　從順にして、才能群を拔き着實達觀の人である　事業に熱誠にして千秋一日の如く精勵倦むことを知らず　ために家運益々旺んにして信望最も篤し。明治二十三年四月栃木縣上都賀郡に生る、鄉黒に於て商業に志し雜貨及蠶糸業を經營し　事業順盛なりしも志を立つて、大正二年上京三の輪町に於て、マニラ麻眞田製造輸出販賣業を經營し、家運隆昌なりしも人毛業の有望なるに着眼し　大正九年よりすき毛卸賣　及び原料製造業を營み事業擴張の爲め大正十二年十月現在の地に工場並營業場を移し益益發展せり。

マイルス號、自轉車フレーム
自轉車エナメル塗製作
杉山自轉車製作所　所主　杉山彦作君

上尾久西町一一〇一

君は明治二十二年靜岡縣に生れ　幼少の頃より斯業の工作に從事し　志を立つて、上京芝區に居住して輪界に關する幾多の技工と機智を習得し　爾來益々研讃を重ね　大正十二年十月現在の地に工場及營業所を開設し　至誠熱心を以て業務の成績を擧げ家運益々盛況を極む。

君は資性　溫良　廉潔にして德望高し

附言

本冊子掲載者に就て

世運の進化向上は誠に喜ばしき極みなれ共、其餘弊こして剛健、摯實の氣風日に銷磨し、輕佻浮薄の思潮漫延し、唯だ外觀の華美を衒ふに吸々こして、內容の充實を顧慮するもの丶如き、曉天の晨星も啻だならざるは實に現時の狀態にして二宮尊德翁の粒々辛苦の軸物は學校に備へられ、家庭に飾られ居るこ雖、虛榮に浮き身を窶し居るもの日時多きを加ふる風潮こなりたれば、心ある人々は國家の前途を憂慮しつ丶ありこ雖、滔々こして大勢の傾く處如何こもする能はず、徒らに歎息慨嘆の資料こなるのみ、斯の時に當り正直勤勉の人ありて、能く家産を隆興し富源を開發するものあらば、其貴賤の如きは素より問ふ所にあらずして其人々こそ眞に國家を維持する砥柱こして吾人は多大の敬意こ尊重を拂ふを禁ぜざるなり、本社は素より斯の如き人々を選びて本冊子に揭載したるものにして、或は一寒村に生れ眇々たる一農夫にして、奮然身を起し正直勤勉以て功を奏したるものあり、或は奮闘勉學以て識學才能他に秡んずるものあり、亦然らずこ雖、不休不撓の精勵好く他の典型こなるべき人々を以て滿たされて居るは、刻下の常弊を叱咤し世の風敎改善を鞭達する資料こして、此企圖を有意義ならしめんこことを敢て識者に希ふ。

著者

興業の今昔

石川寶由堂主　石川平治郎君

氏は性　剛健着實なる實業家にして、且非常なる活動家なり、店頭には一般藥品　工業用塗料材料等を商ひ居れども、是れを概ね家人に委ねて、氏は東京獸醫學校に奉職し、理事兼講師として精勵せられてゐる。

君は明治二十一年福島縣信夫郡に生れ幼少の頃より學事に志して上京し、明治四十四年東京獸醫學校を第一位を以て卒業の榮冠を荷ひ、陸軍技手として白河軍馬補充部に奉職すること二星霜、大正三年藥劑師試驗に合格し　大正七年より東京獸醫學校に教鞭を取り現在に至る、亦商才に敏なる氏は尾久の將來に目を注き　大正十一年現在の地に店舗を設け、一般藥品は勿論殊に工業藥品、塗料原料に重きを現に日立製作所、二本松電氣株式會社、東京建鐵株式會社、東京綱鐵家具製作所、東京工板工業所等の顧客を有して家運益々盛況を極めてゐる。

下尾久本町々會副會長　板橋商店主　板橋德次郎君

君は明治二十年七月千葉縣東葛飾郡行德町に生れ幼にして工業に志して專ら電機學を好み、所定の學課を終へ、更に電機專政の最高學府を首席を以て卒業し、爾來市内に於ける最大電氣事業會社に技師として就職すること五星霜、大正五年辭職後府下電氣會社技師として勤續して精勵の聲は社内に滿たされてゐる。

大正十一年十二月下尾久本町通りに住宅及店舗を新設し　雜貨商を開始し家運益々隆昌たり、擧けられて下尾久本町會副會長となり專ら公共に盡瘁せり。

材木商　犬井吉三郎君

君は誠實なる實業家にして、資性從順業務精勵なるが故信望あり。

明治十年東京市京橋區松屋町に盛大なる材木商を營みたる寅吉氏の男に生れ、實父の業を繼き諸國山林原産地より、材木を直輸して益々經營宜しきを得たりしが、郊外の發展を鑑み大正十二年十月電氣應用の製材工場を上尾久朝日町に開設し、着實的に製材と材木業を營み、方針宜く需用者に適應して今や著しく發展せり。

精白米商　石川吉男君

君は明治三十二年東京市神田區明神下に生れ、年少の頃より商業に從事し　市内に於て專ら同業の機智を習得し、本郷區根津藍染町にて白米業を營み奮闘營業に熱心なる効果は其人をして隆昌ならしめ大正十年一月上尾久朝日町三一四四番地に營業擴張の爲め移り　爾來土地の信用を受けて目下盛況たり。

資性　敏活にして商機に富む。

上尾久散宿所　主住　石橋一晃君

君は快活にして決斷力に富み、持論卓設人をして理解せしめざれは已まざるものあり。

明治二十八年四月十一日下谷區三の輪町三十番地に生れ　幼時より工業に志して採るに電氣學及技術を研究し斯業全般を習得し　玆に事業の經營を開始したりしが　明治四十二より東京電燈株式會社に就職し傍ら電氣に關する事業の經驗と應用とを新學說に就き研讃を積み　大に得るところありて大正八年王子電氣軌道株式會社に入り業務實得の上　現在上尾久散宿所として開始し　同所主任となり事業益々活躍たり。

乾物食料品　伊藤勝已君

君は順和にして篤實高く　業界の信用最も厚し

明治三十七年七月十五日上尾久に產る　幼少より商業に志し所定の學業を卒へ　斯業に從事し專ら業界の機智を研き玆に事業の確立を立て　大正十二年十月現在の個所に店舗を開設し、家運益々隆盛にして附近隨一の店舗たり。

土木建築請負業　飯島清太郎君

君は明治二十三年八月廿八日東京市小石川區餌差町に產る、幼時より工業を好み所定の學業を終へ淺草區藏前高等工業學校建築專攻科を卒業後　本郷

區金助町に於て土木建築業を開設し　經驗と學術とを應用したる諸所の大建築に技能を湛へられ事業向上依つて其進展を示せり大正九年上尾久溝向に移り益々擴張して營業熾んたり。

上尾久山谷町會幹事に擧けられれ就任せり。

資性　男性的潔白にして仁俠に富み　信用厚し。

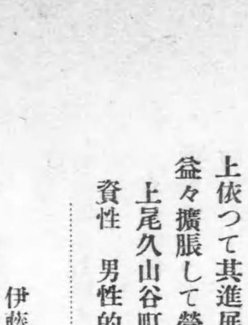
伊藤自轉車店主　伊藤竹治君

君は明治二十六年十月秋田縣平鹿郡に主れ　性來商業を好み　鄉里に於て實業に從事し明治四十二年埼玉縣大宮町に於て履物業を經營し、同地にて商機を得て營業日に熾んなりしが、自轉車業の有望なるに着目して　大正五年上京し下谷區龍泉寺町に於て專ら輪業の研讃を重ね、大正十二年三月現在の地に店舗を開設して事業益々旺盛なり。

因に君は尾久輪友會幹事に擧けられて信望厚し。

土木建築請負業　石田喜三郎君

君は宏量にして男氣に勝つ肌の人であるが、而も識見と卓說とは耳を傾ざるを得ない人格も俱備して居る、明治十六年十二月東京市本所區原庭町十五番地に生れ、工業に關する學術を習得し　家父の業土木建築請負を繼承して　尙も斯業の研究を重ね



石田喜三郎君

新設計に係る幾多の事業には卓絶なる技能とニユー、タイプを應用して新計畫に其功蹟を顯し、益々營業の堅實を示せしが將來の發達の地を卜するに當地を持てし　上尾久熊の前二六九七番地に移り　經營方針の刷新を計りたるに時機に適合しして、益々隆盛を見るに至り業界及土地の信用厚く、上尾久親交會幹事に擧けられ公共の爲め盡せり。

尾久土木建築請負業幹事　土木建築請負業　石田重吉君

君は資性　溫良恭謙にして堅忍好く其意志を貫くものあり君は明治十九年二月東京市深川區西森下町に生れ、幼少時代より學業に志し所定の學業を卒へ

本所區林町府立職業學校を首席を以て卒業し、爾來建築學に關する幾多の研讃を積み、陸軍省經理部に奉職し、滿州、西比利亞及び內地諸隊の事業に從ひ印跡せざる地なし勤續すること十五ヶ年、大正十一年辭職後在來居住地たる、上尾久熊の前三〇一五番地に於て土木建築請負業を開始し　永年の經倫と學術の應用は其技能に現はれ事業益々確固たり。

因に氏は陸軍に於ける勳功に依り勳八等に叙せられ白色桐葉章を授けらる、擧けられて尾久土木建築業組合幹事となり組合の爲め盡瘁せり。

尾久酒類同業睦會幹事　鶴屋酒店主　伊崎伊三郎君

君は明治十八年十月東京市神田區白銀町に產る、幼少時代より斯業に志し　全般に亘る酒類の研究を重ね、專ら原產釀造場より清酒の直輸を爲して廣くこれを卸賣業を開始したるに、其の堅實的の商業振と、精選な醇酵品は、深く顧客の欲するところとなり、商況日々に加はり奮闘專心、業務の向進に努めて活潑したりしが　將來を着眼して、大正十一年十一月上尾久二五一五に店舗を開設して家運愈々熾んなり。

上尾久熊睦會創設委員として盡力し創立後幹事に就任、尾久酒類同業睦會幹事に擧けられて就任す。

伴醫院々長　伴今雄君

君は原籍東京府下淀橋町柏木にして明治十四年一月一日靑森縣に產科醫を以て有名なりし、嚴父元齡氏の三男に生れ十七歲に及んで上京し、醫學を志し濟生學舍を經て日本醫學校に入り　明治三十九年春同校を優等を以て卒業し　醫學博士瀨川昌耆師に就き小兒科の研究を率ひ　大正三年本鄉區團子坂下に伴小兒院と標稱し同科專門を以て　開業し同業者の親睦を圖るべく杏林會を組織し、擧けられて常任幹事となり、將に十星霜を閱して本町小沼に診察所を兼ね病室を新設し　專ら小兒科診療の業に從事せらる。

性　氏は潔白にして　識見學才に富む人格者なり

尾久自動車商會　橋野幸輝君

君は明治十五年雪深き新潟縣の一寒村上郷村の里に孤々の聲を擧け　而も思慮稠密にして推されて上郷村青年團長となり、大に公共の爲め盡力せられたりしが自己の運命を開拓するは帝都にありと　明治四十五年鄕關を辭して上京、警視廳に奉職すること十一ヶ年大正十二年上尾久二六四八番地に尾久自動車會社創立し、鋭意奮闘の結果事業倍々旺盛を極め氏の前途は光明を以て滿たされてゐる。

君堅忍なる志素の持主で亦人德あり。

上尾久富士見町會副會長
諸油並雜貨商　**林　漸君**

君は性　實直、沈剛にして英才に富む、明治二十五年二月長野縣埴科郡清野村に生れ明治四十二年十二月現役志願として近衞歩兵第三聯隊に入營　大正九年八月サガレン軍政部附として出征し、大正十年凱旋し　戰役の功により勳七等に叙せられ瑞寶章を授けらる、大正十一年五月英國皇太子殿下御來朝の際叅適せられ儀仗兵として服務し、功により英國皇帝陛下より銀製ビクトリヤ勳章を授與せらる、大正十一年十一月累進して歩兵特務曹長に任せられ大正十二年七月依病休職と共に上尾久富士見町に店舗を開設し　諸油並に雜貨化粧品業を開業して家運益々隆盛たり。

氏は大正十三年上尾久富士見町會設立委員として努力せられ、創立後擧けられて副會長となり公共の爲め盡力せらる。

ツバメヤ玩具店主　**萩生田定吉君**

商業の要は花主の便を圖るに在り品質精良にして其廉なりと雖、一の利便を欽く時は全く愛顧より遠かざるを得ざるなり、赤手にして本業に八り克くこの機略を得て今日の如くあらしめたる人に萩生田定吉氏あり。

氏は南多摩郡由木村堀之内の一茅屋に生る、歳八才の時其父八五郎氏を喪ひ長兄和三郎氏之れに代りて相續者となり　貧苦日に迫り行くを見て飜然家出し八王子に來り某百貨店にて定丁として商業の見習に從事し　聯か斯業の機智を習得するや　蹶起帝都に出で、極苦奮闘すること十有數年を數ふれ共天幸を與へす氏の努力は空しくならんとする時　大正三年征獨の宣戰布告を見るや、乃ち新聞販賣業の見逃がす可らざるを知り以て臥薪嘗膽、再び五星霜を加へ茲に聊か確實体の商勢を得るに至る、偶々尾久の發展を耳にするや氏の鋭眼は如何で之を看過すべき一家を引纏めて未だ茅屋點々たる尾久村に來り氏が多年の宿望たる際物商に餘念なかりし時不幸震害に罹りて商品は殆んど毀損の憂目を見たり、然も氏は事ともせず翌年三月には本町有數の場所上尾久熊の前二五八二番地に再び大玩具店を張るや顧客先を爭ふて來り日を追ふに益々其數を繁からしむるに至る今や氏は得意の腕を縱橫に奮ひつゝ當に新斯の目的に向て著々と其歩を進めつゝあるは吾人氏と共に欣快の情を禁じ得ず。

西洋料理　**カフエー三春**
店主　**橋本義佐久君**

君は明治二十六年四月福島縣田村郡に生れ、鄕里に於て西洋料理店を經營し、家業最も盛んなりしも商機を達見するに敏なる氏は自己の開運を賭するは帝都にありと、決然國を去て上京し麹町區東洋軒支店に於、亦も幾多の研究を重ね斯業の粹を習得し、大正十一年二月上尾久山谷通一四八七番地に店舗を開き、爾來至誠奮勉して嶄新獨得の調理と滋養美味なる、洋食を格安く客を迎へて居る爲めに賞譽せられ家運愈々隆盛なり、推されて尾久西洋料理組合第二部長に就任。

性　從順にして信望篤し。

尾久酒類同業睦會部長
上州屋酒店主　**萩原勘二郎君**

君は明治二十四年十月群馬縣碓井郡細野村に生れ幼少時代より商業の志し深く鄕里に於て酒造業に從事したりしも、將來の發達は東京にありと大正十二年上京し、上尾久山谷一八〇六番地に店舗を開設し誠實を以て勉强の結果家運益々旺盛を極む、氏は資性溫柔にして德望厚く、曩に同業者の親睦を圖るべく、山田、三枝、藤森氏等と協力して尾久酒類同業睦會を組織し擧けられて部長となり同會のため盡瘁せめれつゝあり、亦山谷町會幹事として盡してゐる

竹木材商
竹留分店

新山已太郎

君は明治二十七年一月東京市本所區中の鄉業平町竹材及特殊木材商として知られたる新山家の二男に生れ、幼少より商業の趣味を有し學業の傍ら嚴父の訓育の許に其の素養を授けられて人となり、生家に於て家兄と共に竹材に關する業務に從ひ一意專心斯業に努力し　商機の總てを習得して獨立の基礎を樹て、大正九年十二月將來發展の地を卜して、上尾久熊の前に堂々店舗を新設し、爾來精力を竭し至誠を以て奮闘したる結果空しからず其顧客は日に次で增加となり、家運繁榮を示して氏の前途は光明に滿たされてゐる。

氏は性、宏量廉直にして信用厚く上尾久熊睦會々計、尾久消防組筒先を經て、現時消防自働車係等に選ばれて就任。

トタン板
生子板
建築材料商

西山傳平君

西山商店主

君は明治三十四年十月山梨縣東山梨郡に生る。

少壯燃ゆるが如き志望を心頭に描いて、二十歳の時吉鄉を後に上京し、淺草區小嶋町に於て金物商に從事し專ら斯業の機智を習得し、大正十二年十月下尾久鬼怒電前に、建築材料金物商を開店し、專心誠意を以て努力せられし結果家業益々旺盛なり。

氏は着實寡默にして　然も其意志確乎拔くべからざるものあり。

下尾久協和會顧員
土木建築請負業

星　重作君

君は資性　謙讓誠實、然も親切周到にして慈愛心に富む。

明治二十年一月福島縣南會津郡樺原村に生れ　幼にして工業に志を立て嚴父の指針訓陶の許に鄉里に於て斯業の重作君研讃を重ね、業界に於ける凡ゆる機智を習得して隆域に進みたりしも、いぶせき田舍にありては到底我が志望を實現することの不可能なるを悟り、年二十歲の時孤身漂然上京し、向島鐘ヶ淵に於て帝都に於ける、事業の端緒として建築業に從事し、爾來發奮誠意を以て事に當り目覺しき活躍を發揮して益々事績を擧げ繁榮を示したりしが、尾久の將來に着眼して大正八年下尾久一一八〇番地に移り斯業のために心血を注ぎ多年の研究と經驗より得たる手腕と才能を揮つて家運益々隆昌たり。

氏は下尾久協和會顧問に擧げられ公共の爲めに盡す所尠からず。

土木建築請負
塵介衛生業

石井彌太郎君

君は沈剛にして仁俠の念厚く、一度交際なしたるものは欣慕の思ひを深からしむ、幼にして工業に志し奮然立志を堅くして鄉關を辭して上京し、土木業に經倫を重ね緊褌一番詳を叛んせんと、凡ゆる難事に遭遇するも倒れて後止むの心神に契ひ、以て揮身の心血を注き業務の向上に努めたる効空しからず、事業好績を揭げ家運順々乎として發展せり、時に應して慧眼なる氏は　當町の發展を思ひ、上尾久小台山谷通りに移り、塵芥衞生及土木建築請負業を經營し、家業繁昌にして信望最も厚し。

『イ』の部に記載すべきものなるに記入もれとなりたるに付きこゝに記入したるを涼ぜられたし

土木建築請負業
副組合長

戸田權之助君

戸田權之助君

氏は誠實勤勉の篤業家なり、明治十八年四月下尾久八六八番地に盛大を極めたる土木建築請負業先代權之助氏の男に生れ、幼少時代より工業に從ひ學術及び斯業に研讃を重ね、益々業界の機智を習得し父祖の業を繼ぎ能く其家訓を襲踏して一意專心これに努力し居れるを以て家業日に月に隆盛を來たし、一流の土木建築請負業者たり。

君は尾久土木建築請負業組合副組合長に擧げられ組合の爲め盡瘁せらるゝこと尠からず。

性　温厚にして信用篤し。

時谷洋酒店主

洋酒商 時谷恒藏君

君は明治二十七年群馬縣佐波郡に生れ、幼き時より商業に志して上京し、神田區和泉町に於て商業の機智を習得し、獨立の目的を以て下谷區御徒町一丁目に洋酒問屋を開き　誠實に奮闘の結果家運隆域に進みたりしも、將來の發展に着眼して上尾久西町に移り、常に品質の吟味と正直とを以て、信條となし營業に從ふが故に信用隆々として加はり、顧客益々繁く今や殆んど盛觀を見るに至れり。

氏は學事奬勵と監督の意味に於て、實弟を中學校及東京醫學專門學校に入學せしめ、其の指示の宜ろしきをえて遂に東京醫專を優等を以て卒業するの光榮を得さしめ、仁義倶に厚し。

田島町々會長

富永彌右衛門君

氏は資性温良恭謙なる君子人にして、人皆其人格の高潔に服して膽仰せざるものなし。

明治十三年埼玉縣北足立郡大門村に生れ　郷里に於て土木建築請負業を開始し、家運隆昌たりしも將來の發達は帝郷にありと郷關を辭して上京し、神田區金澤町に同業を經營して事業に心血を注ぎ飛躍の時機を窺ふ中經濟界の好期に遭遇し、此期逸すべからずと活躍を續け斯くして成功の圏内に入つたのである、然るに大正十二年の大震災に遇ひ上尾久田島二九〇七番地に移り、多數の家屋を新築して家運繁榮たり。

富永彌右衛門君

氏は田嶋町々會創立委員として努力せられ、創立後會長に擧げられ公共の爲に盡瘁せられて居る。

城北履物商工同業組合會計
富岡履物店主

富岡義雄君

君は明治三十三年上尾久に生れ、幼少より商業に志し下谷區金杉町に於て商機を習得し　大正十一年七月上尾久小台渡場通に店舗を設け家運益々旺盛たり、氏は性格　温順にして輕佻浮華を好まず、誠意業務に勵み居るを以て信用最も厚く現に東京城北履物商工同業組合會計に擧げられ組合の爲め盡力せり

トタン板
生子板商

殿塚丈三郎君

君は明治三十一年茨城縣岩瀬町に生れ、年僅かに十六年にして　郷關を去り商業に志して上京し　日本橋區大門通り淺井商店に就職して、專ら商業の機智を究め、獨立の基礎を樹て大正十三月八月下尾久八ッ城七九一番地に店舗を開き爾來一意專心事業に熱誠なる結果家運熾んなり。

氏は下尾久協和會幹事に擧けられ公共に盡力せり。

尾久酒類同業睦會幹事
丸八商店主

千葉祐次郎君

君は資性温順にして活達、然諾を重んじ、追從詐言を以て商家の懸引なりと心得居る刻下にありて、獨り能く廉直を旨とし一度他人と約したることは、如何なる事故あるも變更することなきより、未た壯年に關らず斯業界の信望日に厚きを加へ、世人より推重せられつゝあり。

君は明治二十二年五月宮城縣伊具郡丸森町に生れ幼少の頃より商業に志して上京し、上尾久山谷九二七番地に店舗を開き　爾來奮闘努力の結果家運繁昌たり、氏は同業睦會幹事に推され同會の爲め盡力せられつゝあり。

尾久金物同業組合庶務係
大辻商店主

大辻義廣君

君は明治二十八年一月廿日鹿兒島縣日置郡に生れ幼にして學を好み、鹿兒島商業學校を首席を以て卒業、青島守備軍民政部に奉職、其間青島學院を卒業民政徹廢と同時に歸郷し、大正十二年商業に志して上京、下尾久赤土四七六番地に店舗を開設し專ら大工道具の優秀なるもの及び一般金物を薄利多賣主義を以て販賣して、顧客の信用最も厚く商運隆昌たり

氏は温柔にして德望篤く　尾久金物同業組合庶務係に擧げられ盡力せられつゝあり。

土木建築請負業

大谷安三郎君

君は宏量にして山をも穿くの精神の持主である。

明治十四年三月埼玉縣兒玉郡若泉村に生れ幼少より工業に志し、鑛物學及建築に關する學術を研究して鑛山業に從事し專ら實務に當り益々効果を得たりし

も徴せられて明治三十四年十二年近衞砲兵第十三聯隊に入營なし　偶々日露戰役に會し臨時輕氣球隊に編入せられ、滿州の原に出征して殊功を樹て勳八等に叙せられ白桐菜章を授けられる、凱旋後府下王子町に於て運送業を開始して營業熾んなりしも、二ヶ年にして是れを止め京都府嵯峨水力電氣株式會社工事を初めとして、土木建築請負業を經營して各地大工場の基礎工事及建築等に從事し、諸方に印跡を止めざるはなし、大正四年上尾久三一八五番地に移り勝村工務所の一部を擔任することゝなり、技能と功勞顯著なるものあり。

大島洋服店主　大島宗十郎君

君は資性順和にして、隱忍不息の熱誠家である、明治二十六年四月群馬縣に生れ、鄉里に於て斯業に志し堅實的に着々として、其基礎を樹てべく奮闘蹶起して、事業の機智を習得し斷然鄉關を辭して大正元年上京し上尾久小台通一〇三〇番地に於て、洋服業を營み嶄新歐米型の裁縫を獨得として、客を迎ふることゝなり、商機と實直とを時代に役合することゝして家運愈々繁盛なり。

上尾久朝日町會副會長　大石秀松君

君は性温厚篤實にして注意周倒好く人をして同化せしむる理解的談話に富む、識見以て他を凌くものあり　明治十九年三月埼玉縣北足立郡蕨町に生れ幼にして商業に志し所定の學業を卒へ、機業に關する專門の學理を研究し化學的應用の新幾軸を發見して、鄉里に於てこれが工場を設置し、自已案出に係る機械を備へ染色と機織及ひ整理に獨得の技能を顯し、以て市場の嗜好を迎へ　明治三十年上京し日本橋區に於て呉服販賣部を設けて、其製出にかゝる機業地製品と各地より直輸の物資を以て廣く顧客に接することゝなり、家運いやが上にも發展を告げ大々的成功を收めたる立志傳中の人格者なり　大正十年上尾久朝日町二四三〇番地に移り、土地發展の先覺者として自治精神を發揮し、公共の爲めには私財を投して卒先事に當り、有志を說いて後進を待つ、公益仁俠の人なり擧けられて朝日町副會長に就任し德望高し。

朝日町會幹事　上尾久親和會顧問　大越彌平次君

君は明治八年七月福島縣安積郡片平村に生れ、鄉里に於て專ら學業、商事に關する要素を研讀し、片平村與奈澤に溫泉浴場を經營し、顧客繁きを加へ爲めに地方の繁榮を來し、土地の尊敬と家運の發展倶に見るべきものありしが、帝都に於て自已の手腕を誠練せんものと明治三十八年上京、本所區横川町に於て空鑵問屋を開業し、明治大正の好況時代に遭遇し好く商機の進退と、鋭意事業に盡したる効果は家運益々隆昌を極め、成功者の一人たり、大正十一年九月上尾久二五六六番地に住宅を新築してこれに移り、爾來公共の爲め盡瘁すること渺からず、擧けられて上尾久親和會顧問、朝日町幹事として就任せりし、爾來醫學に立志して　明治四十三年上京後日本大學齒科部を卒業し、尚斯業の研究を重ねべく專攻院に入り專ら學理、實地に就て經倫を進まれつゝあり、下尾久鬼怒電通に雜貨、小間物、化粧品商クラブ堂を開設し經營主任として商事に奮勵し家運隆域たり、推きれて南睦會幹事、鬼怒電通商工會副會長となり信望篤し。

鬼怒電通商工會副會長

クラブ堂　奥田泰爾君

君は恭謙溫量にして識見卓說人をして欽慕を抱かしむ、明治二十二年六月福島縣双三郡八幡町に生れ幼少より學業に志し　福島中學校を優等を以て卒業

上尾久自治會總務　大野德太郎君

君は資性　恭健にしして雅量に富み好く社交心理を穿つて

明治十三年神田區綿町一ノ一に生れ　幼少より實業に志し　神田區に於て中學校及び理財の學業を卒へ、專ら家父の業を繼承して、會社事業に經倫を重ね米穀信托及び電氣機械製造會社等を經營し、過去十數年の工業勃興の盛好時代に遭遇して、其卓絶なる手腕を揮ひ、好果を得て成功を示せり。

大正十二年六月上尾久二二一一番地に移り　地方自治の迂遠なるを鑑み、卒先して公共の爲め盡瘁し町會刷新を圖り、範を示すべく上尾久自治會設立委

員となり　創會に際し擧げられて總務に就任し、氏は公共事業に盡瘁し、深くこれを考究し其の興望として上尾久自治會設立されて、德望高し。

下尾久赤土地藏通本親會顧問
下尾久協和會第五班長

中央社　大木清吉君

君は明治二十一年十一月埼玉縣北足立郡の一寒村に生れ。我が運命を開拓するは帝都にありとなし、明治四十二年鄉關を辭して上京し、爾來幾多の事業を經營し、奮鬪蹶起の効空からず事業旺盛を極め大正六年戶山騎兵聯隊の御用商人を勤め石炭、コークス卸商並に玉川砂利商を經營して、商事熾んなりしも、人夫請負並に清潔事業の有利なるを達見して、大正十二年十月下尾久赤土五七七番地に斯業を開設し、而も十數人の使用人を指揮督勵して、敢て間斷なからしめ以て家業の隆盛を期しつゝあるは、現時の柔怠浮薄なる壯年者流と同日に語るべからざるなり、故を以て信用最も厚く下尾久協和會第五班長、下尾久赤土地藏通本親會顧問等に擧げられ公共の爲めに努力せられ、其功績大なるものなり。

下尾久赤土本親會々長

岡山嘉平君

君は明治十三年一月茨城縣直壁郡に生れ、幼少時代より工業に志し、鄉里に於て、建築請負業を經營し幾多の經驗と研究を重ね事業旺んなりしも將來活躍の地を求むるに當町を以てし、大正十年下尾久赤土地藏通りに營業を開始し、好果を收めたる上大震災による業界の好況時に遭遇して大成功を博し、家運愈々隆昌たり。

氏は性　剛健　寡默にして德望高く。下尾久赤土地藏通本親會創立委員長として努力せられ、創會後擧げられて會長となり公共のために盡されてゐる。

上尾久自治會代議員
明治工務所長

小川錄三郎君

君は明治十九年四月東京市芝區南佐久間町土木建築請負業小川家嗣主として生れ、幼時より學を好み二十歳の時京橋區南小原町工手學校を首席を以て卒業し、爾來土木建築請負業に從事すること多年、幾多の經驗と研究を重ね、大正十三年三月上尾久本町

通二三三三番地に移り明治工務所を開設し、建築設計、製圖代願、等を經營し誠意を以て努力らせれ德望最も篤く擧げられて、上尾久自治會代議員長となり、氏の豐富なる公共的精神を發揮してゐる。

小川錄三郎君

電燈電力工事請負
素人義太夫の達人

尾村電氣商會主　尾村貞士君

君は資性溫厚にして圓滑なる人、明治二十八年十月福島縣會津喜多方町に生れ、幼少より工業に志し明治三十八上京電工の技術を習得し、同四十三年東京電燈株式會社に就職　益々斯業の研究を積み、大正十一年三月獨立して、下尾久八ッ城六七一番地に營業所を開設し、電氣事業一般の工事請負に從事し誠實を以て勉勵の結果家運益々隆昌たり。

氏は嗜好に「近松の流れを汲み素人義太夫界の「オーソルチー」たり、藝名を（喜光）と呼ひ忠六と合邦が辻が十八番で、素人放れをした語り口と節廻しとは老功の域に達してゐる。

東京薪炭同業組合本部代議員
下尾久協和會幹事

薪炭商　岡部嘉一君

君は恭謙にして宏量なる精勵家である、夙に天文の學を究め篤學衆に秀んずるものあり、明治二十九年十一月長野縣南佐久郡に生れ、幼き時より學事に志し鄉里に於て中等の學を終へ、爾來天文學に趣味を有ち學說を究め實地を辿りて深甚なる研讃を重ねること十六ヶ年研究中、徵せられて近衞步兵第三聯隊に入營し、同七年特別大演習に從ひ　斥候の任を完ふし、聯隊長より直接感狀を授與せられしことあり在營中も天文に關する諸般の眞髓を極め、其の實說を講演して、隊長より賞讃を受け、永く同隊に記錄をのこされた、除隊後引續き研究續行したるも、未だ完全なる學說理証を揭ぐるに至らずと雖、これが、學理實說等の極に向て探究を重ねつゝありて上京し、淺草區三間町二三、東京履物株式會社庶務係に就職し、大正十一年辭職と同時に神奈川縣日本著

音機株式會社庶務係に就職、同年十一月獨立自營の目的を以て、下尾久五五七番地に店舗を開き奮闘努力の結果商事益々な燄んなり。

氏は下尾久協和會幹事、本親會會計、東京薪炭同業組合本部代議員等に擧けられ公共の爲め盡瘁せり

カクワ堂 渡邊藥局 渡邊愿君

君は性柔德を俱へて堅實なる實業家なり。

明治二十七年九月鳥取縣に生る、大正三年徵せられて衞生部員となり、松江衞戍病院附を命せられ專ら藥學の研究を重ね、除隊後大正七年四月藥劑師試驗に合格し、爾來斯學を研磨すること五星霜、大正十三年一月下尾久五七三番地を卜して店舗を開設し、精勵倦むことなく奮闘を續け、顧客の聲譽を博して商事隆昌たり。

洋服商 渡邊留次郎君

君は明治十七年千葉縣夷隅郡總野村に生れ幼少の頃より商業に志して上京し爾來洋服の裁縫販賣業に從事し、熱心誠實を以て研究を重ね、家業に月に盛んとなりしが將來發展を目して下尾久四四番地に店舗を開設し、洋服其他毛織物類の販賣を營み正直勤勉を以て最善の商略なりとし、其効空しからず事業益々隆域に進みつゝあり。

尾久西洋料理組合長 西洋料理東亭主 渡邊正吉君

君は明治十三五月東京市神田區同朋町に生れ、幼少の頃より斯業に志し、淺草區象潟町に於て、各國高等調理法を習得し、爾來十數年事業に從事したるを以て、實驗より得たる氏の手腕は非常なる、練達をなし、美味嶄新なる料理を以て顧客に賞揚せられ爲めに家運隆興の域に達し、大正九年十二月上尾久熊の前なる現在の地を卜して店舗を設け、着實勉勵、よく江湖の嗜好に適し、其名聲町内を風靡するに至れり。

氏は尾久に於ける同業の親睦を圖るべく同業組合創立に努め、前組合長下川氏の辭任と同時に擧けられて組合長となり、業界の爲盡力せられて居る。

鐵管、繼手、ポンプ卸商 加藤由太郎君

加藤由太郎君

君は溫恭着實にして商才に富み先天的實業家と云ふも不可なく 而も熱誠なるは多くの商人の得て企及する能はざる所あり 明治十三年二月八日愛知縣中島郡に生れ、幼少時代より商事に志し、鄕里にて鐵管、繼手、ポンプ等の販賣業を營み 將來運命を開發するは帝都にありと、大正三年南千住町三ノ輪二一二番地に店舗を新設し、日本綱管株式會社に於ける製品を特約のもとに需用者に廉價を以て販賣することゝなし、顧客日に月に繁きを加へ家業隆昌となり 當町に其需用大なるに伴ひ、大正十四年二月上尾久溝向二三二八に支店を設け品質撰良なるものを廉價を以て需めに應にすることを誇とする所以である。

東京毎日新聞支局主任 尾久新地町々會長 川久保安太郎君

君は資性溫量にして慈愛の心深く智腦明斷にして決斷力に富む 明治十一年七月東京府西多摩郡に生れ、幼にして學を好み理財科卒業後王子電氣軌道株式會社に就職、同社三の輪線完成するに及び明治四十四年四月伊豫松山市伊豫電燈鐵道株式會社支配人として入社 專心業務に精勵して實績を揭げ、日本電燈株式會社入社、同社合併により東京電燈株式會社へ轉任することゝなり大正十二年一月辭職 現在尾久新地町に東京毎日新聞尾久支局として活躍しつゝあり。 氏は信望最も厚く尾久二業組合理事、尾久新地町會長、尾久自治聯合會幹事に擧けられ公共に盡瘁せり。

上尾久時習會副會長 石炭卸專門 加藤芳藏君

君は溫厚篤實にして調和力に富み如何なる難事の發生するも一度氏の容喙するあれば直に圓滿なる解決を告げ、當事者をして釋然たらしむるに至ると云ふ、故を以て事業に亦土地發展に氏を待つものあるも遇然にあらず、上尾久時習會副會長に擧げられ同會の社交係りとして獨得の手腕を發揮してゐる、氏は明治十七年十二月埼玉縣大宮町に生れ、幼少時代

より商業に志し明治三十七年上京府下南葛飾郡大島町に於て米穀問屋並にコークス製造業を經營し、家運益々繁昌を極めしに大事業を企てゝ炭礦採掘に手を染め甲州初雁の炭礦を初めとして茨城炭礦其他の炭礦事業を經營し、爾來一勝一敗の門を潜り一挫屈せず、一衰撓まず遂に成否の鐵壁を打破り數年ならずして、成功の域に進みたりしも、震災の厄に逢ひ一時中止するの止むなきに至れり、然れ共不撓なる精力を有する氏は再度の活躍を企圖して尾久の地に移り現在上尾久三一六一番地に店舗を新設し、石炭卸業を經營しつゝありて事業益々旺んなり。

下尾久本町々會幹事

加藤健藏君

君は恭順にして才能衆に優れ且つ非凡なる活動家なり、裝飾爛として店頭を粧ひ、高級小間物化粧品を經營なしつゝあれど、專ら家人に委ねて氏は合資會社工營社に主役として奉職し精勵家である。

明治二十二年新潟縣新潟市に生れ鄉里に於て中學を卒へ、帝都に出でゝ我運命の開拓をトんと笈を負ひて上京し、爾來夙夜自疆不息倒れて後已むの勢を以て學を修め明治四十一年早稻田大學商科を第一位に卒業の榮を荷ひ、同年歸鄉して日本石油株式會社に奉職、大正三年本社の東京に移ると共に職を辭して上京し、合資會社工營社に就職し經理課長となり現在同社の爲め精力を竭して奮闘してゐる。

氏は家人の營業として大正十二年十一月下尾久本町八〇五番地に移り、店舗を設け商事益々旺盛なり

君は下尾久本町々會幹事に擧げられ公共の爲め盡力せられつゝあり。

尾久藝妓家互親組合長

金澤昇君

金澤昇君

君は思慮周密にして温健なる人　慈愛の心深く眞に町内有數の德望家なり　明治十九年十一月東京市淺草區須賀町に生れ、幼少時代より學事に志し、明治四十四年慶應大學理財科を首席を以て卒業し、爾來鬼怒川水力電氣株式會社、中央護膜株式會社等の樞要の地位を占めて就職し兩社の專ら盡瘁するところ尠からざりしが、新設護謨會社の企畫なるに及び辭職し益々護謨の經倫を重ねて斯界有數の造詣者として大に手腕を表顯したるもの多々あり。

擧げられて尾久藝妓家互親組合長となり、同組合のために盡力せられて居る。

困に氏は動物愛護者として知られて居る。

上尾久自治會總務
荒物雜貨商

金子三吉君

君は資性　温厚篤實にして頗る聲望あり。

明治二十八年二月東京市下谷區竹町十二番地に生れ幼少の頃より商業に趣味を有ち、天性の商才は早くも十六歳の頃より現はれ、其効妙なる商業の機智は他を凌くもの多々ありて、吾を忘かしむること毎時であつたと云ふ、斯くして奮闘を續け獨立の基礎を固めて下谷區内に飲食店を開業し、家運愈々隆域に進み、下谷區龍泉町に移り繁昌なりしも、貸住宅多數建築せんと、當町に着目し、大正十年上尾久二三一八番地に移り、店舗を新築し荒物雜貨商を營み大に發展せり、擧げられて上尾久自治會總務として公共の爲めに盡力せられつゝあり。

アサヒ藥局主

川田四郎君

君は明治廿六年四月茨城縣に生れ、幼にして學を好み我が目的を達し成するは帝都にありと、少壯燃るが如き志望を心頭に描いて上京し、中澁谷町に於て藥業に關する智識素養に渾身の心力を捧げて研讃を重ね、大正五年十一月藥劑師試驗に合格して、同町に藥局を開き、爾來十星霜の間經驗と研究を積み店頭市を爲す盛況ちりしも、尾久の將來に着目して大正十三年現在の地なる上尾久小台停留場際に店舗を移し誠實の故を以て家運繁榮たり。

下尾久協和會幹事
赤土共濟會副會長

履物商　金杉晴吉君

君は清廉潔白にして商業德義を重んじ、壯年なるに關らず信望日に厚きを加へ世人より推重せられ、下尾久協和會幹事、赤土共盛會副會長、城北履物商工同業組合幹事等に擧けられ、公私共に努力せられてゐる、

氏は明治二十五年九月東京市小石川區指ヶ谷町に生れ、幼にして學を好み所定の學業を卒へ、早稻田實業校卒業後履物業に從事して商機を習得し、小石川に於て店舗を開始し廣く顧客の需めに應することとなり旺盛なりしも、其愛顧先たる會社、工場、鐵道省員等の多くが當町に居住する關係上、大正十二年六月下尾久赤土通六〇〇番地に店舗を移し誠實廉價を以て努め居る結果江湖の聲譽を博して繁昌たり

上尾久西町々會庶務係
薪炭並ニ酒類商

菅野三十郎君

君は明治十六年九月福嶋福島市に生れ、幼少の頃より鄉里に於て薪炭卸業並に酒類業に從事し、誠實を以て努し、薪炭需用地たる帝都各區に廣く得意を有することゝなり、市內及び隣接地に數ヶ所の卸賣場を開設するに當り、氏は震災直後の商機を鑑み、選ぶに當地を以てし　大正十三年十一月上尾久西町に高橋支店と名稱して店舗を開設し、薪炭を產地より直輸入し傍ら酒類を商ひ薄利多賣主義を以て顧客の需めに應ずることゝなし、其誠實は何れの家庭にても勝手元より知れ渡り、爲めに信用を博して繁忙の極りなり。

氏は性　順和にして宏量、篤望高く擧げられて上尾久西町會々庶務係たり。

城北履物商工同業組合長
履物商

加藤末吉君

君は明治二十六年四月新潟縣南蒲原郡に生れ、幼少の頃奮然商業に志して東京に出で、麻布區谷町早川履物店に商業實習の目的を以て店員となり斯業の經驗を得て　大正八年下谷區下谷町二丁目二番地に履物商を開店し、實直なる營業振は廣く得意を增すことゝなり、商盛日に加はりしも、偶々當町の發展耳にするや商署の機徵に通曉する氏は大正十一年十一月店舗を上尾久小台山谷通一六〇〇に移し着實なる努力は遂に顧客に響き渡り日を追ふて盛況を示し居れり、爲めに信用最も篤く、城北履物商工同業組合長に推され組合のため盡されて居る。

上尾久自治會役員
酒商

苅部高之助君

君は明治三十年茨城縣結城郡に生れ、志を立てゝ鄉關を辭して上京し、大正九年上尾久二七三五番地に酒商を開業し、商況盛んなるに伴ひ業務擴張の爲め上尾久二一〇番地に更に店舗を新設して本店とし前營業所を支店として努力せられ家運盛んなり。

福助屋蒲團蚊帳店主

菅野仟助君

君は商號を福助屋と稱す、誠實なる實業家として其名近鄉に及ぶ、故を持て店頭顧客を以て賑ひをなすの盛況を呈して、福運隆々たり　これ即ち福助屋の名に反かざる所以のものか。

氏は明治廿七年福島縣に生れ、爾來福に向て總てを排して猛進したる結果功を奏して、大正十年十月上尾久山谷通り八七五番地に蒲團蚊帳製造販賣所を開業して繁昌せり。

陶器商

金子金太郎君

君は資性　從順にして非凡なる丹精家なり、明治廿二年七月埼玉縣北葛飾郡の一寒村戶ヶ崎村に生れ立脚地を求むるに帝都を以てし、孤身漂然として上京し、知己を尋ね明友を訪ひ　遂に柳嶋町高田商會に就職し緊褌一番衆に秀んじて精勵するに努め、頭角を顯する至り　同社の荒川製作所に合併するに際し秡適せられて轉任することゝなり、當町に移り勤務の傍ら下尾久本町通六七〇番地に陶器商の店舗を開業し、不秡の精神は力行旣に九星霜を重ね家運隆々たり、

門橋齒科醫院　院長

門橋良之助君

君は溫厚にして天賦の穎才あり、明治二十九年三月鹿島縣高田郡原町に生れ、幼少時代より斯業に志し、大正三年斷然鄉關を辭して上京、爾來臥薪嘗膽幾星霜を閱し、斯學の研讃を重ね東京齒科醫學校を首席を以て卒業の榮冠を荷ひ　尚日本大學齒科部に於て再び經驗と研究を積み　東京市本鄉區金助町に齒科醫院を開業し信用多大なりしも　事業擴張の爲め大正十三年上尾久山谷交番所前に齒科醫院を新設し　最新なる獨逸器械を應用して　獨得なる技術を發揮し親切丁寧を旨として仁名高し　故を以て患者

の門を訪ふもの跡を斷たたづ日に隆盛を極め居れり。

朝日町々會幹事
宮城天然スレート販賣

加藤大太郎君

君は資性　沈剛にして英才あり、明治十八年五月宮城縣本吉郡歌澤村にに生れ、明治三十八年徵せられて歩兵第五聯隊に入營し大正三年累進して曹長に任ぜられ　日獨戰爭に會し青島の野に轉戰し天晴武功を樹て功成つて凱旋し　大正五年除隊となるや山形縣新庄町に於て　資本金五萬圓の魚問屋を經營することゝなりしが、將來をトし、上京して下尾久大門學校通りへ電氣工業所を開設し、事業に魚鍵を握り又は耳に筆をして簿册と親み　而も十數の使用人を敢て倦怠なからしめ　以て家運の隆盛を期しつゝありしは現時柔怠浮薄なる壯年者流と同日に語るべからず　氏は尙斯る少成功に甘んずるものにあらず　運命の開拓するは帝都にありと　大正十一年奮然上京し東京府公設市場鹽魚販賣部を擔任し、其後隅田川魚問屋丸魚合資會社を創設し、尙宮城天然スレート商會東京出張所を管理し　家運隆昌たり、氏は上尾久朝日町二四一七番地に居住し、曩に擧げられて朝日町々會理事となり　大正十三年末改選に依り幹事として公共の爲め盡し居れり。

金子電氣工業所主

金子岩次郎君

君は　温良、恭健にして堅實熱誠を倶へたる律義を重んずる士である、幼少時代より、立志を堅くして鄕關を決で工化學に遊び、其學理と應用等の凡ゆる極を終めて、翻然實業を以て身を樹てべく、地方水力電氣株式會社に於て專ら斯界の實驗を經て營業部を擔任することゝなりしが、將來をトし、上京して下尾久大門學校通りへ電氣工業所を開設し、事業に誠實なる氏は幾多の障壁を排して其向上を圖り經營方針と篤實振りは世の信用を得ることゝなり、業務發展を示せり。

上尾久共榮會幹事
石炭、コークス卸業

河村藏之助君

君は資性溫良恭賢にして、最善の商畧は誠義にありと着實に其の地歩を進めて業界の信望篤し。

明治拾七年九月拾五日埼玉縣南埼玉郡に生る、幼少より商業に志し　我が抱負を試金するは帝都にあ

りと決然國を出でゝ上京し、京橋區港町高尾回漕店に於て商機を習得し、獨立の基礎得て深川區千田町に店舗を開設し、石炭及回漕業を經營し、家業益々隆昌を極めたり、大正十年上尾久渡場際に支店を設けたるに、土地の發展に伴れて好成績を示すに到れるより業務擴張の爲め現在の地に移り支店を合併なし　奮闘努力宜く業務に盡して益々隆昌たり。

君は擧げられて上尾久共榮會幹事として盡瘁せられて居る。

石炭卸商

吉川高藏君

君は明治三十一年愛知縣中島郡祖父江町に生る。年少の頃より商業に志しを立てゝ上京し、爾來幾多の事業を經營して、一勝一敗の門を潜り屈せず撓まず、奮起して遂に成功の域に進み、大正十二年八月上尾久田島町二九三一番地に店舗を設け斯業のために心血を瀝ぎて活躍し、信用益々厚く家運隆盛なり氏は性　溫良堅實なる實業家として知らる。

吉田洋服店主
洋服裁縫販賣

吉田喜一郎君

君　資性溫厚、誠實にして信望篤し、明治二十八年十一月新潟縣北蒲原郡新發田町に生れ、大正元年斯業に志を立てゝ上京し、專ら洋服裁縫の技能を研究し、日暮里町に洋服舗を開業して、大に發展を示しつゝありしも、事業擴張の爲め大正十三年一月下尾久本町通り七八二番地に店舗を設け　最新歐米流行型の注文に應することゝして家業益々旺んなり、顧客の便を計る意味に於て學生用洋服既製の各種を注文品同樣　地質に充分なる撰擇を重ねて、薄利多賣主義で勉強して居る。

書畵骨董道具商

赤ずぼん道具店主　吉田亀太郎君

君は明治十七年七月富山縣西礪波郡に生れ、幼少時代より學業に志し奮勉力行して　明治三十四年四月富山縣師範學校を首席を以て卒業し、爾來鄕里及東京に於て敎鞭を取り、育英界に貢献すること多年其後實業に志を立てゝ職を辭し、各種の事業を經營して幾多の經倫を重ね、大正十二年現在の地たる上尾久小台山谷通り佐藤病院前に店舗を開設し、家具

諸道具類の新古品を商ひ、誠實を信條として　揮身努力の結果商盛愈々旺んなり。

因に氏は日露戰役に際し中野電信隊附として從軍し滿州の野に轉戰して功を樹て勳八等に叙せられ白色桐葉章を授けらる。　資性　沈剛にして天賦の英才あり。

上尾久朝日町々會幹事

酒商　多賀甲午郎君

君は明治廿七年三月秋田縣に生れ、未だ十三歲の身を以て商業に志し、我が希望を貫徹するは東京にありとなし、朋治三十九年蹶然上京し　下谷區竹町に於て獨立自營の基礎を樹て、大正九年の春上尾久朝日町二六三五番地に店舖を設け、着實なる營業振を以て顧客を迎へ、その効果は廣く得意先を增加することゝなり、家業益々旺んなり、氏は朝日町々會幹事に擧げられ公共のため努力せらる。

下尾久南睦會幹事
赤土赤誠會々計係

乾物商　谷内次一君

君は資性温順　正直にして常に商業德義を重んずるの人なり、明治三十一年三月石川縣に生れ　歲十八才にして奮然商業に志して上京、乾物食料品業に從事し、眇たる一介の商估より身を起し、奮鬪努力發達の域に向て猛進すること十數年、以て產を興し富を作り、下尾久赤土四六七番地に店舖を新設し乾物食料品業を營み、薄利多賣を主義として精勵の結果顧客日々に增し家運益々盛況にあり、氏は擧げられて下尾久南睦會幹事、赤土赤誠會々計係として公共の爲め盡されて居る。

尾久工務所　所主

田中千代次君

君は明治十八年千葉縣に生れ、明治三十七年徵兵として步兵第二聯隊に入營し日露戰役に從ひ滿州の野に轉戰して千軍萬馬の間を馳突し武功を樹てて凱旋し除隊後我が運命を開拓するは、帝都にありとなして上京し、明治四十二年警視廳に奉職すること十ケ年、實業に志して職を辭し大正八年尾久町役場前に工務所を設置し、土木建築設計製圖代願並に代書の業に從事し、親切懇到を以て事に當りために顧客日に繁きを加へ家運隆昌たり、氏は資性温厚拔くべからざる誠實を保持して信望最も厚し。

田島應用化學工業所々主

田島武長君

君は明治二十三年十二月東京市小石川區餌差町に生れ、幼にして學を好み所定の學業を卒へ、學歷を經て、明治四十五年東京高等工業學校を首席を以て卒業し　大正八年府下三河島町に於て便利瓦「アスバルト」加工品製作所を開設し事業益々旺盛なりしを以て、工場の狹隘を感じ大正十三年一月事業擴張の爲め　下尾久小沼三二一番地に工場を新築して益々盛況を極め居れり。

上尾久共榮會々長
尾久藥劑師會々長

田中好造君

君は資性　温柔寡默にして然も頭腦明晰なり、明治十九年五月京都市下京區室町に生れ、幼少時代より學業に志し　我れ將來の發達は帝都にありとなし十七歲の時鄉關を辭して蹶然東京に出で　渾身の心力を捧げて藥學の研究を重ね　明治三十六年東京藥學校を首席を以て卒業の光榮を荷ひ、同時に藥劑師の兎狀を受け、爾來十數年の間斯學の經倫を踏み大正四年上尾久小台渡場通りに店舖を開設し、至誠熱心を以て營業に從事し　殊に尾久の草分けとして得意を有し顧客店頭市をなすの盛況にあり氏は擧げられて尾久藥劑師會々長、北豊島藥業會理事、日本藥劑師會東京支部代議員、上尾久共榮會々長等の重職にありて公私共に盡瘁せらる。

武井洋服店主

武井仁之助君

君は温和篤實にして然も誠實勤勉の人、明治三十四年四月茨城縣猿島郡幸島村に生れ、幼にして商業に志し大正三年運命開發の志望を抱いて上京し、神田區表神保町に於て洋品商に從事し　專ら斯業の商機を會得し幾多の經倫を踏み　大正十三年五月下尾久本町通り七六〇番地に店舖を設け、最も嶄新なる流行品を撰擇し　薄利を以て販賣するより江湖の聲譽を博し家運日に月に盛況を極め居れり。

瀧澤藥局主

瀧澤彦一君

君は明治二十九年埼玉縣大里郡玉井村に生れ、幼

少より藥學を好み志しを立てゝ上京し、奮心勉學の効果空しからず藥學校を優等を以て卒業し大正七年シベリヤに出征して勳功を立て勳八等に叙せられ、除隊後大正九年東京平田製藥所に製藥主任として入社、專ら斯業の研究と經驗を積み、獨立自營の目的を以て大正十二年職を辭し　同十三年五月上尾久一五三〇番地寺の湯通りに藥局を開設し、一意專心堅實を以つて顧客を迎へ、正直なる藥局として其の名高く　家運益々隆昌たり、氏は溫健にして英才あり　醫局宣傳月刊雜誌「クスリ」の主筆として專ら健筆を揮い、亦家庭保健衞生會理事として努力してゐる。

建築請負業　高橋仲吉君

君は資性溫順にして孝心深く、幼少より家父の業に從事し、嚴父の指針に依て業界の要素を修め進んで建築に關する最新の學術を研究し、其の家訓を服膺して一意專心斯業に努力したるを以て、其の技術益々進み一流の請負業として知らるゝに至れり氏は明治二十三年群馬縣北甘樂郡に生れ父と共に上京し

府下大久保に於て共に建築請負業に從事し、專ら斯業の研讀を重ね　大正十一年下尾久五五二番地に營業所を新築して、奮闘努力の結果家業益々繁榮を極め居れり。

因に氏は明治四十三年水戸工兵第十四聯隊に入營し日獨戰爭に從ひ大に日本男兒の本分を發揮し勳功を樹てた人である。

下尾久鬼怒電通商工組合幹事　薪炭商　高田憲一郎君

君は明治三十年神奈川縣久良岐郡に生れ、大正元年商業に志して上京し、府下日暮里町に於て薪炭商に從事し商機を研め、專心努力多年精勵の結果家運福祉の實を擧げ、大正十一年九月下尾久鬼怒電通り一四四番地に薪炭商を開業し律義好く家業に勵み、益々得意の增加することゝなつて熾んなり。

氏は淸廉潔白にして信望厚く　鬼怒電商工組合幹事に擧けられ土地發展のため盡力せられつゝあり。

城北菓子商組合　鈴木摺鬱菓子店主　田中孫吉君

君は明治十六年上尾久一三七〇番地に生れ、幼少の頃より斯業に志し十三才の時、京橋區木挽町本店に於て同業の機智を習得し　大に研究を重ね大正二年上尾久小台渡場通りに店舗を開設し、自ら職人と伍して一般菓子の改善を圖ると共に珍菓の製法を研究して　大改善を加へ千秋一日の如く刻苦精勵、其製造に努力し且つ一面には大に販路の擴張を講じたる結果、今日に於ては鈴木播磨として斯界の一流として屈指せらるゝに至れり、故を以て信用最も厚く擧げられて城北菓子商組合副組合長たり。

田村屋呉服店主　田村善吉君

語に曰く　誠實なる廉賣は最善の商略なりと、善吉氏はこの商略を以て進み「ホンマニヤスイ」を標語としてこれを實踐躬行しつゝあるの結果顧客の聲譽を博し、家運日に月に隆域に進みつゝあり。

君は明治二十四年四月福島縣白河町に生れ・幼少の頃より商業に志して上京し、日本橋區橋町一丁目福田喜平商店に於て專ら商業の習得し　獨立の基礎を固むべく　大正十二年十一月現在の地たる上尾久熊の前電車通りに店舗を開設し、商品は製產地より直輸して良品を格安に捌くことを目的とせり。

京京薪炭同業組合代議員　薪炭、煙草、荒物、雜貨商　田中與八君

君は資性溫厚篤實の人明治十四年十二月尾久村船方に孤々の聲を上げ、幼にして商才あり尾久村の未だ茅屋點々たるの時早くも、尾久將來の發展に着眼して明治三十五年現在の荒川遊園本通りに薪炭煙草荒物雜貨商を開業し、誠實以て努力せられ商勢を得るに至り、同地同業者の泰斗として信用最も厚く益々隆昌たり、氏は國家の干城として日露の戰役に從ひ千軍萬馬の間を馳突したる氏が實業界の人となるも亦克く斯業に熱勵して　其効果を收め、東京薪炭同業組合代議員、煙草組合委員等に擧けられて努力してゐる。

家屋曳方請負業　田島芳藏君

君は明治十年七月埼玉縣南埼玉郡に生れ、十五歳の頃より斯業に志し我運命の開發は東京にありとして奮然上京し、東京市日本橋區濱町に於て專ら斯業

の研讃を重ね活躍を示したりしも、事業擴張の爲め淺草區向柳原町一丁目に開業して、業勢益々旺んなりしが　大正十二年の大震災の厄に逢ひ、同年十月上尾久寺の湯前に移り市内の家屋曳方を一手に引受け事業益々隆盛なり、氏は温柔にして義俠心深く、市内各所に幾多の弟子を散宿せしめ、慈愛を以てこれ等の人々を使傭し、爲めに德望最も篤く大芳頭の名聲赫々たるものあり。

尾久輪友會副會長
下尾久本町々會理事

田中萬三郎君

君は明治十六年一月東京市神田區三崎町に生る、年少にして商才あり、未だ本邦に於て自轉車業の盛んならざる時早くも斯業に志し、斯業界の泰斗たる淺草區七軒町の三浦製作所に就職して、專ら斯業の機智を習得し多年これか製作に研究を重ね、下谷區入谷町に於て自轉車店を開設して、一意專心事業に心血を注ぎ、家運益々旺んなりしも尾久將來の發展に着目して、大正十一年下尾久本町通りに店舗を移し誠實を以て努力せられ、爲めに業務愈々盛況だり氏は資性温柔にして、公共心に富み信望最も厚く擧げられて、尾久輪友會副會長、下尾久本町々會理事となり公私共に努力するこゝ尠なからず。

土木建築請負業

高橋邦治君

君は資性温仁にして義俠心深し、明治十六年神奈川縣足柄上郡に生る、幼少の頃より工業に志して上京し、爾來斯業の研究を重ぬる事多年、奮鬪努力の結果獨立自營の基礎を固め、明治三十六年土木建築請負業を開始して以來、自ら恃み自ら助けてその運命を開拓し、鬼怒川水力株式會社の工事を初めとして、幾多の大工事を完成し、事業益々發展の域に進み、大正六年上尾久二九八二番地に移り、熱心精勵して家運益々隆盛なり。

地球印高級萬年筆發賣元
地球堂文房具店主

大門新三郎君

君は温賢にして智腦宜く、人をして屈服せしむ、商業の要素は「欺かざるは最善の商略なり」と堅實的に此商略向て邁進し、萬年筆の改善を企圖し　自ら歐米の優秀なるものを取り寄せ、これを分解して部分的に研究を重ね、英米獨等の凡ゆる高級品の粹を蒐めて、これに研究よ〻得たる新機軸の發明を加へ歐米輸入品を凌駕する完全無比なる地球印クラウン萬年筆、同印メール萬年筆の完成を得て發賣するこゝとなりしが、誠實的に最新技術に依り製作されたる地球印の呼び聲高く、優美堅牢の實質とペン先のイリヂムに獨得なる技能と眞純なる材料によつて作られて、使用上輕快を覺へ事務の進歩を促すこゝとなりて廣く喝采を博して居る。

店舗は下尾久本町通七六〇番地　文房具事務用品發賣元として知られて居る。

上尾久沼付町會幹事部長
東京薪炭同業組合尾久支部幹事

高桑正吉君

君は明治廿八年三月福島縣白河町に生れし人、性　温良にして仁に厚く、幼少時代より政治的方面に趣味を有ち、鄉里に於て各公共團体の幹部として大に努力貢献せられ、演壇上の人となりては抱負持論に廣長舌を揮ひ、或は蹶起して活躍の跡を見せ地方青年の典型として公共事業の爲め斡旋せられ、專ら將來を囑望され居たりしが、心機回轉なして實業方面に向て猛進する目的を以て　大正十年四月上尾久沼付町二一六四番地に店舗を開始し專らこれが經營を計り、事業益々成功して目下隆昌たり。

君は資性恭賢快活にして、商機達觀なり擧けられて沼付町々會幹事部長、東京薪炭同業組合尾久支部幹事となり、公私共に盡瘁せられ居れり。

衛生消毒業清好舍主

竹内こと君

君は資性温順にして信用最も厚く、貞淑の聞へ高し、明治二十五年神田區紺屋町二〇番地に生れ、大正八年尾久熊の前氣樂舘横に移り清好舍と名附けて衛生消毒の業に從事し、女ながらも勇ましき活動振りを示して、業務の發展努力せられ、家業益々隆盛を極め居れり。

下尾久協和會第一部長

曾我部領右衛門君

君は性　温厚にして調和力に富み如何なる難事の

發生すもも一度氏の客眸するあれば立ぞころに圓滿なる解決を告げ、當事者をして釋然たらしむると云ふ、氏は明治十二年七月十日岐阜縣本巢郡渡合村に生れ、幼にして學を好み、岐阜縣々立中學校を卒へ明治三十八年鄉關を辭して帝都に出で、爾來堅忍不抜の精神を以て勉勵し、明治大學法科を第一位に卒業の榮を荷ひ、直に警視廳に奉職し、明治四十一年外務省に轉勤、同年五月天津總領事館書記正に任ぜられ、歸朝後職を辭し、同四十五年文部省會計課に奉職、大正三年辭職後　深川區富川町に於て印刷器械の製作業を開始し巨資を拋ちて製造を試みたるに、其成績之れを他に比して頗る優良なるより、更に其規摸を擴大して益々研究を重ね、其の技能大に進み精巧他を壓倒する佳品を產出するに至り、家運益々隆盛の域に進み多額の利を占めて業を瘉し大正十一年現在の地を卜して家屋を新築してこれに移り平和なる家庭を待して公共のために盡瘁せられ、擧げられて下尾久協和

曾我部領頭右門南君

會第一部長たり。

下尾久南睦會會計理事
草津溫泉浴場主　**津幡廣作君**

古語に曰く「人格は生命の源泉なり、人格は人生眞趣なり」と廣作氏の如きはこの貴き人格の持ち主である、君は明治廿七年富山縣下新川郡泊町に生れ少壯燃ゆるが如き希望を心頭に描いて、明治四十一年奮然鄉關を去つて上京し、爾來幾多の事業を經營して奮鬪すること久し、功成つて家運益々隆域に進み大正十二年二月下尾久小沼三四七番地に擴大なる草津溫泉浴場を新築して業を開始し其泉質良好にして諸病に特効顯著なるより、名聲四方に傳り顧客市をなすの盛觀を呈し家運愈々揚る、氏は亦公共心に富み、家業の多忙を顧みず土地の發展に努力せられ、故を以て下尾久南睦町々會計理事に擧げられ德望高し。

相摸屋呉服店　**角田忠三君**

君は性　溫順にして正直なる人、神奈川縣高座郡

所見村に本籍を有し、明治二十五年九月この地に孤々の聲を揚げ、年僅か十六歲にして志望を抱いて上京し、日本橋區長谷川町の織物問屋に身を投じて專ら商業の機智を習得し多年誠意を以て勤勉し信用を得て、獨立の基礎を立てその店を辭し、大正十二年の春上尾久小學校前に店舖を開き、正直勉强を家憲として努力の結果顧客の信用益々厚く日々盛況を極め相模屋呉服店云へば一流の商店として屈指せらるるに至れり。

城北菓子商組合會計書記
梅昇堂菓子店主　**都築貞亮君**

君は性　從順にして且つ非凡なる活動家なり、明治三十三年埼玉縣北足立郡上尾町に生れ　幼少時代より商業に志し　我志望を貫くは帝都にありとなし大正四年奮然上京して手蔓を求め日本橋區下槇町に有名なる野村子仙氏に就き、　珍菓の製法を訓練し爾來千秋一日の如く辛苦精勵其研究に努力して妙技を習得し大正十二年八月上尾久小台山谷通石橋際に開店し、專ら時好に適應したるものを撰み、且つ品質良好にして美味なるものを、低廉を旨として販賣

せるが故に其信用益々江湖に厚く、宜べる哉顧客日に多きを加ふるに至れり、氏は城北菓子商組合會計書記に推されて信望厚し。

津田藥局主　**津田春次郎君**

君の家系詳かにして由緒深き系圖書と傳來の什寶とがある、其の祖先は遠く慶長五年關ヶ原の役に際し、殊勳を樹てたる源性平岡賴勝氏の後裔にして、中興の祖賴勝氏は人皇五十六代清和天皇後系二十八代後孫平岡對馬守源賴俊攝州溝杭七邑三千石を領し左金吾黃門大江朝臣秀秋卿に補佐したる賴俊氏の長男にして、其官錄を襲統して武名赫々たりしが、偶々關白秀吉公の遺子秀賴公を擁して石田治部少輔三威の旗上げに及び、秀秋卿に從ひ奮戰なし尙關東總統德川家康公に大功を樹てゝ關ヶ原戰鬪陣中に於て威名書を賜り　家康公より（賜食邑　一萬石于美濃州）秀秋公官錄を辭して蟄居後も補佐し居りて、關東德川方に屬したる片岡石州守源賴勝氏が祖先である、賴勝氏より三代孫賴重氏家錄襲系に際し承應二年幕府より（父賴資歿後有故被除地一萬石、賜新俸

一千石繼平岡家性也）賴重氏より七代の孫賴長氏は寶曆二年實兄與資氏歿後、家系を受け對馬守たり、江戸牛込見附内に承應年間に屋敷を移し、代々役附武家たり津田性は頗長氏より出でゝ後統履續して大政奉還と同時所領還附せられたるなり。

春次郎氏の嚴父は武家たりし故、其訓陶も亦深嚴を極め以て氏の資性温賢にして決裁の眼識高き所以なり君は明治卅三年北海道に產る、幼にして學學に志して上京、大正三年上野東京藥學校入學同五年十一月同校を優等を以て卒業　翌年四月學說六月實地試驗に合格し、同年八月北海道旭川市向井病院に奉職すること五星霜　大正十年九月小樽谷黑藥局主任として一年餘奉職す、本所區清水町松浦藥局に轉職し、同十二年上尾久藝妓町現在の地に藥局を開設し家業益々進展を極めて居れり。

下尾久本町々會々長
順風堂藥局主

根本佳守君

君は資性剛健着實にして天賦の穎才あり、氏は茨城縣に生れし人、幼少の頃より學業に志し、鄉里に於て中等の學を修め　我運命の開拓は帝都にありとなし鄉關を辭して上京、爾來不拔なる精神を以て勉勵し藥學校を首席卒業の後　衞生部に職を奉じ、三等藥劑官に任ぜられ　君國の爲めに大に奮闘努力せられ功成つて歸鄉するや、實業に志して再び上京して下尾久本町通りに藥局を開き、誠實を以て業に從ひ家運益々隆域に進みつゝあり、氏は實業界の人となつても亦能く勅諭の五ヶ條を奉戴して、これを信條となし、家業に精勵の傍ら土地の發展に努められ、擧げられて下尾久本町々會々長に就任し德望最も厚し。

根本佳守君

日本畵大家

根本雪蓬君

君は丹靑界の偉人たりし　故根本樵谷翁の男にして千葉縣に生る、幼少時代より丹靑界に身を委ね諸國を歷訪して勝景　古蹟を探り、古今の名畵を擧げて尋ねざるはなく、南淸に遊んで況く古畵の雅趣を究め、其筆致と趣味は斯界の覇を握らしむに到れり、曾て日月繪畵會其他氏の出品にして宮內省御用品たるもの枚擧に遑あらず、君は花鳥畵を特に丹能にして、每展覽會にて金銀牌賞を受與されたるもの數十點に及ぶ、大正十三年當町に移り下尾久大門に居宅新設工事中なるを以て、町屋二七番地に假寓專ら繪筆を友として居る、氏は溫良恭賢なる君子人である。

トタン板生子板丸釘
其他建築材料商

中島義朗君

君は資性　溫良誠實に富み、信用最も篤し。

明治三十七年十二月九日日本橋區龜島町一丁目四三番地に生れ、幼少時代より商業に從事し斯業の機智を究め、自己將來の進運は尾久町にありとなし、大正十一年七月一日下尾久九二九番地（滿光寺隣）に店舖を開設し、堅實に努力せられし結果益々盛況を極め斯業界に頭角を拔くに至れり。

成北菓子商組合尾久部長
岡林雲泉堂菓子司主人

南田房吉君

君は明治十五年福井縣坂井郡丸岡在に孤々の聲を揚げ幼少の頃より商業に志し、同二十八年上京して神田區萬世橋岡林榮泉堂菓子司に就き　專ら斯業の技術を習得し多年の研究を積み　大正十一年十一月下尾久萬歲館前に店舖を設け妙技を揮つて甘味の粹を集め顧客の歡賞を博するに至り事業日に盛況たり　氏は性質順柔にして信用厚く城北菓子商組合尾久部長に擧げられ組合の爲に盡力せられて居る。

素封家

中村福松君

君は性質仁に厚く、簡重寡默にして輕佻浮薄を好まず、且つ公共心に富み、土地發展のためには私財を投じ東西に奔走して寧日なく、赤土三社々殿建設に就ても發起人の主部となり、多額の費用と土地等を提供して完成に努めてゐる、氏は明治二十七年六月八日下尾久の素封家に生れた人である。

下尾久鬼怒電通商工組合長
溫泉料理旅館富倉館主

仲條乙吉君

居は長野縣生れの人、性溫厚篤實にして德望最も篤し、鬼怒川發電所際に聳ゆる三階建の建物は氏の經營する溫泉料理旅館富倉館である、仲條氏が此所

に開業した當時はこの邊一圓が全部田畑にすぎなかつたが、業地帶となつたのである。下久尾中村英一君

當館を草わけに漸次商家の軒を連ね今では商過言ではあるまい、然して當館は浴場の設置完備せると、庭園の景勝を以て知られてゐる、氏は土地發展のためとあれば、殆ど寢食を忘れて努力せられ、故を以て鬼怒電通商工組合長に擧げられ、公共のために努力して居る。

下尾久鬼怒電通商工組合理事兼庶務

中村藥局主 中村英一君

君は活達有爲の人にして篤學衆に超ゆるものあり明治二十七年十二月山口縣阿武郡萩町に生れ、幼少時代より學事に志し鄉里に於て中學を卒へ上京し、爾來奮勵力行して明治藥學校を第一位を以て卒業するの光榮を荷ひ、進んで獨逸語學專修學校を首席卒業の後、澱粉加工業に從事して專ら研讃を積むこと七ヶ年大正十二年五月下尾久一四三番地に藥局を開業し、鍛練せる手腕を揮ひ、誠實を旨として勉勵せられ家運益々隆昌なり、氏は下尾久鬼怒電通商工組合理事兼庶務係下尾久南睦會幹事等に擧げられ、公共のために努力せられて居る。

上尾久同志會副會長
上尾久朝日町會會計
青物果物商

村田酉藏君

君は資性温良恭賢にして仁に厚く、努めて陰德を施し然して是れが應酬を受けず、潔白人をして稱譽の聲を放たざるを得さしむ、明治三十一年尾久村に生れ嚴父の訓陶のもとの要素を修め、大正六年步兵第三聯隊に入營し同七年步兵上等兵を命ぜられ、除隊後上尾久朝日町二四二七番地に青物果物食料商を開設し、專ら家業の發達に努め誠實正直を最善の商署として、盡したる効果は即ち江湖の信用を博し店頭市を爲すの盛業である、君は尾久青年會評議員朝日町會々計、朝日町同志會副會長に擧げられて公共の爲め盡瘁せり。

布團蚊張製造販賣

村田布團店主 村田季嗣君

君は性質順にして確固不動の志あり、明治廿六年二月東京市神田區同朋町に生れ、大正二年國家の干城として步兵第三聯隊に入營、大正五年除隊後商業に志し爾來斯業の機智を習得し大正十三年六月下尾久本町通りに布團蚊帳商を開業し、其の拔くべからざる健實なる思想と誠意を保持して、薄利多賣主義の實績を擧げ奮闘好く家業に精勵したる結果家運益々隆昌たり、氏は當地に於ける布團類蚊帳等の九十日間日がけ又は月賦販賣を以て廣く精撰の良品を販賣する故信用最も厚し、尙諸會社、工場、警察官衙へ商品を納入して居る。

尾久西洋料理組合第三部幹部
西洋料理 滿州軒主

村田石重君

君は明治二十八年一月十八日長野縣埴科郡南條村に生れ、幼少より商業に志して明治四十五年上京し深川區内に於て專らこれが研讃を重ね、將來發展の地を卜して大正十一年十二月上尾久山谷二〇三一番地に同業を以て店舗を開設し、廣く顧客の嗜好に適する精鮮なる調理を以て客を迎へ、大に聲譽を博し家業益々旺んなり。

氏は性廉直にして信用厚く尾久西洋料理組合第三部幹事に擧げられ組合の爲め盡して居る。

王子電氣工事請負業組合幹事
尾久電氣商會主

宇佐見忠一君

君は明治二十四年二月栃木縣下都賀郡の一寒村たる方尾村に孤々の聲を擧げ、幼少より工業に志し、我が將來の進展は帝都にありと、少壯燃ゆるが如き志望を心頭に描いて上京し、專ら電氣事業の研讃を重ね、明治四十四年王子電氣軌道株式會社に就職して奮闘すること三ヶ年大正八年獨立自營を志して職を辭し上尾久熊野前電車通りに工業所を開設し、經驗と研究とより得たる卓絶なる手腕を縱橫に揮つ

て精勵して家運愈々盛んなり
氏は着實にして、事に當つて勇猛邁進の鋭氣を有し斯業界の信用爲めに厚く、擧げられて王子電氣工事請負業組合幹事として業界の爲め努力せられ居る

尾久土木建築請負業組合幹事
土木建築請負業 **上原健治君**

芭蕉の句に「ものいへばくちびる寒し秋の風」と
君はこの句其儘の沈剛寡默にして慧、情、意の圓滿に發達した人格者である、明治十七年七月新潟縣西蒲原郡竹野村に生る、幼少の頃より斯業に志して土京し、業界に關する專門的學業を卒へ、大正元年古河足尾鑛業所工作課に土木係として就職、爾來幾多の研讃を重ね經綸すること五星霜　大正五年秋田縣北秋田郡阿仁古河鑛業所工作課に轉任　大正九年尾久村旭電化工業株式會社建築部に移り、大正十二年獨立の目的を以て職を辭し、上尾久小學校通りに工務所を開設し土木建築請負業を營み、事業益々盛況たり。
氏は曩に上尾久熊睦會副會長に擧げられ、公共の爲めに努力せられ亦尾久土木建築請負業組合幹事となり信望最も厚し

尾久自治新聞社長
植松嘉一君

植松嘉一君

君は資性　快活にして頭腦明晰、事物の決裁力に富む、明治二十四年四月靜岡縣富士郡鷹岡町に生れ幼にして學を好み、靜岡縣立中學校を首席を以て卒業、秀才の聲高かりしが
立志を固くして上京淺草藏前高等工業學校に入り電機學を終め、卒業後京橋岩淵電機工業株式會社砂町工場に奉職、專ら功顯するところ尠なからざりが、埼玉縣川口町東京電機製陶株式會社鑄造部に奉職すること三ヶ年、辭職後文藝に趣味を持つと同時に繰孤界に入りて社會の改善に努め世の先覺者たりと、市内大新聞營業部に入り、幾多の研倫を履み千代田新聞經て　郡部の觀察なるに及び尾久自治新聞社を起し、當町に於ける公私を偏派なく論破し社會の木擇として世の公益に勉めて居る。

下尾久南睦會第三部長
同一心會々長 **熊美金之助君**

君は資性温良にして穩忍雅量を俱備し、公共の爲めには寢食を忘れて東西に奔走して寧日なく、故を以て德望篤く擧けられて下尾久南睦會第三部長、同一心會々長となり、盡すところ尠なからず。
氏は明治十八年七月東京市京橋區靈岸島三番地に生れ、幼少より學を好み早稻田實業學校を首席を以て卒業後、實務に志し下谷區根岸町に於て雜穀馬糧商を開業し、家運盛況に伴ひ營業擴張のため大正十二年一月下尾久赤土四四一番地に移り商況愈々旺んなり

乾物砂糖商店主 **黒田鉄雄君**

君は性質温柔にして潔白なる人、明治三十一年六月下谷區に生れ、幼少の頃より商業に志し乾物食料品商に從事し、專ら斯業の商機を會得し商才に敏なる氏は早くも尾久が將來發展の地たるを達見して大正十年十一月上尾久朝日町に店舗を設け、產地より商品を直輸して廣く最良品を廉價も以て販賣して益々信用を高め、家運日に月に隆盛の域に進みつゝあり。

城北菓子商組合長
共榮會々計 立花屋菓子司 店主 **倉持鎭太郎君**

尾久町に立花屋菓子店と謂へば其名を知らざるものなし、鎭太郎君は非常なる熱心家にして常に製品の進歩と季節向の珍菓の新製を圖るには、互に其技を比較研究して、公衆の批評を求むるにありと做し共進會品評會の開催の都度自家の製品を出陳し優良なるが爲め、受賞の榮を荷はざることなし、故を以て、家運益々隆盛を加て、今や斯界の有數なる盛觀を呈すに到れり、是れ畢竟氏の智腦　商才能く商界の機微に通曉して、嗜好に投合することを誤らざる結果に外ならざるは勿論なり、氏は城北菓子商組合

會に擧げられ夙夜組合のために精勵せられつゝあり
氏は明治三十二年東京神田區龍岡町一番地菓子商倉持家に生れ、將來發展の地を卜して大正九年上尾久小台停留場際に開業したのである。

上尾久自親會々長
土木建築請負業
久我忠作君

古歌に「爲せば成り爲さねばならぬものなるを
ならぬと云ふはなさぬなりけり」と
君は堅忍不抜の氣性に富み、一旦目的を立てたる事業は如何なる艱難に遭遇するも、是れを貫徹せざれば止まざるの氣慨あり、氏の今日の成功は蓋し是れがためのみ、君は明治二十六年三月千葉縣長生郡大東村に生れ、少壯の頃より鄉里に於てその技工を習得し、大正二年國家の干城として歩兵第五十七聯隊に入營し、同五年除隊後東京に出で、神田區小川町に於て斯業の經營を開始し、精勵力倦く事を知らざりし結果遂に其基礎を固め、大正九年十月現在の地たる上尾久二九八八番地に家屋を新築して之れに移り、尚進んで各所の大工事を請負ひ家運益々旺んなり、

氏は上尾久自親會創立委員となり、創會後擧けられて會長に就任し公共の爲め盡力せらる。

相生號洋品店主
洋品雜貨小間物商
久保岩次郎君

君は性　温健にして又誠實なり、氏は曰く凡そ洋品を營業するものは、平素誠實と最新の流行とを逸するとなき心を以て之れに從事し、品質を吟味せざるべからず、故を以て需用者をして危懼の念を起さしむるが如きは、營業衰退の基なり、豈愼まさるべけんやと、善い哉その言や、氏は常に此の信條を以て營業に隨つて、其信用の隆々たるも亦隅然にあらずと謂ふべし、君は明治十八年二月千葉縣香取郡佐原町に生れ、商業に志し、少壯意氣何物をも排して茲に偉業を立てべく上京し、商業の機微を究め商界の怪腕を揮つて、立志の覇を掌にせんと企圖を確立して滿韓の地を歷訪し、商事に携り專ら貿易事業を經營し業務旺盛なりしも、大震災直後の商況を鑑み上尾久熊の野前役場通りに店舗を開き、嶄新なる流行型の洋品雜貨小間物等を實質の選擇を極め顧客本位として廉價販賣するを以て、信用いやが上に加はり益々隆昌たり。

上尾久沼付町々會幹事
建築請負業
黒須林藏君

君は明治十九年十一月千葉縣香取郡に生れ、幼少時代より鄉里に於て斯業の研究を重ね、渾身の心血を注いで經倫を重ねること多年　明治三十八年我が目的は帝都にありと、古鄉を後に上京淺草區清島町に於て請負業を開始し、爾來事業の擴張を圖り努力開發に勉め幾多の事績を踏み　大正十二年十月上尾久沼付二一二一番地に移り一意專心精勵して家業益々旺盛を極め居れり。
氏は性廉潔にして信用厚く擧けられて沼付町々會幹事となり土地の發展に盡し居れり。

大坂屋雜貨部
安岡洋品店主
安岡源之助君

君は健實にして明敏なる眼識と卓絶極なき商機を達觀する實業家なり
明治十六年三月十四日京都市に生れ、幼にして商業に志し鄉里に於て商業學校卒業後、單身大坂市に出て實業の研磨は此地にありと、凡ゆる艱難と戰ひ刻苦奮闘已が目的に向て邁進し、商機の總てを會得して獨立經營を開始したるに、幾多の機先を制して家運益々揭り茲に巨多の蓄財成るに及んで、廿八歳の時抱負の實現を企圖して帝都に出て、護膜事業の有望なるを認め苦心研究すること六ヶ年、遂に製練及び加工器械を發明するに至り、護膜ホーヅキの製作及彩色等に大改善の實績を擧げ工場を新設して事業益々成算たりしも、大震災の厄に工場器械の全部を烏有に歸し、一般商機の沈靜を鑑みて工場を止め大正十三年下尾久七五〇番地萬歳館横に洋品店大坂屋雜貨部を開き最優良品を薄利多賣の主義以て顧客を迎へて日に隆盛を極め居れり。

山口藥局主
山口卯三郎君

君は温賢　順和にして見識に富める人格者なり。
明治三十一年埼玉縣浦和町に生れ、幼少より學事に志し鄉里に於て、所定の學業を履み中學校卒業後、

少壯前途燃ゆるが如き志望を抱いて上京し、東京藥學專門學校を第一位を以て卒業し　埼玉縣廳に奉職すること滿三ヶ年、益々斯業の經倫を重ね大正十四年一月上尾久富岡町三三七〇番地に高莊なる洋舘を新築して　藥局を開設し誠意顧客を迎ふことゝなり信望日に加はり商盛赫々たり。

壁材料セメント土管商
朝日町會幹事

山形榮造君

氏は當代の浮華輕佻に染まず　穩健篤實にして人を遇するに上下貴賤の別なき識見を備へた人である　明治二十一年東京市麹町區三番町に生れ、幼少の頃より商業に志し　專ら商業の機智を極め　將來發展する地を卜するに當町を以てし大正九年上尾久朝日町二五六二番地に店舖を開設して爾來誠意を信條とし奮闘努力の結果家運益々隆盛を極め　信望厚く朝日町々會幹事に擧げられ公共のため盡し居れり。

下尾久鬼怒電通商工組合幹事
糸、綿、袋物商　矢作商店主

矢作惣藏君

君は性　温和にして諂はず、慢らずその心鐵石の如し、明治廿四年二月二十四日東京府南足立郡江北村に生れ、明治三十六年商業に志して上京し　淺草區三筋町に於て糸綿並に袋物商を經營して、精心誠意努力の効空しからず　顧客日に繁きを加へたりしも、大震災に遭逢して大正十二年九月下尾久鬼怒電通二八四番地に移り、誠實奮勵の結果「正直屋」と賞揚せらるゝに至り家運益々旺んなり。

氏は鬼怒電通商工組合幹事に擧げられ土地の發展に盡力せられ居れり。

山口商會主
電燈電力工事請負

山口作次郎君

君は資性　沈剛にして義俠心深き人格者である　明治十八年埼玉縣大里郡八基村に生れ、明治三十八年國家の干城として野砲兵第十八聯隊に入營し、衛生部となり累進して准士官上等看護長に任せらる、日獨戰爭に從ひ勳功を樹て、勳七等に叙せられ青色桐葉章を授けらる　大正四年一月凱旋して第一師團軍醫部附となりて在任すること三ヶ年　大正七年豫備役編入と同時に上尾久船方三〇六番地荒川遊園通りに電氣工業所を開設し、電燈電力工事一般の請負業に從事し各所に出張所を設け數多の所員を使傭して益々隆盛たり。

富士見町々會幹事
尾久酒類同業睦會幹事

越久酒店主　山崎久作君

君は明治三十年二月新潟縣西蒲原郡に生れ、大正七年商業に志して奮然上京し、下谷區谷中初音町四丁目越後屋本店に店員として業務に從ひ、爾來誠意を以て事に當り忠實を竭して奮闘すること三ヶ年、宜く業界の機智を究め、獨立自營の基礎を樹て將來發展の地を卜し　大正十一年上尾久富士見町一七二一番地に店舖を開設し家運益々盛んなり。

氏は資性　温厚、着實にして信望最も篤く富士見町々會幹事、尾久酒類同業睦會幹事等に擧げられ公私共に盡力せられて居る。

上尾久時習會會長
土木建築請負業

前田三吉君

君は資性　淡白快活にして一點の邪氣なく、加ふるに事物に親切懇到にして苟も公益に盡すことゝ慈善の爲めとなれば卒先してこれが任に當り、其目的の果さゞれは止まざるの氣慨あり、故を以て町内の倚信漸く重く今や上尾久時習會々長に擧げられ至誠其職に瘁し居れり。

氏は明治二十一年七月富山縣下新川郡に生れし人少壯時代より鄉里に於て專ら斯業の研讃を重ね、明治三十九年より北海道札幌に移住し業務を開き經倫重ぬること六ヶ年、業成り功を遂けるに及び明治四十五年帝都に出で、小石川區初音町に於て事業を經營し家業益々隆盛なりしも、大正十一年將來を目して上尾久三一五二番地に移り奮勵の結果盛業の裡に活躍たり。

朝日町々會幹事
弁天堂藥局主

松倉市太郎君

君は温順なる篤實兼備の君子人なり。

明治二十八年東京市麹町區に生れ幼少より學業を好み曉星中學校を首席を以て卒業し、尚高等學府に遊ぶこと三ヶ年なりしが　大正十一年實業に志して當町に移り、上尾久朝日町大正湯際に辨天堂藥局を經營し、親切と誠實を以て客を迎へ家運日々隆昌を極

め居れり、因に辨天堂一家は本店を神田區鎌倉河岸に置き　神田御成街道本郷區駒込神明町　日暮里渡邊町等に支店を設け何れも盛んなり。

氏は朝日町々會幹事に擧げられ公共の爲め盡力せり。

上尾久由谷町町會々計
土木建築請負業

前田松藏君

前田松藏君

古語に曰く「今玆に道德界の審判者ありて、我等過去總ての所爲を會衆の前に披露すると仮定せよ、惟れか猛進して大小の所爲を擧證に書きて、衆目の熟視を辭せざらんか」と？　然りと雖も　松藏氏の如きは道德觀念に生きる人と言ふも過言にあらざる君子人なり

明治十二年埼玉縣に生れ、幼少の頃より土木建築請負業に從事し、專ら斯業の機智を習得し、我が成功は帝都にありと立志を固くして蹶然鄉關を辭して上京、大正十年上尾久二三五一番地に土木建築請負業を開始し、爾來奮闘すること五星霜其効果空しからず、今や有數の地盤を占め獨得の手腕を揮つて事業の向上に努められつゝあり。

君は山谷町會々計係に擧げられ公共の爲め盡瘁せられるゝこと尠なからず。

上尾久八幡町會副會長
二業相互組合理事

眞柄敏君

君は資性　溫健にして秩序的智腦を發揮し成實の果を揭くるに敏なりと。

明治十八年十二月四日東京市麻布區三軒家町に生れ、幼時より工業に志し力山をも拔く、克己心に富める氏は凡ゆる世の障壁を排して、目的に向て猛進し幾多の經倫を積みて土木建築請負業を開始し、成算日に登り蓄財の功を遂げ、大正十一年上尾久新地町一八六五番地に移り、花柳界の重鎭として組合の組織に、土地の發展に、努力の結果爾來尾久新地の隆盛を見る基を確固ならしめたる功蹟顯著なるものあり

上尾久八幡會副會長、尾久二業相互組合理事に推薦せられ公私共盡瘁せられ居れり。

北豐島鮮魚睦組合副組合長
上尾久熊野前東會幹事

間明田昌儀君

寶來鮨店主

君は資性　賢讓にして覇氣に富み、仁俠以て己が使命なりとして男氣に勝つと言ふ肌の人である。

明治十五年十二月十五日京橋靈岸島に生る、幼にして家父の業を繼ぎ專ら精鋼の間へ高かりしが、明治三十五年十二月徵せられて近衞砲兵聯隊に入營し偶々日露の戰役に從ひ滿州の野に轉戰し殊功を樹て勳八等に叙せられ白色桐葉章を授けらる、除隊後東京市本鄉區田町に於て專ら斯業の研讃を重ね、成業熾んなるに及んで、大正拾年十二月上尾久熊の前三〇〇八番地に開業し、時機を得て家業益々隆域に進み成功せる人なり　同業の發達と親睦とを圖るべく同業須藤氏と協同して大正十三年七月魚商睦組合を組織し　尚北豐島魚商聯合組合を創設することゝなり、近鄉五郡聯合組合と連絡を結ふに至れるは氏の預つて力あるものなり。

擧けられて北豐嶋鮮魚睦組合副組合長、上尾久熊の前東會幹事となりて盡瘁せられつゝあり。

政本藥局

政本六郎君

君は性　溫順にして熱心誠實なる實業家として其名高し、明治二十二年五月靜岡縣に生れ、幼き時より學業に志し鄉里の中學を終へ、少壯燃ゆるが如き志望を心頭に描いて　明治四十三年鄉關を辭して帝都に出で奮勉努力の結果効を奏し　豫定の學業を卒へ、明治四十五年藥劑師免狀を受け爾來斯業に研讃を重ねること十有余年、大正十三年春下尾久赤土通り四六七番地に藥局を開業し、專ら誠意を以て業に當り江湖の聲譽を得て家運益々旺んなり。

眞野寫眞館主

眞野貞一君

君は資性　恭順深重事に處し、寡默にして輕佻浮薄を好まず、確固不動の志あり　明治二十一年十一月廣島縣世羅郡津久志村に生れ、幼少の頃より寫眞術研究に志し　鄉里に於て斯界の大家に就てその機智を習得し、大正二年我が運命の開拓は帝都にありとなし鄉關を辭して上京し　爾來益々斯業の妙技と研讃を重ぬること多年、技術の蘊奥を極めて大正十

三年四月上尾久八幡神社前に營業場を設け家運日々隆域に進みつゝあり。

因に貞一氏の令閨房子君は美容院を卒業したる頴才の譽れ高き才媛たり、同所に美容閣を開始し、婦人美容部、結髪部を設け卓絶なる手腕を揮つて、顧客の聲譽を博し共に旺んなり。

慶野市太郎君

トタン板生子板建築材料商　松原商店主

君は明治十二年一月九日栃木縣安蘇郡關沼町に生れ、幼少より學業に志し、下野中學校卒業後上京して、東京日本醫學校に入り、明治三十九年首席を以て卒業し開業醫試驗に及第して、爾來東京市四谷區鹽町三丁目に内科小兒科を以て開業をなし　爾來二十ヶ年の間斯業に研究と經倫を積み、大正二年三月帝國大學研究科に於て更に婦人科の蘊奥を極めて、千葉縣安房郡和田町に同科を以て開業し、同町の町醫として就職大に發展せしも愛兒の學事監督の意味に於て、大正十四年上京、下尾久鬼怒電通りに賣藥化粧品商を開設し、嶄新なる營業振りを以て活躍し家運益々盛況たり。

因に氏は見習軍醫として日露の戰役に從ひ　勳功により勳六等に叙せられ單光旭日章を授けらる。

セトモノ商　深井金十郎君

朝日町々會幹事　同町同志會々計

君は性　温柔寡默にして輕佻浮華に染まず精勵以て業となし、德望最も厚く擧げられて朝日町會々幹事同志會々計、在鄉軍人會監事となり公共の爲め盡力せること尠なからず、明治三十年下尾久に生れ　大正六年國家の干城として歩兵隊に徴せられ　上等兵に進み除隊後上尾久朝日町に擴大なる店舗を新築しセトモノ商を營み克く精勵せられ家運益々隆盛を極め、尾久一流の陶器店として其名が響いてゐる。

船橋武次郎君

東京味噌出張所　酒類卸小賣商

君は明治廿九年二月茨城縣新治郡石岡町に生れ、少壯燃ゆるが如き希望を心頭に描いて　明治四十年帝都に出で神田區旭町に於て斯業に從事し　爾來誠意を以て業務に關する機徹に至る商才を養ふこと十有餘年、將來發展を目的として大正十二年十二月上尾久富士見町一七二一番地に店舗を開き酒類の卸小賣商を營み、誠實奮闘の結果家運愈々隆盛なり。

氏は性質　温厚にして信用厚し。

藤森重治君

上尾久山谷町々會幹事　尾久酒類商同業睦會幹事　藤屋酒店主

諺に曰く「人格は生命の源泉なり、人格は人生の眞趣なり」と

君は資性　恭賢雅量なる人格の持主である、明治十九年長野縣諏訪郡玉川村に生れ　郷里に於て中學校卒業後　村役場及郡役所等に職に奉ずること十有餘年、辭職後製糸事業を開設して旺んなりしも　我が目的は帝都にありと　大正十二年上京して、上尾久山谷本通り二五〇四番地に酒類商を開業し、正直奮闘努力せられ盛業の裡に活躍しつゝあり。

氏は同業者間の親睦發展を企圖して　萩原　山田三枝氏等と力を協せ、尾久酒類商同業睦會を組織し擧げられて幹事となり、又山谷町々會幹事として公共の爲め努力せらる。

古井雄作君

上尾久沼付町會幹事　だるま藥局主

君は明治十五年十一月十日靜岡市に生れ、幼少時代より學を好み鄉里に於て中學校を卒業して明治三

十九年年十一月東京に出で　東京藥學校を首席に卒業の榮を荷ひ靜岡市井上病院に就職して專ら斯業に研讃を重ね、大正四年再び上京して製藥業に從事し幾多の經倫を履み　同八年洋酒釀造業を經營し事業盛域に進みたりしも、尾久の將來に着目して　大正十三年上尾久沼付三一六八番地に藥局を開き、誠意を以て業に當り家運益々旺盛を極め居れり。

君は性　溫厚廉潔にして信望厚く、上尾久沼付町々會幹事に擧げられ土地の發展に貢献せること尠からず。

金龍堂洋服店主　藤田嘉助君

君は性質　潔白にして義俠に富み、意氣動かすべからざるものあり、精勵以て信用篤し。

明治十八年東京市京橋區銀座に生れ、少壯の頃より洋服業に志し　幾多の經驗を重ね技能進たるに及んで、日本橋白木屋洋服部に於て、嶄新なる歐米流行の粹を集めたるタイプに從ひ高等テイラーとして專ら研讃を積み獨立自營の基礎を樹て同店を辭職し大正十二年現在の地たる上尾久一九二三番地に店舗を設け、自ら職人と伍してこれが裁縫に獨特の技能を奮ひ　誠實勉强の結果家業旺盛を極めてゐる。

ひさご亭主　西洋料理　福田卓司君

君は明治三十年三月東京市日本橋濱町に生れ、大正二年慶應塾商科を優等を以て卒業し、大正八年アキラ自動車會社の會計主任として就職し　自營の基礎を固め、大正十二年九月上尾久三一三六番地に移り西洋料理店を開設して、奮闘せられ家運愈々旺んなり。

氏は性質溫順にして信用厚し

尾久消防組頭　材木商　小泉喜平次君

君は謙讓、溫健にして非凡なる精勵家である。

明治十一年十二月上尾久三〇〇五番地に生る、幼少時代より商業に志し、嚴父の膝下に有つて訓陶を受けて人となり、明治四十一年荒川畔に於て當時事業盛況なりし、西川材木販賣組合に幹部として事務經營を掌り、爾後同營業所の解散と共に、大正二年現在の地たる上尾久熊野前に材木問屋を開設し、當地に於ける斯業界の泰斗として信望を蒐め、家運愈々盛況を極め居れり。

小泉喜平次君

氏は尾久消防組設立當時より役員に擧げられ町の歴史と共に永く警備の任に當つて大に努力せられ、町制執行後新設消防組の組織せらるゝと共に組頭に擧げられ公共のため貢献すること多大なり。

上尾久沼付町會顧問　正八位　小瀧平治君

君は資性　溫厚恭賢にして、然も天賦の穎才あり明治十五年九月長野縣元善町に生れ、幼にして學を好み　同三十七年長野縣立中學を首席を以て卒業し同年十二月一年志願兵として歩兵第一聯隊補充大隊に入營し　同三十九年二月將校試驗に合格　同四十年七月歩兵少尉に任せられ　正八位に叙せらる、退營後明治四十年七月より大正元年十月迄長野信濃新聞、毎日新聞の記者として就職し政經部、社會部を擔任、大正元年十一月より長野市に於て洋品雜貨店を經營し　同八年九月迄長野市第十區長代理として就任、大正九年三月長野商事株式會社の支配人となり　同年九月辭職、同拾年東京米穀商品取引所仲買業を經營し時機適合して商盛日々揚り成功を告けたりしも　地方事業の計畫成るに及んで、大正十二年上尾久沼付二一一八番地に住宅を新築してこゝに移り、信用最も厚く擧げられて上尾久沼付町々會顧問となり公共の爲めに努力せらて居る。

氏は長野市居住當時長野消防第一番組の取締を勵め、警察部長より功績を表彰せられ功勞賞牌を受けしことあり。

上尾久朝日町々會幹事　東京時事新報專賣所主　高野納康君

氏は資性　簡重寡默にして輕佻浮薄の風なく、常に青年の儀範として町内の推重を受けつゝあり、幼にして學業に志し所定の學業を終へ、立志を固くして帝都に出で　奮勉力行早稻田實業學校を優等を以

て卒業の榮冠を荷ひ　一年志願兵として歩兵隊に入營し　將校試驗に合格して歩兵少尉に任せられて退營後、新開事業に志し上尾久朝日町に時事新報專賣所を開設して奮闘努力の結果事業益々隆域に進み、業務擴張のため上尾久富岡町に高層なる營業所を新築してこゝ移れり、氏が國家の干城として任務の當時勇ましかりし、英姿は矜然として思はざるを得ず日本刀を提けて三軍を叱咤せし手に今はペンを走しらして簿册と親み、而も十數人の傭人を指揮して、敢て緩怠なからしめず以て家運隆盛を期しつゝあるは　現時の柔懦浮薄なる壯年者流と同日に語るべからず。

舉けられて朝日町々會幹事兼庶務係たり。

朝日町々會相談役
親和會々長

龜屋酒店主　小林善直君

君は資性　沈剛にして公共心に富み、土地發展のためとあれば殆んど寢食を忘れて事物に當り不屈なる精力を竭して、奮闘努力せられ故を以て德望最も厚く、大正十二年の大震災前舉けられて商工會々長となり、公私のため貢献せらるゝこと尠なからざりしが　偶々大震災に遭遇し不逞鮮人襲來等の流言盛んなりし時　自ら團長となつて警備の任にあたり　其後舉けられて朝日町々會副會長を經て相談役に就任し　大に努力せられて居る　氏は明治十一年山梨縣西八代郡の一寒村に生れ、幼少の頃より學業に志して上京、大正四年麹町區明治藥學校を優等を以て卒業し　爾來斯學の研讃を重ね開業を選ぶに當地を以てし　大正十一年六月小台通一五三〇番地に藥局を開設し　誠意なる藥局として其名高く家運日に月に繁榮となり　信用最も篤く擧げられて東京藥局會尾久部長　北豊島藥業會委員等に就任して努力せられてゐる。

小林善直君

氏は　性　從順にして廉潔なり。

朝日町々會幹事
親和會顧問

後關常吉君

君は性　剛健實直にして、而も勇猛奮進の鋭氣あり　明治十八年十月東京府南葛飾郡船堀村に生れ、明治三十年嚴父共に上京し　訓陶宜く導守して學業に精勵し　中學校卒業後能く家訓を服膺して　浮華に走らず煙草製造の業に從事し家運旺盛なりしも、斯業の官營となるや　明治三十八年專賣局に奉職して技手に任せられ　爾來誠意を以て奮闘すること二ケ十年、功成つて巨額の資産を扶殖し　上尾久朝日町に住宅並に貸家を新設してこゝに移り　信用最も厚く朝日町々會幹事、親和會顧問等に擧けられ　公共のため盡されて居る。

東京藥局會尾久部長
北豊島藥業會委員

オダイ藥局主　小出勝藏君

君は明治三十年一月新潟縣に生れ、幼少の頃より學業に志して上京、大正四年麹町區明治藥學校を優等を以て卒業し　爾來斯學の研讃を重ね開業を選ぶに當地を以てし　大正十一年六月小台通一五三〇番地に藥局を開設し　誠意なる藥局として其名高く家運日に月に繁榮となり　信用最も篤く擧げられて東京藥局會尾久部長　北豊島藥業會委員等に就任して努力せられてゐる。

氏は性　從順にして廉潔なり。

下尾久南睦會副會長

小柴芳松君

君は資性沈剛にして公共心深く　確固不動の志あり、故を以て德望高く擧げられて下尾久南隆會副會長に就任し　土地の發展に就て夙夜奮闘努力せられて居る　明治六年千葉縣長生郡廳南町に生れ、所定の學業を終へ　英漢數學の塾舍に遊ふこと三ケ年、鄉黒に於て東島青年會を組織し　擧げられて會長となり又千葉縣聯合三州青年の幹事に推され　專ら公益のため地方青年の蹶起を促して貢献すること尠からず明治三十一年商業に志して帝都に出で日本橋區に於て米穀卸商を經營し傍ら新開事業を起して、家業發展を極めたりしも將來發達の地を卜するに當地を以てし、大正十一年下尾久八二番地鬼怒電通に移り事業旺んを極め公共に盡されて居る。

小柴芳松君

東京染物同業組合第十八部會議員

駒崎商店主　駒崎重太郎君

君は明治十四年下谷區坂本町に生れ、幼少の頃より染物業に從事して　友仙及京染に關する妙技を習得し爾來多年研究を重ね、日暮里新開地に染物業を開始して、事業大々的に發展を示し大正十二年業務擴張の爲め　上尾久朝日町二三九一番地に店舗を新築し　誠實を以て信條となし卓絶なる手腕を揮つて努力せられ商事益々盛況なり。

因に氏は日暮里新開地に居住當時は町會組織の任に當り　大に公共の爲め盡された人である、擧げられて同會の會長となり同地發展に多大の貢献する所あり。

資性溫良　淡白にして公益に盡し信用最も厚し。

尾久西洋料理組合第七部幹事
西洋料理清陽軒店主

近藤しげ子君

下尾久萬歳館の西角に美觀を極めた西洋料理店は清陽軒と稱して尾久町有數の洋食店である、獻立と調理とは最新歐米の粹を蒐めて、觀る目の結構と滋養豊かに歡味おく能はざるものあり　調理人は帝國ホテルに多年研讃を積みたる技能を發揮して、宜く客の嗜好に適するを以て　顧客の信用加はり日に隆盛なり。

店主しげ子君は性　温和にして愛嬌滿面に溢れ面も貞淑にして人望あり、擧げられて尾久西洋料理組合第七部幹事たり。

尾久土木建築業組合幹事
建築請負業

江川新太郎君

江川新太郎君

君は沈剛　潔白にして義俠心深く　超凡的の精勵家である、故に信用厚く推されて尾久土木建築請負業幹事となり斯業界の爲め盡瘁すること尠なからず、明治十七年一月埼玉縣大里郡深谷町に生れ幼少時代より鄉里に於て斯業に從事し　其技術を會得して幾多の經倫を積み建築請負業を開始し事業益々旺んなりしも　明治三十七年徵せられて歩兵第三聯隊に入營し　日露の戰役に從ひて　滿州の野に轉戰して、勳功を樹て勳八等に叙せられて白色桐葉章を授けらる　除隊後將來の進展に志し、明治四十一年上京して上尾久熊の前二六七九番地に住宅を新築してこゝに移り　建築請負業を開業して大に活躍を示して家運隆昌なり。

朝日町々會幹事
漬物店主

手島浪之助君

詩に曰く「無再此曰　寸陰一尺璧」

君は性恭順にして、又非凡なる愛日家で明治二十七年下尾久一一六三番地に生れ、所定の學業を修めて實業に志し　大正九年十二月上尾久朝日町の中央部に店舗を開設し漬物商を營み、千秋一日の如く時を愛し日を重んじて奮闘努力せられ、家業益々隆昌を加へ　今や殆んど盛觀を呈するに到れり是れ畢竟氏の徹底せる士魂商界の機微に通曉して、時好に投合するを誤らざると、常に商業道德を重んじ信用を維持するに汲々たる結果に外ならざるや勿論なりと云ふべし、擧げられて尾久朝日町々會幹事となり公共の爲め盡力せられる。

喜多屋酒店主
共榮會副會長
尾久酒類同業時會部長

淺沼佐市君

君は資性　淡白快活にして一點の邪氣なく、親切懇到を極め、苟も公益に盡すこか　慈善の爲めなれば卒先して是れが任に當り　至誠を以て努力せられ故を以て町内の倚信最も厚く擧げられて、共榮會副會長、尾久酒類同業組合部長となり大に奮闘せらる

明治三十年二月一日福島縣鹽川町に生れ、幼少時代より鄉里に於て斯業に從事し　大正九年我が運命を開拓するは帝都にありと上京し、當地を目的地となし尾久町小台山谷通り一六〇〇番地に店舗を設け誠實なる店として知られ　家運益々旺んなり。

尾久藥劑師會幹事
萬歳藥局主

青木健信君

君は明治二十九年十一月東京市本鄉區に生れ、幼少時代より藥學に志し、所定の學業を終へ　大正七年麹町區明治藥學校を優等を以て卒業し　同時に藥劑師免狀を受け、爾來斯業に研讃を重ね經倫を履み、大正十二年八月下尾久七三四番地に藥局を開設

し、至誠以て客を迎へ親切と勉強とは稱讃を博することゝなり家業益々盛況を極め居れり。

氏は性質　溫良恭賢にして、信用最も厚く尾久藥劑師會幹事に擧げられ名聲四方に冠たり。

下尾久南睦會幹事
同　本親會副會長
新井布團店主　新井偉仙君

君は活達有爲の人格者である、明治二十一年群馬縣佐渡郡に生れ、鄉里に於て所定の學業を終へ中學校を卒業後商業に志し、大正元年我が手腕を揮ふは帝都にありと上京し、市内に於て布團糸綿商に從事して專ら斯業の機智を究め、將來發展の地を卜するに當地を以てし　大正十二年十月下尾久五〇五番地に店舗を開設し、熱心誠意業に從ひ顧客の信望を博して家業愈々盛んなり、氏は下尾久南睦會幹事、下尾久本親會副會長に擧げられて公共の爲め盡瘁せられ居れり。

産婆
阿部きく子女史

女史は性　溫和にして淑德の聲名高く、親切懇到はその衞生的最微の點に亘るまで、一の顧慮なく盡すことを以て、一般の囑望を荷い女史を待つも　亦偶然にあらざるなり。

女史は明治二十八年福島縣錦村敎育家赤津家の長女に生る、高等敎育を了へ磐城産科婦看護婦學校に學び、大正三年産婆並に看護婦試驗に合格、直ちに磐城採炭株式會社醫局の主任産婆看護婦長に招聘さる、後自立斯業に從事の傍ら母校に産婆學の敎鞭を執り、大正七年其功勞に依り縣知事より前後二回表彰さる、同年現夫阿部氏に嫁し大正十年下尾久本町通りに開業、後現在の地たる上尾久二四二一番地に居宅を新築轉住す、昨夏夫君後援の許に斯業の向上研究の目的にて月刊「産婆界」を發行會員四千余名を有し斯界唯一の高級專門雜誌との好評を博しつゝあり、女史は乳幼兒死亡率の低減と豫防醫學の見地より、常に姙産婦並に母性擁護の實を擧ぐべく斯業に熱心努力してゐる。

尾久金物同業組合長
相澤金物店主
相澤勘兵衞君

君は明治九年宮城縣仙台市に生る、幼少より商業に志して東に出で、明治三十五年より本所區横綱町に金物商を開業して專ら斯業の商機を究め、奮勵の効空しからずして多額の蓄財を產み、尾久の將來の發展を達見して　大正十一年現在地たる尾久山谷九二七番地に金物商を開設し誠實なる奮闘振を發揮して家業愈々盛況なり。

氏は資性　從順、淡白にして信望篤く、尾久金物商同業組合長に擧げられ、組合の爲め貢献することゝ勘からず。

文房具事務用品
電氣器具販賣
文華堂主　天羽文次郎君

君は資性柔和にして非凡なる活動家である、明治二十三年六月德嶋縣名東郡國府町に生れ、運命開發は東都にありとなし、少壯燃ゆるが如き志望を抱いて、明治四十年上京　東京電燈株式會社京橋變電所に就職し、後鬼怒川水力電氣隅田川發電所の起るに際し同所に轉勤と共に、大正八年上尾久小台電停際に店舗を開設し　電氣器具及文房具事務用品を商ひ同發電所に勤務の傍ら營業に從事し、至誠を以て奮闘せられ　目下郵便切手賣捌所の許可を得ると共に、信用益々加はり家運隆昌たり。

尾久藥劑士會幹事
アンドウ藥局　安藤正夫君

君は溫量恭賢にして識見博く、多才有爲の人格者である、明治二十八年長野縣上田市に生れ、幼少時代より學を好み所定の學業を終へ、縣立上田中學校卒業後　少壯燃るが如き希望を滿すべく帝都に出で東京市明治藥學校を最優等を以て卒業の榮冠を荷ひ爾後東京市に工場を有する瑞西バーセル工業株式會社日本總代理店藥品部主任として就職すること多年益々斯學の經倫を重ね溫奥滿を持して、獨立の基礎を樹て、將來發展の地を求むるに當地を以てし　大正十二年三月上尾久熊野前通りに高莊なる店舗を開設し、精心誠意を以て斯業に當り　忠實を旨として顧客を迎へ、商運日に月に隆盛を呈して繁昌を極め居れり、氏は親切懇到なるがために江湖の信用篤く擧げられて尾久藥劑師會幹事たり。

銘木並に薪炭商
上尾久沼付町々會長

天野子之吉君

君は資性　沈剛廉潔、而も名球の光輝燦として自然に人を照すが如き威風を備へ、德望高く擧けられて上尾久沼付町々會長となり公共の爲め夙夜盡瘁せられつゝあり、氏は明治九年三月栃木縣芳賀郡茂木町に生る、鄉里に於て木材商を經營し、大正元年大志を抱いて東都に出で　淺草區山谷に居住して專ら山林業を開始し　大正七年石川縣下に出張して六萬余圓の木材產出の山を　深川區木場の井忠商店と提携して一手に引受け　多額の收益を占めたるを手初めに諸國の山林を買收して大々的發展を示したり、大正九年石川縣能美郡新丸村に出張事業經營中同村の村長に推任せられしが　事業上歸京することゝなりたるより、固辭して東京に歸りたるも大正十二年大震災の厄に遭ひ、將來發展の土地を撰むに當地を以てし　上尾久沼付二一三六番地に移り　銘木並に薪炭商を開業して家運益々熾んなり。

衞生委員　前東京薪炭同業組合尾久支部長
尾久酒類同業睦會副會長
東京酒類仲買小賣同業組合代議員

三枝酒店主　三枝清五郎君

君は性　温順にして慈愛の心深く、才能衆に優れ德望最も厚し　故を以て東京薪炭同業組合支部長、尾久酒類同業睦會副會長、東京酒類仲買小賣同業組合代議員、尾久衞生委員等の重任に擧げられ公益の爲め盡瘁せること尠からず。

三枝清五郎君

氏は　明治元年千葉縣山武郡增穗村に生れ、所定の學業を終へ　志を立てゝ上京し、明治三十五年警視廳に職を奉じ、警衞課勤務を命ぜられ、巡査部長となり、大臣警衞係として各大臣宮舍に勤務すること多年　大正六年實業に志して職を辭し　大正七年二月上尾久熊の前電車通りに酒店を開業し　至誠奮闘の結果家運益々盛況たり。

十文字藥局主

佐川正雄君

君は性質　沈着にして潔白なる人、大正四年藥劑師試驗に合格して開業免狀を受け爾來諸病院に就職して斯學の研讃を重ね、實業方面に於ては商機の眞相を究めんと斯界盛況の隨一たる京橋區八丁堀馬場のクスリヤ仁盛堂に入り專ら機智を習得して、大正十二年上尾久二三一三番地に藥局を開設し、正直勉勤を旨として精勵せられ家運益々旺盛を極め居れり

龍光堂藥局主

坂井義藏君

君は性質　温厚篤實にして信用最も厚し。
明治三十年靜岡縣に生れ　大正八年藥學に志して上京　爾來斯學に關する諸般の研究を重ね　大正十年四月學說同十月實地試驗に合格し　市內大病院に就職して經綸を履み　其後神田區三幸合資會社藥品部主任として就職、獨立自營の目的を以て職を辭し大正十二年下尾久一九一番地（改正大道路）側に藥局を開業し　至誠を以て業に從ひ商運日々盛んなり

土木建築請負業

佐久間佐七君

君は資性　穩健廉直にして義俠に富む　氏の本籍は下谷區入谷町四一一番地にして　明治二十一年三月福島縣田村郡七鄉村に生れ　鄉里に於て所定の學業を卒へ、土木建築請負業に從ひ、專ら其業務の機微を會得し　明治三十九年志を抱いて鄉關を關して帝都に出で　下谷區入谷町四一一番地に於て土木建築請負業を開始し爾來渾身の心血を注いで斯業に奮勵すること多年その効果空しからず家業益々發展を極め大正九年四月下尾久本町通七八一番地に營業所を新築してこゝに移り附近の草分けとして一般の信望を博し精勵の結果家業益々繁榮なり。

佐久間佐七君

熊の前東會副會長
賣藥化粧品商店主

三枝定司君

君は性　温順にして信望厚く　擧げられて熊野前

東會副會長となり　公共のために努力せられて居る
氏は明治二十二年三月千葉縣山武郡增穗村に生れ明治三十五年嚴父と共に上京し　東京市本鄉區郁文館中學校卒業後　大正二年日本橋區金吹町中井銀行に就職し傍ら上尾久熊野前三〇〇九番地に高級化粧品、賣藥、衞生材料商を開業して眞面目なる商店として顧客の聲譽を博し家運愈々旺んなり。

まけぬや主　佐々木宏君

下尾久本町々會幹事　帽子、洋品、雜貨商

君は潔白にして、仰いで天に恥ぢず　俯して地に恥らはずと　言ふ誠直以て世に立つ人である、明治二十六年新潟縣南蒲原郡中の島村に生る　鄉里に於て所定學業を修め　明治四十年志を立て上京し、專ら帽子製造の業を研究し傍ら商機を習得して　東京市下谷區西黑門町に洋品店を開業して家運盛んなりしも　大震災の厄に逢遇し　震災直後下尾久本町通八二〇番地に帽子、洋品雜貨商を開業し　正直を信條として家事に精勵の結果目下隆昌を極め居れり
因に氏は大正四年十一月東京帽子製造同業組合長より精勵模範として褒狀を授與せられしを以ても平素の奮勵の程が窺はれる。
擧げられて下尾久本町々會幹事となり努力せられ信用最も厚し。

佐藤サイクル本店主　佐藤繁次郎君

東京自轉車同業組合代議員、尾久輪友會々長

君は資性溫　柔寡默にして、輕佻浮薄に染まず而も業務熱心家たるより、數年一日の如く精勵して倦むことを知らず　故を以て業界の信用厚く擧げられて尾久輪友會々長となり、斯業の爲めに努力すること尠なからず　氏は明治三十二年四月十五日東京市淺草區北淸島町に生れ　幼少の頃より斯業に志し小石川區表町の實兄西川製作所に於て專ら業務の研究を重ね　大正九年獨立の目的を樹て上尾久小臺山谷通一四八六番地に佐藤サイクル本店を開設し奮鬪努力遂に家運を隆興の域に到達して其名赫々たり。

サイトウ靴店主　齊藤德太郎君

上尾久沼付町會幹事

君は從順潔白にして　且つ非凡なる業務熱心家なり氏は常に我が技工を磨くべく　同業品評會　競技會等に自己の製品を出陳して公衆の批判を求め、向上進歩に努められて居る　曩に同氏未だ十七歲時偶々日本靴工同盟會第三回競技會開催するに當り、これに應じて自己の製靴を出品して二等賞狀を授與されし程の怪腕技量を有し、優美堅牢を俱備せる　製靴として其名は江湖に高く家業益々旺盛なり、氏は明治三十年九月千葉縣山武郡東金町に生れ、幼少時代より斯業に志して上京、本鄉區湯島二八番地、三越、松坂屋等の靴製造場相馬堅造氏に就き妙技を習得し　獨立自營の目的を以て府下田端に工場を開設して盛んなりしも、事業擴張の爲め大正十三年五月上尾久沼付二一五〇番地に店舖を開業して信用を博し、擧げられ上尾久沼付町會幹事となり町の爲め盡力せられ居れり。

金融業　齊藤薰之助君

君は明治十二年十一月千葉縣松戶町に有名なりし妓樓上州屋を經營したる、重兵衞の三男に生る、鄉里に於て所定の學業を修め、明治三十七年九月志望を抱いて上京し、陸軍砲兵工廠に雇員として職を奉じ、大正八年職を辭し其後二ケ年間「トウライト」の發明に渾身の心血を注ぎ、大正十年工場を設けてこれを經營し、大正十二年上尾久一四七七番地に移り金融業に從事して家運益々旺盛なり。
氏は性質　溫柔にして信望厚し。

佐野屋店主　佐藤勝之助君

提燈、雨傘、卸小賣商

君は資性　穩健淡白にして一點の邪氣なく、誠實なる實業家として信望最も厚し、氏は明治十年茨城縣水戶市に生れ、幼少時代より商業に志して上京し爾來幾多の事業を經營して、家業隆盛を極めたしも大正十二年大震災の厄に逢ひ、震災直後の商機を鑑みて大正十三年春上尾久富士見町一六七一番地に店舖を開設し　提燈、岐阜提灯、雨傘等の卸小賣商を營み　奮勵努力の効果空しからず家運愈々旺盛を極め居れり。

尾久西洋料理組合副會長
西洋支那料理店　**金龍亭**

世の進化は「衣食住」の改善を促して推移されつゝあるが、凡そ人をして直感せしむるは食物である　上尾久小台山谷通りに堂々事業を經營し顧客の賞揚に登りつゝあるは西洋支那料理店金龍亭である、同店にては佛國西式英米式等の調理の眞粹を蒐めたる最新料理法を以て之に材料の精撰を爲して日々プロを造りし調理は多年グランドホテルに斯界の研究を重ねたる主任者が自ら調味して顧客を迎へて居る故世の嗜好に適せざるはなし又支那料理は純粹なる料理方の名聲地面清海島に於て研讃を究めたるもの、是れを擔任して獨得の滋味を供することゝなつて、益々江湖の稱譽を加へて盛況を呈して居る。

上尾久富士見町々會幹事兼區長
吉材木店主　**北島喜七君**

君は性　柔和にして廉潔且つ公共心に富む、擧けられて上尾久富士見町々會幹事兼區長となり、公共のため盡されてゐる、氏は明治三十四年六月茨城縣新郷村に生れ、郷里に於て所定の學業を卒へ　商業に志して上京し、淺草區材木町松吉材木店に於て專ら商機を習得して　千葉縣茂原町に製材所を設けて大に斯業の經倫を履み、大正十二年六月上尾久富士見町一七八〇番地に材木商を開店して販路の擴張を圖り、信用最も厚く家業益々盛況なり。

日日町々會幹事兼庶務
扇屋呉服店主　**北浦與市君**

君は明治十九年富山縣高岡市に生る、性質溫順淡白にして　而も信義に厚く擧けられて朝日町々會幹事兼庶務係となり、公共の爲めに努力せられて居る　氏は幼少の頃郷里に於て所定の學業を卒へ、商業に志して中仙道大宮町に於て呉服商に從事し、專ら斯業の機微を習得し、爾來同業に經驗を重ね　我志望を充たすは帝都にありと上京し　大正十一年四月上尾久朝日町二五六一番地に店舗を設け　織物は製産地より直輸し　正直と勉强を旨として　業に從ひ大に江湖の名聲を博し家業隆々たり。

清田材木店主　**清田茂寅君**

君は性質溫和にして誠實を保持し　而も勤勉にして敏活なり。

「そも滔々たる今日の商界を見るに、勤勉敏活は兎も角其誠實を欠くは敢て勘なからず、是れ既に失敗を招くの基なれば、些事小故と雖必ず誠實を欠くことなく平素心懸けざるべからざるや勿論なり」

茂寅氏の如きは實に此の意味の理解者として、誠實勤勉を信條として努力せられ爲めに家運益々盛況たり、氏は明治二十三年愛媛縣伊豫市中町に生れ、少壯時代より郷里に於て材木商に從事し、專ら斯業の機智を會得し　奮闘努力の結果家業盛んなりしも大震災直後の商況を鑑み、蹶起活躍する目的を以て上京し、下尾久七七七番地に店舗を開設し、經倫深き手腕を揮つて事業の達成を計り益々隆昌を極めてゐる。

岸川呉服店主　勅八等　**岸川伊左衛門君**

君は明治九年十二月十二日佐賀縣杵島郡福富村に生れ、少壯時代より郷里に於て呉服商を經營し商盛益々隆昌たりしが　將來我が志望の展開は帝都にありと　大正十一年八月上京し　上尾久小台渡場通りに呉服商を開設し　爾來正直と精勵を旨として業に從ひ奮闘努力顧客本位として盡したる効果空しからず、家運益々盛況を極め居れり。

因に同氏は國家の干城として日露の戰役に從ひ滿州の野に轉戰して、戰功を樹て勳八等に叙せられ瑞寶章を授與せらる。

氏は資性　沈剛正直にして信用厚し。

水谷商店主
尾久酒類同業組合部長
酒類卸商　**水谷清太郎君**

君は誠實なる實業實として知られ、斯界の信望最も篤く、業務に向つては勇猛奮進の鋭氣あり。

氏は明治二十五年二月岐阜縣に孤々の聲を上げ、郷里に於て中學の學業を了へ、少壯燃ゆるが如き志望を心頭に描いて、郷關を辭して上京し酒類業に從事し、專ら斯業の經綸を積み、商機の總てを究め將來發展の地を卜するに當地を以てし　大正十一年尾久船方荒川遊園前に店舗を開き、酒類卸商を營み奮闘精勵して家業日に月に隆盛を極め居れり。

上尾久自治會總務　**三上彌三郎君**

君は資性　沈勇にして識見抱負倶に豊かなる人格者である、明治元年一月東京市京橋區に生れし人、幼少の頃より嚴父の訓陶を遵守しこれを服膺して要素を修め人と成り、爾來幾多の事業を經營し、誠實を旨とし　活躍を以て業務の達成に努め氏が基礎鞏固なる經營は一として　成功せざるはなく巨額の蓄産を扶殖して　大正十年上尾久二二八番地に住宅及多數の貸家を新築して　これに移り信望最も篤く擧げられて上尾久自治會總務となり、公共の爲め盡瘁せられ居れり。

三木自轉車店
尾久論友會評議員
共榮會幹部　**三木嘉一君**

君は明治三十一年七月十一日埼玉縣北足立郡與野町に生れ、幼少時代より斯業に志して上京し　日暮里町實兄栗原製作所に於て　專ら輪界事業の研究を重ね、商機の總てを會得して　獨立の基礎を樹て大正十一年五月尾久小台山谷通九八五番地に店舗を開設し　精心誠意努力の結果家業愈々隆盛を極め居れり。

氏は性質　温良にして信用最も厚く　尾久輪友會評議員、共榮會幹事に擧げられ公私共盡力せられ居れり。

氷問屋桝屋主
下尾久南睦會幹事
鬼怒電通商工組合幹事　**水藻三作君**

君は資性　温柔廉潔にして信用最も厚く　擧げられて下尾久南睦會幹事並に鬼怒電通商工組合幹事となり公共の爲め夙夜盡瘁せられて居る。

氏は明治二十三年十二月五日新潟縣西蒲原郡太田村に生れ、大正元年商業に志して上京　淺草區福井町に於て斯業に從事して、その機智と經驗を究め家業盛んなりしも將來發展の策を樹て　大正十一年四月下尾久一二五番地に店舗を設け　氷問屋を經營し奮闘努力の結果家運益々隆昌たり。

宮山商店主
和洋紙問屋　**宮山五十君**

君の祖先は代々紙類の抄漉と販賣とを以て襲踏して來たものである　其の記錄の審かなるものは五代以前よりのものが存在して居る、文化年間以前より德川幕府御料紙類一式の抄紙仰付られ名門御用商人として名聲赫々たりき、現に五代の後系たる五十氏の實兄は神奈川縣橘樹郡稻田村に於て大規模の製紙工場を設け事業に進展を示して活躍たるものあり、この開發に伴ふて東京市下谷區龍泉寺町八王子寺町當尾久等に三箇所の一家專賣所を設け　他店を經由せず直接卸賣を爲すが故に　中間利潤を要することなく格安く且つ品質優秀なるものを以て江湖の聲名を博し一家擧つて家業盛況を極めて居る。

氏は明治二十年十一月前記稻田村に生れ、將來發展の地を卜して上尾久熊の前二五四七番地に店舗を開設し　誠實を以て業に從ひ家運益々隆昌なり、因に同家の製品は第一回內國勸業博覽會に於て一等賞狀を授與せられて紙業界の優絕品として其名高し。

寶庭用品荒物商店主
朝日町會副會長
同志會々長　**茂野菊次君**

君は資性　温厚篤實にして公共心に富み、土地發展のためとあれば殆んど寢食を忘れてこれに盡瘁せられ故を以て信用最も厚く　擧けられて朝日町々會副會長たり　氏は明治二十年雪深き新潟の一寒村に生れ、明治四十年徵せられて騎兵第十七聯隊に入營し、品行方正なるにより同四十二年歸休兵となり明治四十四年將來の發展を畫策して上京し　淺草區地方今戶町に漬物商を開設し　爾來渾身の力を注いて努力勵勉の結果多額の蓄財を生するに到り、大正十年十二月將來發展の地を卜して　上尾久朝日町二五六〇番地に店舗並に貸家を新築してこれに移り、家庭用品維貨玩具等を商ひ家運益々隆々たり。

喜樂店主
西洋料理店　**下川周吉君**

君は温厚篤實にして智腦明晰なる君子人である故を以て業界の信用篤く、曩に尾久西洋料理組合長に擧げられ　組合の爲め盡すこと勞なからざりしが任期滿ちて辭任し、推されて相談役たり　同組合より在任中の功績を表して　感謝狀及記念品を贈呈せ

らる。

氏は明治二十一年三月十二日府下南足立郡江北村字宮城一五八番地に生る、幼にして學を好み所定の學業を修め中學卒業後、實業に志し市内に於て幾多の事業を起し　奮闘努力商事に當り精勵以て其發達を圖りたる効果空しからず、家運益々隆昌たりしも將來發展を着眼して　大正七年三月上尾久小台電停際に店舗を開設し、滋養に富む豊好調味なる最新式献立を以て客を迎へ家運日に繁昌に進み業界有數の店なり。

永盛舍主
牛乳搾取販賣業　**島田良之助君**

君は性質　温良實直にして信用最も厚し、明治二十三年千葉縣千葉郡に生れ、　郷里に於て所定の學業を修め　明治四十四年商業に志して上京し　牛乳搾取販賣業に從事し多年の經倫を履み、大正十二年九月下尾久交番所前に店舗を開設し誠實なる營業振りを以て顧客を迎へ事業益々擴張を極め家運日々繁榮たり。

王子電氣軌道鉄式會社
下尾久散宿所主任　**清水尚平君**

君は性質　從順にして斯業に熱心なる精勵家である。明治三十年東京市下谷區三の輪町に生る。少壯にして斯業に志し　明治四十四年東京電燈株式會社に就職して、專ら電氣工事に關する機智を習得し、爾來幾多の研究を重ね、辭職後王子電氣軌道株式會社に就職　大正十一年十月同社下尾久散宿所を開設と共にこゝに移り、奮闘努力せられて信用厚く家運益々盛んなり。

岩與支店主
桐材商　**清水源藏君**

君は性質温順、着實なる實業家として知られ、寡默にして而も其意志確乎拔くべからざるものあり、氏は明治三十年十月埼玉縣南埼玉郡綾瀬村に生れ、幼少時代より商業にして上京し、淺草區上平右衞門町に於て專ら商機を習得して、精勵倦むことなく努力せられ居りしも　大正六年徴せられて砲兵第一聯隊に入營し大正八年除隊後　淺草區榮久町岩與桐材店に於て一層奮闘の結果獨立の基礎を固め大正十三年下尾久八ッ城六九二番地に店舗を設け夙夜心血を注いで至誠事に從ひ一家業愈々隆域に進み町内第一の桐材商として知らるゝに至れり。

朝日町々會副會長
大正湯浴場主　**廣野莊司君**

君は資性　温柔廉潔にして慈愛の心深く、且つ公共のためには殆んど寢食を忘れて努力せられ　爲めに信用最も厚く擧げられて朝日町會副會長となり貢献すること尠なからず　氏は明治七年六月新潟縣西蒲原郡吉田村に生れ、中學校修業後　村の理事者として多年村治に携はり　自治發達のために大に盡されたる人である、大正十一年十月上京し上尾久三一四四番地に大正湯と稱する浴場を經營して家運益々旺んなり。

朝日町々會相談役　**平井忠七郎君**

自治制をして發達せしむるは歴代當局者の施設宜しきによるは勿論なりと雖、而も氏の如き公共心に富みて自己の利害を顧みず　土地發展の爲めに克く寄與貢献する篤志者ありて、他を誘掖指導するにあらずんば、焉んぞ斯の如きを得んや

氏は温厚篤實なる君子人にして公共のためとなれば卒先してこれに當り、然してこれを徹底せざれば止まざるの至誠家である　明治八年七月京都市三條通りに生れ　明治二十八年國家の干城として歩兵第一聯隊に入營し歩兵上等兵に進み　臺灣守備に派遣せられ、蕃地に潜入して生蕃と戰ひ　或は燃るが如き炎熱と闘つて其困苦に勝ち　武功を樹て下士適任証書を授けられ勳八等に叙せられて除隊となり。

明治三十五年大志を抱いて北清に遊び　北京工藝學堂の教師として就任　爾來教鞭を採つて努力すること二星霜　歸朝後上尾久朝日町に住宅を新築してこゝに移り　遞信省に用材を納め、其他諸官署の御用商人を勤めて信望高し。

氏は曩に擧けられて朝日町々會長となり　大正十三年改選に功勞者として相談役に推されたのである

辰巳屋呉服店主　**姫川繁治君**

君は温量にして誠實好く人を屈服せしむると云ふ精髄なる實業家である　幼にして實業に志し中等學業を卒へ、織物呉服業に志し東京市日本橋區に於て專ら業界の研讃を重ね經倫を積み　經營宜く世人の嗜好に適せることゝなり隆昌を極めたりしも　將來發展の地を卜するに當町を以てし　熊の前小學校角へ擴大なる店舗を構へ　專ら嶄新珍柄良品を各機業地より直輸して格安に顧客を迎ふることゝて　其聲名四方に高まり四時客の絶へ間なく　當町隨一の呉服商とて益々隆昌を極め居れり。

前南睦會長　**芹澤光廣君**

君は資性　穩健にして而も頭腦明晰なる人。

明治二十一年五月山梨縣に生れ　鄉里に於て中學校を首席卒業後　少壯燃ゆるが如き志望を心頭に描いて鄉關を辭して帝都に出で、幾多の事業を經營し卓絶なる精力と稠密なる計畫を以て奮闘努力せられ、其効空しからずして家運隆域に進み　尾久の將來發展を聽視するや氏の鋭眼は如何で看過すべきや　大正十二年三月下尾久赤土三六二番地に煙草、化粧品等の店舗を開設して家運益々隆盛を極め居れり。

因に氏は曩に下尾久南睦會々長に擧げられ公共の爲め盡瘁せられ　其功績の偉大なるものあり。

上尾久沼付町々會幹事長
先崎自轉車店主　**先崎豊壽君**

君は資性　溫從にして思慮稠密　而も爲成の英氣あり　亦土地發展のためには東西に奔走して寧日なく、擧げられて上尾久沼付町會幹事長に就任し　大に努力せられてゐる、これに依て是れを見れば氏が平素公共的義心を窺ふに足るべし。

氏は明治三十年十二月二十日福島縣田村郡瀧根村に生れ　明治四十五年鄉里福島中學校首席卒業後志しを樹て上京し　大正三年二月芝區攻玉舍を第一位を以て卒業の榮を荷ひ　日暮里町日暮里三二七番地に自轉車製造の工場を開設し　事業益々發展を極め、現在上尾久沼付町二一四九番地に營業所を開設して　至誠を以て奮闘の結果家業益々繁榮たり。

尾久理髪組合幹事
榮軒理髪店主　**杉谷榮君**

君は資性　溫厚篤實にして人と爭ふことを爲さず

明治三十三年四月十五日富山縣下新川郡魚津町字大町に孤々の聲を上げ十四歳の時斯業に志し孤身奮然帝都に出で麻府飯倉町五ノ三一番地に於て斯業の機智を習得し　爾來多年の間研究と經驗を積み、獨立の基礎を樹て、大正十一年九月上尾久朝日町三七一七番地に店舗を開設し、斯業の爲め凡ゆる設備に心を瀝ぎ其改良及衞生等に就ては常に肝膽を碎ける結果其効空しからず　益々江湖の信用を博して家業盛況たり。

氏は尾久理髪業組合部長に擧けられ業界の進歩發達に努力せられて居る。

朝日町々會幹事
電氣應用こんにやく商　**鈴木高藏君**

君は　資性謙讓溫賢にして慈悲心深く　事物に親切懇到なり　明治三十一年三月上尾久二七六五番地鈴木金太郎氏の次男に生れ　斯業の研究すること多年　遂に經營の基礎を樹て大正十三年二月上尾久二五五七番地に轉居し　電氣器械を應用してこんにく製造卸小賣商を經營し　一般の信用最も厚く家業日に隆盛を極め居れり、氏は朝日町々會幹事に擧げられ公共のために盡して居る。

尾久町家畜病院主　**鈴木房之助君**

君は仁恭溫賢にして識見高く　慈悲の心深くして親切懇到盡さざるなし。

明治二十三年栃木縣那須郡に生る　大正四年東京市日本獸醫學校首席卒業後滿一ヶ年間栃木廳衞生課衞生技師として奉職、下野產馬組合幹部として專ら盡瘁するところありて數回の受賞を授けらる。

大正六年東京市淺草區千束町一丁目八〇番地に於て千束町家畜病院を開業し大正十二年九月大震災に遭遇したるに依り、上尾久二四六八番地（熊の前學校通ノ一）に移り家畜病院を開設して、事業益々隆盛なり

氏は有數なる動物愛護者として其名四方に響けり

因に三河島町一一三八番地に周濟堂醫院を開設し、醫學士二名を招聘して細民救護の目的を以て慈善を濶すことゝして經營しつゝあり。

鈴木藥局主　**鈴木福三郎君**

君は資性　恭順穩健にして而も頭腦明晰なる、學

識兼備の君子人なり。

明治二十八年群馬縣藤岡町に生る。幼にして學を好み所定の學業を終へ、鄉里中學校卒業後藥學に志して上京し大正九年麹町明治藥學校を最優等を以て卒業の榮冠を双肩に荷ひ、爾來斯學に研讃を重ぬること五星霜、凡ゆる藥學の蘊奥を極めて獨立の基礎充實なるに及ひ　大正十三年四月下尾久本町通八三三番地に藥局を開設し、親切誠意以て業となし顧客の稱讃を博して家業益々進展を極めて居れり。

熊野前通東會長　鈴木武司君

君は資性　沈剛にして溫量恭賢なる人格者なり。明治二十四年七月茨城縣多賀郡平潟町に生る、幼少時代より學業に趣味を持ち、鄉里に於て中學の素養を終へ、大正六年東京帝國大學化學科卒業後　藤田鍍業株式會社技師として就職　其後盛岡電氣工業株式會社工業課長として轉職　大正十年四月同社を退職上京し　東京市本鄉區に於て鑄物鐵物業鈴木商工社を開設し、同年十一月上尾久熊野前現在の地に移り、日本体育會荏原中學校教諭として奉職し現在に到る。

因に氏は一年志願兵として歩兵第二聯隊に服務大正三年三月歩兵少尉に任せらる。

夙けられて熊の前東會々長に推薦せられ公共の爲め盡瘁すること尠なからず。

日町々會幹事　須山材木店主　須山濱吉君

古語に曰く「男子一戰して敗るゝも已む勿れ、再戰して已む勿れ、刀折れ矢盡きて已む勿れ、骨碎け血盡きて已むべきのみ」と須山氏の如きは實にこの語に反かざる奮闘家である。

氏は明治二十年九月神奈川縣中郡東泰野村に孤々の聲を上げ　鄉里に於て所定の學業を終へ、奮然志を立てゝ帝都に出で、材木商に從事して專ら斯業の機微を究め、時には群馬埼玉の地方に出張し巨資を投じて　山林を買收し、一意專心斯業に心血を瀝いて奮闘努力せられ、其効空しからずして家業益々隆域に進み、大正十二年朝日町二四一九番地に店舗を新築し　一流の材木商として名聲高し。

氏は性質　溫順淡白にして信用厚く擧げられて朝

日町々會幹事たり。

キク藥局主　製藥士　鈴木勝美女史

君は資性　溫厚篤實なる「キャラクター」の持主である。氏は明治三十三年四月茨城縣古河町に生れ幼き時より學を好み　少壯燃ゆるが如き志望を心頭に描き年僅か十六歳にして孤身奮然帝都に出で、東京市深川區平野藥局に店員となり商業見習の傍ら明治藥學校に通學し專心誠意精勵して　大正九年首席を以て同校を卒業し其後麻布區飯倉四丁目菊地藥局に就職して製劑部を擔任し　爾後樫田重次郎博士の醫局に勤務して益々研讃を重ね、尚ほ大久保腦病院製劑部に奉職してその手腕を研磨すること前後五星霜、其間克く奮闘努力せられて獨立自營の基礎を固め、大正十三年四月上尾久不老閑前に店舗を開設して家業旺んなりしも　在來の店舗にては狹隘を極めたるにより、將來發展の地を卜して　下尾久新渡場通り一五三八番地に移り至誠を以て業に從ひ家運益々隆盛を極め居れり。

キク藥局主令閨　藥劑士　鈴木勝美女史

女史は性質溫和にして　而かも頭腦明晰なる才媛である。氏は明治三十四年二月愛知縣名古屋市東區田代町に生れ、幼少の頃より學業に志し　名古屋高等女學校卒業後　藥學研究の爲上京、大正八年四月明治藥學校を優等を以て卒業し　麻布區龍門病院に於て醫藥部を擔任して研究を重ぬること二ヶ年辭職後鈴木眞夫氏に嫁し共に家業に精勵せられ家運隆々たり。

運送業兼信托業　べんりや主　須藤文基君

君は明治十四年十二月三日神田區宮本町壹番地に生る　幼少の頃兩親と共に淺草區馬道八丁目に移り　師父の文訓陶を受けて人となり　事業に幾多の經倫を積みて　大正十一年上尾久一〇八一番地に店舗を開設し　未だ尾久

の新開地たるにより諸般の不便を釀しつゝあるを鑑み、べんりやとて如何なること柄も至便に取扱ふことゝして、運搬の事業、債權債務の整理、金融の仲介、動產不動產の仲介、帳簿の編成、會社定欵其他の起草等の事業を開始し　一般簡便に營業を取扱ふを旨として顧客に便益を與へて事業益々繁昌を極め居れり。

◆左の兩氏氏略歷は順序を追ふて（いろは順）に挿入すべきを編輯部の誤りにて玆に掲載したるに付諒されたし

上尾久時習會副會長
建築請負業　**永井平盛君**

君は剛操を以て信を立て　剛毅を以て質となし窮すれども義を失はずと云ふ卓絕なる仁俠の人である、明治十五年四月石川縣羽喰郡に生る、幼少時代より工業に志し石川縣工業學校を優等を以て卒業後尙進んで斯學の研讃を重ね、明治三十九年上京し建築請負業を經營し　業務益々旺盛を極めりしも　將來の發達の地をトするに當町を以てし　大正十三年二月現在の地たる上尾久三一八五番地に同業を開始し爾來精勵して山とも貫く精神を發揮して家業にいそしむで益々隆昌たり。

永井平盛君

擧げられて上尾久時習會副會長となり公共の爲め盡瘁せり。

植田事
下尾久興友會々長　**吉永峰治君**

君は資性宏量恭賢にして仁俠に富み　堅忍不秡の氣慨あり、擧げられて下尾久興友會會長ともて公共の爲め盡瘁せられつゝあり。

氏は明治十五年一月埼玉縣入間郡川越市に生る、幼にして學事に志し中等の學業を終へ、將來を鑑みて工業に志し、少壯燃ゆるが如き志望を心頭に抱いて鄕關を辭して帝都に出で、淺草區に於て土木建築に關する學理と經倫を究め　其後人造肥料業を經營して成功を告げ、下尾久一〇七〇番地に移り市內淺草區吉野町に工務所を經營して日に月に隆昌を極め居れり。

娛樂機關

◆本町は　**ラヂウム**鑛泉の湧出　荒川畔の勝景　流れ清き荒川の遊泳場等を以て　東京郊外隨一の樂天地として其名高く都人士の杖を曳くもの四時絕へない。

○今當町に於ける娛樂機關の二三擧げて見やう。

四季清遊の樂天地
荒川遊園地
王子電車荒川遊園地北一町

◇本園は一般の人々に精神の慰安と身体の健康を得さしめんとの趣意に基いて企圖せられ、廣岡勘兵衞氏横山氏　石井彌吉氏　石神與八氏　關口常右衞門氏等の盡力により、荒川沿岸に二萬坪の地を劃し巨資を投じて創設したので大正十一年五月十三日開園の式を擧げたのである。

園內には大小の樹木鬱蒼として茂り、岳には蒼々たる松、柏、杉、ツツジ、櫻、草花等の樹木點々相交へて四季の眺望と花紛複郁として都の風塵を掃て野趣深きものあり　中央七千餘坪の大池は　水清く舟遊を自由になさしめ、幅員三十間の瀑布は巖上樹々の間を飛沫の霧を散し、轟々として岩石を碎くるの思ひをなさしむ、凡ゆる粹を極めし百疊敷の大廣間は荒川の眞帆、片帆を手に採るが如く眺め、又池畔には數寄を凝らせし風流なる茶亭、小座敷點々として造られ其風景佳絕筆紙に盡しがたく、四千餘坪の運動場には運動器具を備へ、三箇のテニスコートを設け數多の動物を飼養して兒童の眼を喜ばしむ。

園內大舞台には日每に餘興を演じ趣味と演藝とに歎樂おく能はざらしむ

尾久グラウンド

荒川遊園前電停際

◇尾久グラウンドは、東京野球倶樂部が、荒川遊園地前停留場際に一萬五千坪の地を借り受け　運動奬勵の意味に於て、同好會員を募り、甲種會員は一口百圓宛、乙種會員は一口五拾圓宛　一千口を募り拾萬圓を據出して起工し、大正十一年十二月竣工し同月十九日開場式を行つたもので理想的の野球場である、發會式當日の初試合には明石文部省次官の始球式あり觀衆無量と註せられたものである。

高級常設活動 尾久館

小台停留場

◇高級常設活動尾久館は開館以來大々的の好評を博して居る、それは映畵の刷新と館員の精勵の賜である然して活動寫眞館の設立が如何にその土地の發展と其近隣を利潤せしむるかは、今更云ふ迄もないが、同館の開設されて以來この附近の人家は何營業によらず、繁榮を極めて居るは此意味に外ならない、當館は本町の有志小泉喜左衞門、勝村幾之介鈴木重三郎諸氏其他の有志が親交ある隣町三河島高梨定吉氏が土地多數の人々の懇望によつて建設することゝなり、自ら心を籠めて建築したもので、大正十二年一月開館式を擧げたのである。

高級活動常設 尾久萬歲館

下尾久電停より南へ一丁

◇尾久萬歲館の建設されてある附近一帶が田畑であつたが、同館開設されてから其近隣は、商家軒を並べ當町樞要の商業地帶となつて、萬歲館の盛況と共に各商店も非常に繁榮して居る。

萬歲活動寫眞株式會社は大正九年の春、王子椣町に自來商を營んでゐた、島村信廣氏が町民娯樂機關の必要を感じ活動寫眞館の新設を志し、同志仁科金太郎　岡本善次郎　長谷川義磨　中林藤吉　椣本與次郎氏等と共に發起となり　資本金五萬圓を以て株式組織となし王子椣町に活動寫眞館を建設し、大正九年十二月開館の運びとなり王子萬歲館と稱し盛況を極め大正十年更に新株七萬圓を增株し瀧野川に瀧野川萬歲館を新築し同十一年四月王子萬歲館の改築尾久及び赤羽に萬歲館を新築の爲め　更に新株八萬圓を增資し資本金二十萬圓となし　同年九月十二日赤羽演藝館を買收して赤羽萬歲館とし　尾久萬歲館は前記の如く新築し　尚西ヶ原には元澤田學校跡を買收して西ヶ原萬歲館となし　何れも好評を博して居る　當會社は郡内智識階級の前瀧野川町長越部淺五郎氏とか郡會議長椣本鉦太郎氏とか小峰茂之氏有馬淺雄氏等多數の株主重役として將來の發展を期して居る。

現在の重役は社長島村信廣　常務取締田邊恭平　取締役春日誠一　石山太郎吉　椣本保次　監査役島村義三　鈴木甚之助諸氏である。

◆ラヂウム鑛泉と二業組合の沿革

◇ラヂウム鑛泉の發見は當町發展のために大なる力であるが　藝妓屋地帶としての指定を得たことも確に一勢力を添へたのである　今その兩者の沿革を稽ふるに　ラヂウム鑛泉の發見は極めて偶然であつた　不老閣の前身たる碩雲寺住職故松岡大機なるものが　寺内に鑿井したる水の非常に澄み渡り清らかなるが故　燒酎の釀造に適する事と、是れに志し　大正三年八月衛生試驗場に依頼して　其水質の適否を檢査して貰つたところ　偶々其水中にラヂウム、エマナチオンが多量に含有してゐることが發見されたので　玆に初めて寺の湯を開業する事となつた、是れがラヂウム鑛泉の第一歩で寺の湯が其元祖である。

其後保生舘　大河亭　小泉園とそれから、それとラヂウム温泉旅舘が生れて今日の盛況となつたのである。

斯くして温泉旅舘は順調に發展して來たが　温泉につきものゝ湯女のないので現旭舘主野々垣氏が大正九年三月遊藝師匠を他に置いて、客の需めに應じて歡興を添ることゝなつたが、藝妓類似のものを指定地以外に置くことは廳令に反くものと其筋から注意のあつたので、玆に同氏は遊藝師匠の表看板を掲げてこれに營業さす計畫と手段方法を盡して居たところ、この時恰も王子町藝妓やと料理やとの間に紛擾があつて箱止め騒ぎの際なので王子藝妓は尾久の狀態を聞いて、藝妓の供給に應しよふから遊藝師匠の計畫を中止して呉れと申込んできたので、大河亭や熱海等ではこれを納れることになつたが　其他は自分の計畫を進め漸次師匠の數は增し、遂に四十名に餘る數を算するに到つた。

併し大正十一年には警視廳令でこれが禁止を見る樣な形勢となつたので　旭舘主光泉閣主等が奔走して藝妓家指定地を申請仕やうと苦心の結果旭舘、光泉閣、大河亭、川端やの四軒で大正十一年一月十八日附、當町千八百五十七番地一千二百四十坪の地を指定地として認可されるの運びとなり　これへ鈴木重三郎氏が立會で小泉金之助氏や熱海舘主等が五千圓を出して加盟するといふやうになつて愈々公然なる藝妓屋が出來るやうになつた譯である。

その後藝妓屋の數を增すに從つて組合組織の必要を認め生れ出たのが二業組合である。

當時の組合長は小泉園主で理事としては料理屋側から大河亭主人、川端屋主人、不老閣主人、花柳界主人の四名、藝妓家側から三河屋主人、福本主人、千代本主人、橋屋主人の四名である。

◆尾久二業組合と尾久二業相互組合

◇前述の如き尾久二業組合の成り立ちであるが、花柳界の發達は素晴らしき勢ひを以てその數を增し、玆に治立上幾多の紛擾を生じ、時日を經るに從ひ紛擾擴大を釀し、遂に二派に分離して尾久二業相互組合は大正十三年十二月創設を見るに至つた。

◇現在尾久二業相互組合の藝妓家並に藝妓は左の表の通りである。

尾久二業相互組合大正十四年一月現在藝妓連名表

松くん	小六 小糸 小かめ 貞子 小まち 小つる 小花	春日家	春奴 千代駒 半こづち
つた家	都 まねぎ 半すゞめ		
瓢くい	きん次 清香 ひろ 瓢たん 時丸	勝本	福助 一若 一龍 勝彌 勝奴 梅香
袋きわ家	一松 てるゑ	梅よしの家	百合香
初音家	千代治 千成 とし榮 六福 半音丸	萬家	萬助 萬福 小萬 萬太郎 半萬子
岡むら家	菊五郎 まさ子 初榮	松甲子	松助 〃奴
春本	春千代	松葉家	お葉 一丸
分大和	小さん おはん 半とん子	よし本	ゆき榮 芳助
花家	つや次 喜の治	増多家	松駒
分小泉	花助 竹次 小ぶみ あたり	あから家	一二三
松富士の家	富士松	竹の家	玉丸 久松
河内家	半おもちや 〃吉 小判 半小茶目		

藤家	榮龍 求女	榮家	榮次郎 榮子 榮太郎 三平
宮本	とき松	ひさご家	吉次 つま子 梅太郎 ひさご 梅吉 金太郎 半太子
富士の家	富士子	君の家	君香 君鶴
緑家	金太 小太郎	森布袋	峯子 文香 小〃
福惠比壽	才造 福丸 三太郎	三富家	今助 多助
あつま家	奴 かきつ	鈴よし	清子 小鈴
福富	咲松 菊丸 三勝 小雛 半米丸	三河家	ぼたん あい子 さん八
美よし家	すゞ子 六琴 半福々	末廣家	金八 美壽次
文橋家	金三	三舛家	喜樂 半おきな
光三河	小光	鈴本	はま子 褒似
清の家	榮壽 清丸 小一 榮 太郎 玉奴 半うさぎ 半小ねこ	秀の家	秀松 秀香 秀丸

◈診療科目
◈内科 ◈小兒科
◈外科 ◈花柳病科
澁谷醫院
◈入院隨意
院長 慈惠醫學士 澁谷善吉
上尾久八幡町

◈口腔外科 ◈齒科一般
山下齒科醫院
院長 山下鷹治
下谷區龍泉寺町四一〇
電話淺草五二五四番

◈晝夜撮影 ◈現像引伸
◈出張撮影
眞野寫眞館
舘主 眞野貞一
尾久美容園
園主 眞野房子

◈文房具 ◈事務用品
◈運動具 ◈樂器
地球印萬年筆發賣元
地球堂
下尾久本町通り

◈襖 ◈建具類
製造卸販賣
中金中商店
下尾久三三七（大門學校前）

◈城南正宗發賣元
三堯
上尾久沼付二一五〇

ヱビスビール
金線サイダー
酒の司 大關
酒類醬油問屋
水谷清太郎商店
荒川遊園前

◈御手輕御料理
幾千代
上尾久朝日町櫻新道

鉄管
継手
ポンプ
卸商

加藤鐵管店

店主 加藤由太郎

上尾久溝向二三二八

本店南千住三の輪三三

▲諸機械及

▲自轉車附属品製作販賣

大里鉄工所

下尾久大門一二八一

大正十四年三月廿九日印刷

大正十四年四月一日發行

東京府北豊島郡尾久町
上尾久二五六六番地
著作兼
發行人 藤城定吉

東京府北豊島郡尾久町
下尾久九七番地
印刷人 大塲勇

尾久要覽

定價金五圓

534
61

終